

資料

(平成十九年十一月)

第五十二回「合宿教室」(奈良「信貴山」)感想文集

——日本人としての自覚をもとめて——

社団法人 国民文化研究会

回数	年度	開催地	参加人員	主 要 講 師
1	昭和31年	霧 島	92	広田洋二・日下藤吾・川井修治
2	〃 32年	福 岡	127	竹山道雄・高山岩男・浅野晃
3	〃 33年	佐 賀	72	勝部真長・木下彪・森三十郎
4	〃 34年	阿 蘇	160	花田大五郎・中山優・野口恒雄
5	〃 35年	雲 仙	200	木内信胤・花田大五郎・佐藤慎一郎
6	〃 36年	雲 仙	203	小林秀雄・木内信胤・津下正章
7	〃 37年	阿 蘇	215	福田恆存・木内信胤・黒岩一郎
8	〃 38年	雲 仙	202	竹山道雄・木内信胤・木下広居
9	〃 39年	桜 島	202	小林秀雄・広田洋二・木内信胤
10	〃 40年	大 分	215	岡潔・花見達二・木内信胤・夜久正雄
11	〃 41年	雲 仙	240	福田恆存・木内信胤・戸川尚
12	〃 42年	阿 蘇	336	林房雄・太田耕造・木内信胤
13	〃 43年	霧 島	353	竹山道雄・高谷覚蔵・木内信胤
14	〃 44年	阿 蘇	403	岡潔・木内信胤・木下道雄・奥田克巳
15	〃 45年	雲 仙	491	小林秀雄・木内信胤・桑原暁一
16	〃 46年	霧 島	302	村松剛・木内信胤・戸田義雄
17	〃 47年	阿 蘇	402	木内信胤・山本勝市・胡蘭成
18	〃 48年	雲 仙	433	村松剛・木内信胤・山口宗之
19	〃 49年	霧 島	528	小林秀雄・木内信胤・戸田義雄
20	〃 50年	阿 蘇	435	福田恆存・木内信胤・夜久正雄
21	〃 51年	佐世保	372	長谷川才次・村松剛・木内信胤
22	〃 52年	雲 仙	332	木内信胤・衛藤藩吉・高木尚一
23	〃 53年	阿 蘇	440	小林秀雄・木内信胤・松本唯一
24	〃 54年	霧 島	268	木内信胤・高山岩男・山田輝彦
25	〃 55年	雲 仙	431	福田恆存・法眼晋作・宝辺正久
26	〃 56年	阿 蘇	353	齋藤忠・村松剛・青砥宏一
27	〃 57年	霧 島	321	齋藤忠・黛敏郎・幡掛正浩
28	〃 58年	雲 仙	327	齋藤忠・小堀桂一郎・長内俊平
29	〃 59年	阿 蘇	302	吉岡一郎・小堀桂一郎・加納祐五
30	〃 60年	阿 蘇	249	市原豊太・高村坂彦・小田村四郎
31	〃 61年	島 原	294	江藤淳・村松剛・小柳陽太郎
32	〃 62年	阿 蘇	269	小堀桂一郎・鈴木一・關正臣
33	〃 63年	島 原	227	児島襄・小堀桂一郎・加納祐五
34	平成元年	島 原	204	村松剛・山田輝彦・国武忠彦
35	〃 2年	阿 蘇	204	黛敏郎・小柳陽太郎・占部賢志
36	〃 3年	厚 木	244	田久保忠衛・国武忠彦・山内健生
37	〃 4年	阿 蘇	257	村松剛・平川祐弘・奥富修一
38	〃 5年	厚 木	271	村松剛・佐伯彰一・白濱裕
39	〃 6年	阿 蘇	253	徳岡孝夫・小堀桂一郎・絹田洋一
40	〃 7年	厚 木	240	小川三夫・長谷川三千子・東中野修道
41	〃 8年	阿 蘇	171	竹本忠雄・伊藤哲夫・坂口秀俊
42	〃 9年	厚 木	213	西尾幹二・竹本忠雄・酒村總一郎
43	〃 10年	阿 蘇	193	小堀桂一郎・徳岡孝夫・志賀建一郎
44	〃 11年	富 士	178	井尻千男・長谷川三千子・山口秀範
45	〃 12年	阿 蘇	154	小堀桂一郎・東中野修道・布瀬雅義
46	〃 13年	富 士	150	伊藤哲夫・長谷川三千子・小野吉宣
47	〃 14年	江田島	244	中西輝政・山内健生・青山直幸
48	〃 15年	富 士	171	小堀桂一郎・伊藤哲夫・占部賢志
49	〃 16年	阿 蘇	169	中西輝政・小田村四郎
50	〃 17年	伊 勢	219	長谷川三千子・松浦光修
51	〃 18年	霧 島	191	井尻千男・吉田好克・占部賢志
52	〃 19年	奈 良	175	小堀桂一郎・小川三夫・小野吉宣

第五十二回 『合宿教室（奈良「信貴山」）』全参加者の感想文と短歌詠草



と き 平成十九年八月十六日（木）から十九日（日）まで三泊四日間

と ころ 奈良県生駒郡「信貴山大本山 玉蔵院」

参加総数 一七五名

目 次

『はしがき』に代へて	……………	理事長 上村和男	2
大学別参加者数・その他の人数の内訳	……………		5
『合宿教室』の日程表（三泊四日）	……………		6
第52回『合宿教室』のあらまし	……………		7
走り書きの『感想文』と第二回目の『短歌詠草』	……………	参加者全員	25
短歌詠草（合宿中の創作作品）	……………	参加者全員	93
あとがき	……………		111
カメラ・レポート27枚（27ページから79ページの左頁に掲載）	……………		

# “はしがき”に代へて

（旧国民文化研究会理事長（東海ゴム工業㈱・顧問）

上村和男

昭和三十一年の本会創立以来、第五十二回を迎へての「合宿教室」は本年八月十六日から十九日の三泊四日間、聖徳太子縁りの地である奈良県生駒郡平群町の「信貴山・玉蔵院」にて行はれました。山の中の合宿は今夏の酷暑を他所に涼しく快適で、しかも聖徳太子を勉強する良い機会にもなり充実した内容のものとなりました。

大學生を中心に百八十名の参加者は旅装を解く間もなく開会式に臨み、主催者を代表して小田村四郎会長が、六十二年前の八月十五日に玉音放送された終戦の詔書に触れられ「現状の日本は国家としての体をなしてない。この合宿に於いて占領政策によつて失なはれた祖国日本の真の姿を見出す切つ掛けにして欲しい」と挨拶されました。また、参加学生を代表して九州工業大学四年瀬木裕太郎君は「お互ひの思ひを真剣に語り合ひ、共感し合へる充実した合宿にしたい」と参加者に呼び掛けました。

全参加者は日程が進むにつれ、この合宿は「自分から進んで飛び込んでいかなくは」との思ひに自然に誘はれて行つたやうです。さうした思ひがこの感想文集に現はれてゐます。

「今迄、学校で習つてきた歴史教育は正しいと思つてゐたが、この合宿で何かおかしいと気付かされ、日本の歴史をもう一度勉強仕直さう」といふ学生が多くゐました。十数年前は「合宿教室」を契機に歴史を「勉強仕直さう」などといふ学生は少なかった。「合宿教室」を経験することによつて、徐々に正しい国の歴史や姿を理解していく学生が増えていくことはうれしき限りで「合宿教室」の営みの意義はそこにあるといへます。

今回講師としてお招きした東京大学名誉教授で本会の顧問でもある小堀桂一郎先生は「聖徳太子の憲法と日本の國体」との演題で太子によつて外来思想の仏法と日本の神道とが統一されたことをご講義されました。「仏法が渡来してくる以前は日本の神々のご意向により社会生活が行はれてきたが、社会生活が複雑化するに従つて仏法思想によつて世の事象を説明するやうになり日本民族の精神生活は画期的な深みを帯びることとなつた」と説明されました。さらに十七条憲法にも触れられ、第一条は「論じ

合つてゐる中に理が見えて来る」といふ理性的思惟の起こりがこの一条であり、三条、四条は太子の「国体観」を述べたものであると指摘されました。太子の十七条憲法の精神が今日の日本の政治に生かされることを希求するのは決して私一人ではないと思ひます。

「合宿教室」を開催した当初は本会の前身である旧制第一高等学校の学内文化団体「高昭信会」の創立者・黒上正一郎先生の御著書『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』の輪説が必ず行はれてゐました。しかしその後、難解な文章でもあり、また学校教育の学力低下とも相俟つて輪説は行はれなくなつてしまひました。しかし十数年振りに岸本弘会員（元富山県立工業高校教諭）によつて同書の輪説導入講義が行はれ、その後、班に別れて太子の「和の精神」についてそのお心を偲びつつ輪説が行はれました。

続ひて鶴工舎代表の小川三夫先生により、法隆寺宮大工・故西岡常一棟梁の内弟子として法隆寺の大修理に携はつた御経験に触れながら御講話が行はれました。「物を作ればそれが形となつて現はれ後世に残る。だから下手は下手なりに精一杯、物を作れば職人の心と工夫は次の世代に伝はる。法隆寺の大修理の際、現場の職人は飛鳥時代の工人達と話ができた」と人生に於ける物と心に関する至言を語られ、先生の一言一言が参加者の心に沁み込んで強い感銘を与へました。現代の教育が見失つてきた、心を働かし練磨することの大切さを教へられ、また、生きた学問はさうしなければ生まれません。現代の教育が見失つてきた。

この合宿生活を通じて参加者の多くの方々は「学ぶといふことは一体どういふことなのか」、「知識の伝達が主となつてゐる現代日本の大学はこれで良いのか」さらには「人と交るにはどういふ心掛けで心を整へて相対すべきか」等々、様々な思ひを持たれたことでせう。そしてそれらの答へを心の底に少しでも感得して下されば、今後の学生生活や社会生活の中で、今の世の中の何処に欠陥が宿つてゐるか必ず気付くことが出来ると思ひます。

時恰も安倍総理が憲法改正や教育基本法を真正面から取上げ、「戦後体制からの脱却」なくしては日本は世界に誇れる真の独立国になれない、と国民に訴へ続けてきました。しかし参議院選挙は自民党の大敗となり、突然の辞任は晴天の霹靂で誠に残念でなりません。「戦後体制からの脱却」といふことは取りも直さず占領政策の呪縛を解き、正しい日本の文化伝統に基づいた国

造りを目指すことに他なりません。安倍総理の辞任により国家の進路が見えにくくなり政局は不安定さを増してくるであらうが安倍総理の思ひは繋げていかねばなりません。さうでなければ日本は国家としての「体」を失ふことになるからです。

此の感想文集によって三泊四日の短い合宿ではありますが、起居を共にした班友の思ひが分ります。真剣に一つのことを考へ、そこに友情が生まれ、共に国を思ふ同胞感が芽生えてきた方々、他方、戸惑ひを感じた方々もゐらっしゃつたでせう。現在の学園では味合ふことのできない実感をこの「走り書き」感想文は示してゐます。是非とも御一読たまはりたいと存じます。

なほ、紙面の都合上、全文を載せられなかったことは何卒ご容赦いただきたく存じます。またこの文集作成のために休日割いて取組んでくれました会員の皆さん（編集後記に記載）、そして合宿の運営委員長の内海勝彦さん並びに運営委員の方々、指揮班長の庭本秀一郎さんと指揮班の方々のご苦勞に心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、この合宿事業を行うにあたり、本年もまた、各界からお寄せ戴いた得難いご支援に対しまして心から厚く御礼申し上げます。

来年（平成二十年）の「第五十三回合宿教室」は八月二十一日（木）～二十四日（日）までの三泊四日間

「伊勢神宮会館」（三重県伊勢市）で開催されます。合宿運営委員長には折田豊生本会参加があたります。

何卒、皆様ご参加くださるやうお願いいたします。



第52回全国学生青年合宿教室（平成19年8／16～8／19）於「信貴山大本山 玉蔵院」

参加者

（学生班 三十三大学、二専門学校）（洋数字は参加学生数）

北海道大学 2 東北大学 1 筑波大学 1 東京大学 1

防衛大学校 1 青山学院大学 2 亜細亜大学 1 杏林大学 1

国学院大学 2 国士館大学 1 首都大学東京 1 成蹊大学 1

玉川大学 1 東京農工大 1 日本大学 1 早稲田大学 1

麗澤大学 1 二葉栄養専門学校 1 富山県立大学 1

高山短期大学 1 京都大学 2 京都建築大学院 1

大阪工業大学 1 甲南大学 1 国立水産大学院 1

下関市立大学 1 九州工業大学 4 九州大学 1 福岡教育大学 1

西南学院大学 1 中村学園大学 2 平岡栄養士専門学校 1

久留米大学 1 佐賀大学 1 熊本大学 3

計 四十五名（うち女子八名）

（社会人参加者） 四十名（うち女子十一名）

（招聘講師） 二名

（国民文化研究会） 八十名

（事務局） 五名

（見学者・慰霊祭協力） 八名

総計 一八〇名

社国民文化研究会・大学教育有志協議会 主催  
**第52回（平成19年）全国学生青年“合宿教室”日程表**

8月16日(木)	8月17日(金)	8月18日(土)	8月19日(日)
6:00	起床・洗面	起床・洗面	起床・洗面
7:00	朝の集ひ	朝の集ひ	朝の集ひ
8:00	朝食	朝食	朝食
9:00	講義 「聖徳太子の憲法と日本の國體」 東京大学 名誉教授 小畑桂一郎 先生	講義 「皇室と国民、御製にふれて」 福岡県立直方高等学校 教諭 小野吉宣 先生	合宿を顧みて 国民文化研究会 副理事長 今林賢部 氏 運営委員長挨拶 運営委員長 内海勝彦 氏
10:00	質疑応答	質疑応答	全体感想自由発表
11:00	随時受付	随時受付	随時受付
12:00	開会式：14時00分開始	開会式：14時00分開始	開会式：14時00分開始
13:00	開会式 (挨拶) 国民文化研究会 会長 小田村四郎 氏 (玉蔵院貴主殿ご挨拶) オリエンテーション (合宿趣旨説明及び諸注意伝達) 合宿教室運営委員長 内海 勝彦 氏 合宿教室指揮部長 庭本秀一郎 氏	開会式 (挨拶) 国民文化研究会 理事長 上村和男 氏	開会式 (挨拶) 国民文化研究会 理事長 上村和男 氏
14:00	短歌創作導入講義 防衛省 装備本部長崎支隊首長検査官 鉦 信弘 先生	創作短歌全体批評 山口県立熊毛南高等学校 教諭 青渡矢太郎 先生	閉会式 (挨拶) 国民文化研究会 理事長 上村和男 氏
15:00	バス移動	バス移動	解散
16:00	野外研修・短歌創作 ●法隆寺見学 ●写真撮影 ●短歌創作	野外研修・短歌創作 ●法隆寺見学 ●写真撮影 ●短歌創作	野外研修・短歌創作 ●法隆寺見学 ●写真撮影 ●短歌創作
17:00	バス移動 (短歌提出)	バス移動 (短歌提出)	バス移動 (短歌提出)
18:00	夕食 入浴 休憩	夕食 入浴 休憩	夕食 入浴 休憩
19:00	歴史講義 「日出づる國 日本の來歴」 福岡県立太宰府高等学校 教諭 占部賢志 先生	古典輪談導入講義 「聖徳太子の信仰思想と日本文化創業」の輪談にあたって 元 富山県立富山工業高等学校 教諭 岸本 弘 先生	歴史講義 「日出づる國 日本の來歴」 福岡県立太宰府高等学校 教諭 占部賢志 先生
20:00	班別研修	班別研修	班別研修
21:00	班別輪談	班別輪談	班別輪談
22:00	就寝	就寝	就寝
23:00	消灯	消灯	消灯



# 第五十二回 “合宿教室” のあらまし

## 第一日目

(八月十六日・木曜日)

第五十二回全国学生青年合宿教室は、奈良県生駒郡の「信貴山大本山玉蔵院」にて開催された。当山は、千四百余年前、聖徳太子が物部守屋討伐の戦勝祈願をされた際、毘沙門天王が現出した山であり、その御加護を以って勝利された太子は、感謝の辞を表し天王の尊像を安置し寺院を建立して、信ずべき貴ぶべき山・信貴山と名づけられた。遠く大和平野を望む、靈驗あらたかなこの地に、それぞれの思ひを胸に全国から集ひ来た参加者は、受付を済ませると速やかに開会式へと臨んだ。ここに三泊四日の合宿教室は幕を開けた。

## 開会式

成蹊大学三年亀澤矢汐君の開会宣言の後、主催者を代表して小田村四郎会長は「今日は八月十六日だが、六十二年前の昨日八月十五日、終戦の詔書が発せられ議会は『承詔必謹の決議』を以てお応へ申し上げたはずなのに、現在は国家の問題がすっかり忘れ去られてゐる。一般の参院選でも、北朝鮮の核実験、中国やロシアの軍拡などに、どう対処すべきかが論じられることはなかった。日本はどういふ国なのか。古き時代から一貫して変らないものは何なのか。この合宿を戦後の占領政策によって損はれ

た歴史の真姿に近づく切掛けにして欲しい」と挨拶した。次いで玉蔵院の野沢密孝貫主様から「自分を信じることで他者へ思ひが及ぶものだが、周りの人間を思ふ仏の心に近づけるやうお励みいただきたい」と励ましの御挨拶を戴いた。参加学生を代表して九州工業大学四年瀬木裕太郎君は「互ひの思ひを真剣に語り合ひ、共感し合へる充実した合宿にしよう」と述べた。

開会式の後、オリエンテーションが行はれ、内海勝彦合宿運営委員長より合宿趣旨説明が、また庭本秀一郎指揮班長より諸注意伝達が行はれた。

## 合宿導入講義 「世界の情勢をどのやうに見るか」

防衛大学校 安全保障・危機管理教育センター長 太田 文雄 先生



先生は、「世界における日本のあり方を考える」といふことが研修テーマの一つになってみると前置きされ、「第一次大戦末期から心理戦思想戦の比重が高まり、今日では『銃後』といふ考へ方は無くなり、冷戦後の現代においては何でもありの戦ひが展開されてゐる」と現実の国際関係を指摘された。それは国際テロや大量破壊兵器の拡散、サイバー攻撃といった国境を越えた脅威の出現に見られる通りであり、中国の国防大学では禿鷹ハゲタカファンドの研究がなされ、その『軍事科学テキスト』には「戦争は軍事抗争だけでなく政治、経済、外交、法律の総合戦である」と書かれてゐるといふ。更に技術スパイの日本企業への工作だけでなく、「文化、思想、道徳も戦ひの手段」となつてゐる実態を、各国の大学や研究機関への浸透、ロビイング（ロビー活動）、デイスインフォメーション（「南京虐殺」などのエセ情報の流布）、アフリカ・中南米・東南アジアへの外交進出等々を例に指摘された。

そして、「軍だけでは安全保障は全うすることはできず、国益を損はないためには、一人一人の日本人が国民としてのアイデンティティをしっかりと持ち、カネや保身のために秘密情報を渡すことはしないといふ国防への自覚を共有することが不可欠な時

代となつてゐる」と結ばれた。

講義終了後、参加者は各班室に戻り、導入講義について班別研修を行った。まづ皆で講義内容を正確にたどりながら、講師の最も伝へたかつたこと、重要なことは何かを話し合ひ、さらに班員一人／＼がどのやうに受け止めたかについて話し合ひがすすめられた。なほ、この班別研修は、以後の各講義の後にも続けて行はれた。お互ひ初対面のせるか、初めのうちは緊張して意見も少なく発言も限られてゐたが、お互ひに打ち解けるに従ひ次第に討論も活発となり、時に反論し時に共感し合ひながら、班員相互の交流が深められていった。

## 歴史講義

### 「日出づる國 日本の来歴」

福岡県立太宰府高等学校教諭

占 部 賢 志 先生



先生は、まづ初めに、「日出づる処の天子」云々の国書を持参した遣隋使小野妹子の派遣が隋・高句麗の関係を察知した上で練りに練られた外交展開であつたことを述べられた。続いて十七条憲法の第一条「和を以て貴しと為す」と『論語』の説く「和」との差異を「類似の語句があるから影響された」と直ぐに結論づけるのではなく、大切なことは何が書かれてゐるかではなく、どう書かれてゐるかといふことを読み取ることだ」「一見似てゐるやうでも意味をたどると、国政を預かる指導者としての太子の心眼からくる御解釈があるのだ。現代の学者はこれを見落としてゐる。」と、太子の仏典研究「三経義疏」の受けとめ方にまで関連して現代学界の傾向を批判された。

太子敬慕の念は、奈良・平安・鎌倉時代に限らず歴史を貫いてゐて、大正時代に水平社宣言を起草した西光万吉も篤く太子を敬慕してをり「部落解放を支へたものは聖徳太子であり山背大兄王であつた」と指摘された。

太子は中華秩序からの独立を宣言したが、その後の白村江の戦（六六三）では防人の配置・水城の築造・畿外への遷都など国

防システムを構築して国家としての覚悟と構へを示してゐる。さらに「八、十世紀に大陸に渡つた日本人は、官吏も僧侶も万世一系の国柄を誇りとしたから、実情を知つた宋の太宗は『一姓継を伝へる』日本の皇室を讃へるまでになつた。古くから『倭』の字を当ててゐたが八世紀には『日本』と表記することになつた」と史料を紹介しつつ述べられた。そして明治初年の対清外交で、その非礼をたしなめる外務卿副島種臣が引いたのは太子の故事であつたと語られた。

## 第二日目

(八月十七日・金曜日)

早朝六時半、合宿の日程は「朝の集ひ」から始まる。清やかな山気に満ちた広場に参加者一同が整列すると、国旗掲揚、国歌斉唱、ラヂオ体操が行はれ、一日の研修を新たに迎へた。

なほ、朝の集ひの後、森田仁士会員の指導で参加者一同で唱歌を歌つた。合宿中歌つた唱歌名は左記の通りである。

八月十七日 我は海の子

八月十八日 冬の夜、四条畷

八月十九日 水師營の会見

## 講義 「聖徳太子の憲法と日本の國體」

東京大学名誉教授 小堀 桂一郎 先生

先生は、人間はどのやうにして「物を考へる」習慣と「考へる力」を身につけるに至つたのか、といふことから御講義を始めた。思考の初期の段階は素朴なもので、日本の神話的思考も事の成就を神に頼むといふ、神々への畏敬のこころを表すものであつただらう。しかし社会生活の複雑化に伴つて神々のご意向だけでは済まない状況になつてきた。そこにこの世の事象を



説明する佛法が渡来して日本民族の精神生活は画期的な深みを帯びることになった」。そして佛法の摂理を人が世に生きる上での道徳的指針として積極的な性格に転化されたのが聖徳太子であるとして「十

七条憲法」に話を進められた。

第一条へ：然れども上和らぎ、下睦びて、ことあげつら事を論ふに諧かなへば、則ち事理ことはおのづか自らに通ふ。何事か成ら

ざらむについて、「これは論じ合つてゐる内に『理』が見えてくるといふことだが、慈円は愚管抄で

たわけて、日本における『理性的思惟』の起りがこの第一条である」と述べられた。更に十七条憲法は太子の国家観、国家原理

の構想を示されたものであると言及され、第三条へ詔を承はりては必ず謹め、第十五条へ私を背きて公に向くは、是れ臣の道

なり等について、藤田幽谷の「正名論」にも触れられながら、名分は人倫の秩序であり、これは第三条に通ふものであり、第

十五条は論理的であり、それは自然の秩序に沿ふものであると述べられた。

また第三条「承詔必謹」と「終戦の詔書」奉戴の事実との内的関連にもお触れになり、太子憲法が「日本の国体」を貫いて現

代に生きてゐることを想起させられる御講義であった。

## 講話 「不揃ひの木を組む」

いかるが 鵜工舎代表 小川三夫 先生



先生は、まづ高校の修学旅行で初めて法隆寺を訪れ五重塔を仰ぎ見た時、「この塔はデータではなく作らうとする信念で建てられたものだ」と直感し、自分も宮大工になりたいと西岡常一棟梁の門を叩くに到ったいきさつを語られた。


西岡棟梁の「煎じて煎じ詰めれば最後は勅」といふ言葉を紹介され、「何年修行しても道具の刃を一

点の曇りも無く研ぐ事は難しいが、そこから大工としての研ぎ澄まされた精神は養はれる」と述べられた。職人の心構へについては、「物を作ればそれが形として現はれ後に残る。だから今できることを、下手は下手なりに精一杯やっておくことが大切で、嘘偽りのない物を作ると自分自身に言ひ聞かせて精一杯取り組めば、次の世代に職人の心と工夫が伝はる。法隆寺の昭和大修理の際、現場の職人は飛鳥の工人達と話ができた。本物を作っておけば技術は蘇るものです」と語られた。また若い職人のたまご達が寝食を共にする生活の中で、「他者への心遣ひ」をごく自然に身に付けて行く姿を紹介され、現在の豊かな日本の教育が見失ったものを示唆されたことも印象的であった。

最後にヤリガンナで巧みに木を削られ、促された参加者が壇上に上がって実際に削ってみるといふ予期しない展開もあった。

## 短歌創作導入講義

防衛省装備本部長崎支部首席検査官 鏝 信弘 先生



短歌創作を兼ねた法隆寺での野外研修を前にして、先生は「短歌を作ることは、現実をありのままに見る目を養ひ概念的な思考を正すといふ大変重要な意味を持つてをり、それは心と心、現代人の心と歴史をつなぐものでもある」と説かれた。短歌創作に当っては、使ひ慣れない難しい言葉を使ふ必要はなく、自分が感動してゐるそのことに思ひを集中して感じたままを詠むこと、五七五七七の三十一音に一つの内容を一息に詠むこと、文語表現の方が言葉が洗練され深みと重みのあるものになること等々が述べられ、「感じたことをありのままに詠むことが短歌創作の基本です」と、懇切に説かれた。

バスで法隆寺に移動した参加者はまづ中門前で小堀桂一郎先生と小川三夫先生を中心にして記念の集合写真に収った。その後  
は小川先生から五重塔・金堂・回廊の順で解説がなされ、改めて千三百年前（飛鳥時代）の工人の偉大な技を胸に刻んだ。御解  
説のあとには班ごとに大宝蔵院から東院伽藍（夢殿）へと境内を巡った。

## 古典輪読導入講義 『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』の輪読にあたって

元富山県立富山工業高等学校教諭 岸本 弘 先生



先生は当会の源流である黒上正一郎先生著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』を輪読した学生時代の経験を語りつつ講義をすすめられた。「体育会系の仲間達と、頭で理解するといふよりも体と体をぶつけるやうに体で読んできた」とその体験を語られ、同書百五頁の『世間せけん虚仮けい唯佛ゆいぶつ是真ぜしん』とは太子が時に自ら御夫人にのらししところであつて「から始まる箇所を取り上げ、一語一語を丹念にたどりつつ、聖徳太子、およびそのご遺言を守つて蘇我入鹿襲撃に対して一命を捨てて国を固くせんとされた山背大兄王の悲劇的な生涯とその遺されたお言葉を味読された。またこの日見学した法隆寺五重塔の美しさは「上求菩提下化衆生」の太子のご精神を今に伝えるものだとする故桑原暎一先生の文章を紹介され、「相共により高きものを志向する」太子の「和の精神」についても語られた。

さらに、太子が御夫人の死を悼まれた「いかるがの富の井の水」のお歌、防人の歌、明治天皇の御製、今の皇后様のお歌などを味はひつつ、「聖徳太子が仰がれる『仏』とは、日本人の大切にしてきた真心であり、まことではないでせうか」と、人々と共に生きていくことの尊さを黒上先生の御本のうちに求められたのであつた。

講義の後、参加者は各班に分かれて輪読研修を行った。岸本先生のご講義を振り返りながら、紹介された文章を皆で声に出して読み味はっていった。文章のリズムに作者の思ひを偲ぶ貴重なひとときであった。

第三日目

(八月十八日・土曜日)

講義 「皇室と国民、御製にふれて」

福岡県立直方高等学校教諭 小野 吉宣 先生



冒頭、先生は戦勝国アメリカが一方的に強要した日本国憲法のをかしさを指摘され、「今なほそこに正義があるかのやうな論評を続けるマスコミは異常と言ふ他はない」と批判された。かつてイギリスのチャーチル元首相が皇太子殿下（今上陛下）に対して鄭重なる態度を示した事実を報道写真で紹介され、国民が互ひに精一杯努力し合ひ睦び合ふ横糸と皇統連綿の歴史からくる縦糸があつて誇りと自信が生れると語られた。そして明治天皇の御製を拝誦し、国民と一緒に歩まれたお気持ちをお偲びすることの大切さを説かれた。又、満鮮事情視察の密命を帯びて大陸に渡った若き日の広田弘毅の逸話を紹介されながら「明治の時代は国民に気概が漲つてゐた。日本人の私達は和を尊しとするが、いざといふ時には立ち上がる国民だったし、露将ステッセルと乃木大将のやりとりに見られるやうに真心を大事にする国民だった。明治天皇の『國のためあなす仇はくどくともいつくしむべきことな忘れそ』といふお歌を拝すれば、ロシアと戦つた日本人の姿が現に浮んでくる」と述べられた。そして戦争で兄を亡くされた母上がなほその生存を信じてゐることを語られる中で、日本人の誇りを奪ふ映像作品が蔓延<sup>はびこ</sup>るわが国



の現実にも母上の胸中を思ひ遣ってかしばし絶句された。

また福田恆存と小林秀雄の一文を引きながら、「物言はぬ方の気持ちをお慰むることが本当の歴史である」とし、更に明治天皇が世界史の中でどのやうに位置づけられたのかを当時のフランスの新聞記事を示しながら述べられた。

### 創作短歌全体批評

山口県立熊毛南高等学校教諭 寶 邊 矢太郎 先生



「短歌を作るといふ事は、心の整理整頓をすることです。心に残ることを言葉に整へていく作業に皆さんも苦闘されたと思ひます」と述べて、参加者全員の短歌が収載された『歌稿』の中から各班一首を取り上げ、作者の気持ちを推し量りながら添削をして行かれた。例へば百済観音のお顔に『平和を想ふ』と詠んだ歌に対しては、「作者の気持ちは分るが、『平和』といった観念的な言葉ではなく、見たままを詠むことを心懸けてください」と説かれた。また、炎天下の法隆寺見学であつたため「猛暑」を詠み込んだ歌が多く見られた点に触れ、「暑さが一番印象に残つたとすれば少し残念。歌は作者の心がそのままに現れます」と見学の姿勢にも注意を促された。先生の批評はたくまざるユーモアに満ち、場内はしばしば爆笑の渦がわいた。最後に「班別短歌相互批評では、班員全員で作者の話に耳を傾けてその気持ちに相應しい言葉を見つけてあげて下さい。その添削から、友と呼べる心の通ひ合ひが生れるはずです」と述べて講義を終へられた。

### 班別短歌相互批評

全体批評のあと班別短歌相互批評が行はれた。己の心の動きを言葉にすることの難しさ、人の言はんとしてゐる事を正確に受

け止めることの難しさを実感させられた。妥協を許さず、時間を超過してしまふ班も多くあったが、相手の心に迫るために心を砕くといふ、貴重な体験をすることが出来た。

## 講話 「皇宮警察本部長の任を終へて」

元皇宮警察本部長 小田村 初男 先生



初めに皇宮警察の任務について説明され、「平成十九年の新年に当たっての今上陛下のご感想」、「平成十八年に両陛下がお詠みになったお歌」を解説しながら、常に「国民の幸せを願ってをられる」両陛下のお気持ちについて語られた。更に一昨年サイパン島ご訪問時と昨年の全国戦没者追悼式での「おことば」に言及され「戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し……と今上陛下は述べてをられるが、いつも遺族の苦難の道をしのんでをられる陛下のお気持ちを我々国民が拝察申し上げなければ申し訳ないのです」と語られ、最後に、陛下御自ら「日本の文化と学問の実践」に務めてをられるお姿を、本部長として行幸に随従された折の体験を通して述べられた

## 慰霊祭

開会式で「戦時、平時を問はず祖国日本のために尊い命を捧げられた全ての祖先のみ霊」に一分間の黙祷が捧げられたが、合宿最後の夜を迎へて、星空の下で慰霊祭が厳修された。祭儀に先立ち、大岡弘理事（元新潟工科大学教授）から、慰霊祭の趣旨と祭儀の手順が懇切に説明された。その後、参加者一同は徒歩十分ほどの斎場に移動して祭儀に臨んだ。

初めに被詞に代へて三井甲之詠の「ますらをの悲しきいのちつみかさねつみかさねまもる大和島根を」の短歌が山口秀範常務

理事（榎寺子屋モデル代表世話役社長）によつて朗詠された。全員最敬礼して降神の儀が行はれた後、山の幸海の幸が供進され、次いで山内健生常務理事（拓殖大学客員教授）の御製拝誦のあと磯貝保博副理事長（元大日本園芸榎取締役社長）が祭詞を奏した。全員で「海ゆかば」を奉唱、祭儀は古式に則つて滞りなく執り行はれた。

左は奏上された「祭詞」と拝誦された「御製」である。

### 祭詞

われらここ聖徳太子の願はれし仏法興隆ゆかりの地、奈良「信貴山」に集ひ「第五十二回全国学生青年合宿教室」の営みで研鑽を重ね、はや三日目の夜を迎へぬ

今し天つ日は沈み、今宵すずけき風そよぎて、緑濃き木々に囲まれしこの庭を齋庭と定め清めまつり、海の幸山の幸くさぐさに供へまつり、とこしへにみ國守ります速つみ祖たち、またみ國のために尊き命を捧げまししあまたのはらからのみ霊を招きまつりなくさめまつらむとして、ここにみ霊祭り仕へまつらむとす。

み国いま日ごと日ごとに人として踏むべき道のはずれたるまがごと多く立ち起こりみ國のゆくてぞあやうしと憂ひつりのりて心やすまらず

顧みれば過ぎし大御軍に敗れし後米國の占領政策のもと民主主義を旨として個人尊重、人權尊重強くうたはれ規律でしばるは悪しきこと自由なところこそ正しきと思ひ違へて、国民（くにたみ）の自覚（こゝろざん）を持ちて守るべき規範を失ひ、共同の社会を共に助け合ふ心も失ひ、世の乱れいよ増すばかりなり。平成の御世になりてはや十（とほあまりこのま）九年、教育は国家百年の計なれば教育基本法の改定なりしは良きことと喜び持てしも自らの國は自ら守らむと今し憲法改定し、国際社会の役割を担へる國を目指さむも改定阻止する輩も多かりておぞましきことかぎりなし。

ここに集ひしわれらは小堀桂一郎先生、岸本弘先生、占部賢志先生のご講義によりて日本のいしずゑ作りし聖徳太子のみ教へを心にきざみおのおのみ国守らむ心を定め学び勤めばみ祖たちのみそなはしあるを信ぜむ

さはあれどわれらはわれらの務めなほいたらぬを嘆きわれらのまこと足らはぬを恥ぢつつ今よりはいよ心合はせもろとも  
に心を鍛へ言葉を修めつつみ祖たちにつらなりて祖国日本をとことには榮えゆかしめむと誓ひまつらむ

かしこかれども今しみことたちのみ霊の大き導きにより、み国のゆくてを守らせ給ひわれらが願ひを導き守らせ給へと、  
加者一同に代はり磯貝保博謹み敬ひ恐み日す

平成十九年八月十八日

### 御製拝誦

明治天皇御製

神祇

(明治三十七年)

神がきに朝まありしていのるかな國と民とのやすからむ世を

秋夕

(明治三十九年)

國のためうせにし人を思ふがなくれゆく秋の空をながめて

蟲

(明治四十一年)

ひとりしてしづかにきけば聞くままにしげくなりゆくむしのこゑかな

大正天皇御製

行路蟲

(大正四年)

村雨のすぎし野道をわけくればくれぬさきより蟲ぞなくなる

寄國祝

(大正五年)

日本の本の國のさかえをはかるにもまなびの業ぞもとみなるべき

夜雨

(大正八年)

降る雨の音さびしくも聞ゆなり世のこと思ふ夜はのねざめに

昭和天皇御製

松上雪

(昭和二十一年)

ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ松ぞををしき人もかくあれ

聲

(昭和四十一年)

日日のこのわがゆく道を正さむとかくれたる人の聲をもとむる

祭

(昭和五十年)

わが庭の宮居に祭る神々に世の平らぎをいのる朝々

今上天皇御製

明治神宮御鎮座八十年

(平成十三年)

しろしめしし御代かへりみて日の本のもとみ成りたる様をしのびぬ

幸 (平成十六年)

人々の幸願ひつつ国の内めぐりきたりて十五年経つ

歳旦祭 (平成十七年)

明け初むる賢所の庭の面は雪積む中にかがり火赤し

## 班別懇談

慰霊祭の後、各班では最後の夜の懇談が行はれた。さし入れられた缶ビールを汲みかはし、まるで昔からの友人のやうに班の友らと夜更けるまで思ひを語り合つた。

## 第四日目

(八月十九日・日曜日)

## 合宿を顧みて

最初に登壇した今林賢郁副理事長(日鐵プラント設計(株)顧問)は、合宿初日からの講義・講話の一つ一つを振り返つて、「ここで語り合ひ学び合つて、心を通はせるべく努力した御自分を信じて戴きたい。戦前(闇)・戦後(明)と分けて捉へる見方が当然のやうに罷り通つてゐるが、では戦前の青年達よりも戦後の我々の方が立派な日本人になつたと言へるのか。飛鳥・奈良に連なる歴史の地で学んだが、平成の時代に生きる我々も生きる価値があると言へるやうにならうではないか。そのためにも日本といふ国がどんな国なのか、どうやって今日まで語り継がれたのかといふことを胸に温めなければならぬ」と述べた。

次に内海勝彦合宿運営委員長が登壇し「合宿冒頭で自問自答する合宿にして欲しいとお願ひしたが、言葉に対して悪戦苦闘し、

自分の気持ちをどう伝へたらいいのかと努めた体験は、今後の皆さんの勉強やお仕事の中で生きる指針となるものと思ふ。どうかこの合宿で感じ取ったことを心に留め、信貴山を下りた後も学んで行つて欲しい」と語りかけた。

### 全体感想自由発表

挙手して壇上に入った参加者は直截に胸の内を語った。

「法隆寺で先人も慣れ親しんだ景色だと気づいた時に歴史との繋がりを実感した」「国の為を思ひ本心を語り合ふことのできる友を見つけた」「いのちを捧げてきた先人達の気持ちを受け止め、まづは家庭から広めて行きたい」「自分のご先祖様に偉大な方がいらつしやることを知つて嬉しかった」「小川三夫先生のお話をお聞きし法隆寺の柱を見た時にはとても感動した」「自分の悩みをさらけ出せる友と出会うことができ、夜が更けるまで語り合つた」「和歌を深く味はつて、本当の意味での歴史を学んで行きたい」「歴史上の人物の心に迫ることが大切なのではないか」と語つた友の言葉が心に残つた」「合宿で学んだ日本人としての気概を私たち若者が伝えて行く義務があると思つた」と次々に登壇して思ひを述べた。

### 閉会式

主催者を代表して上村和男理事長は「明日からまた日常の生活が待つてゐるが合宿で得られた感動を常々思ひ起して、大学・職場といふ日常の『世間』の荒波の中にあつても押し流されず、日本の為に自分は何ができるだらうかを問ひ続けてもらひたい。さういふ一人一人の努力が日本を変へてゆく力になる」と、日々の学びの大切さを語り、今後の変らぬ精進を期待すると述べた。続いて参加学生を代表して九州工業大学二年の谷口耕平君が「慰霊祭で『心を合はせ、諸共に心を鍛へ言葉を修めつつ、御祖達に連なりて、祖国日本を永久に栄え行かしめむ』と誓つたことは合宿で学んだことの集約であり、ここで学び感じたことを大事

にして、たとへ住む場所は離れても心一つに皆さんと共に勉強して行きたい」と明日からの抱負を語った。そして、日本大学二年の奈良崎大祐君の閉会宣言を以て第五十二回全国学生青年合宿教室の全日程は終了した。



助言者の紹介

(社)国民文化研究会 会長

(社)国民文化研究会 副会長

(社)国民文化研究会 副会長

(社)国民文化研究会 理事長

日鐵プラント設計(株)

元・講談社(株)

拓殖大学日本文化研究所 客員教授

元・小田原市立矢作小学校長

(社)国民文化研究会 事務局長

(株)寺子屋モデル世話役社長・福岡事務所長

元・新潟工科大学 教授

中島法律事務所 弁護士

伊佐ホームズ(株) 取締役社長

福岡県立大宰府高等学校 教諭

山口県立熊毛南高等学校 教諭

住友電装(株)

興銀リース(株)

大阪府立牧野高等学校 教諭

(株)アイ・エイチ・アイエアロスベース

福岡県立香住丘高等学校 教諭

日章工業(株) 代表取締役社長

新明電材(株)

元・日産自動車(株)

福岡県立直方高等学校 教諭

熊本市役所

NPO法人教育オンブズマン

元・日立プラント建設(株)

甲英学院国際ビジネス高等専修学校

元・キュー・ピー(株)

(株)はせがわ 代表取締役

(株)バントレーディング

元・兵庫県立姫路南高等学校 教諭

元・富山県立富山工業高等学校 教諭

日本タルク(株)

神奈川県立小田原高等学校 教諭

防衛大学校安全保障・危機管理教育センター長

国立病院機構・都城病院長

産経新聞社正論調査室・雑誌「正論」販売部

札幌西陵高等学校 教諭

(株)都市防犯研究センター

九州大学大学院 教諭

カーボンテック(株)

湯亭こんや 会長

鳥栖市役所

古川 修

小野 吉宣

折田 豊生

稲田 健二

日高 廣人

薬丸 保樹

諏訪田陽山

山本 伸治

高村 光紀

長谷川裕一

森重 忠正

伊藤三樹夫

岸本 弘

内田 巖彦

原川 猛雄

太田 文雄

小柳 左門

大内 保治

本田 格

小田村初男

清水昭比古

天本 和馬

青砥 誠一

西山 八郎

防衛省裝備本部 長崎支部  
 大村郵便局郵便課  
 若築建設(株) 東京建築支店  
 羽後信用金庫 横手支店  
 北九州市立医療センター 技師  
 折尾愛真短期大学  
 防衛省航空幕僚監部  
 I M Sグループ本部 総合企画部  
 (株)アルバック  
 熊本県立御船高等学校 教諭  
 神奈川県立氷取沢高等学校 教諭  
 藤村酒造  
 熊本県立菊池高等学校 教諭  
 平山直樹税理士事務所  
 (株)寺子屋モデル  
 ハローワーク大牟田  
 中尾スタジオ  
 アサヒ飲料(株)  
 東洋紡績(株)財務経理部  
 日本青年協議会  
 (株)寺子屋モデル 講師  
 祐誠高等学校 教諭  
 (株)ラック  
 飯塚市立鎮西中学校 教諭

鏡	信弘	伊佐ホームズ(株)	小柳 雄平
橋本 公明			島村 善子
池松 伸典		(株)寺子屋モデル	黒岩 礼子
須田 清文		合宿運営本部	
森田 仁士		内海 勝彦・小柳志乃夫・池松 伸典	
松田 隆		最知 浩一・大日方 学・久保田 真	
神谷 正一	指揮班	庭本秀一郎・古川 広治・小林 国平	
最知 浩一		大津 健志・濱崎 史嘉・高木 雅史	
北浜 道	唱歌指導	佐野 宜志	
今村 武人	事務局	森田 仁士	
大日方 学		稲津利比古・山本 伸治・高村 光紀	
藤村 孝信		天本 和馬・高橋俊太郎・漆原 弘子	
久保田 真		姫路市立姫路高等学校	清瀬 麻衣
北村 公一		都立小金井北高等学校	神谷 静香
三林 浩行		東海高等学校	浅野 佑弥
古川 広治		埼玉県北本市立宮内中学校	最知 雄飛
中尾 国博	写真班	中尾 国博・最知 浩一	
澤部 和道			
庭本秀一郎			
外村 聖典			
横畑 雄基			
小林 国平			
高橋俊太郎			
大津 健志			

# 走り書きの感想文集

これは閉会間ぎはの一時間余で参加者全員に、三泊四日間の感想を走り書きで書いてもらったものです。「仮名遣ひ」は原文のままに掲載してあります。

なほ、各人の感想文の末尾に小さい活字で載せられてある和歌は、この感想文とともに提出された第二回日のものです。



## 第一班—男子学生—

新たな学問の世界に触れるきつかけとなった

(国士舘大学 政経 一年 渡邊慧祐)

今回初参加となりますが、最初の印象としては、皆合宿に向けての意識が非常に高い事が挙げられます。ですから期待を裏切らないスタートでした。そんな仲間と共に班別研修を行ったことが、著名な先生方の講義を更に実りあるものとなせました。三泊四日の短い中で何かを究めることは難しいのですが、新たな学問の世界に触れるきつかけとしては十分な期間でした。

聖徳太子を通して日本と言う国の始点に触れた事は、今回の合宿の中で最大のポイントであり、当面の課題となりそうです。一人ではなく多数で同時に同じ本を読み、様々な見解が出る事に気付けた事も大きな収穫でした。

今後も国文研主催の勉強会やサークル・学生活動などを通じ、更に研鑽を深めて行こうと思います。そして、学んだ事を現実社会に活かす事を胸に、日々精進して行くつもりです。合宿で学びし事を持ちかへり気持ち新たに再出発す

班員の皆と誘ってくれた先生に感謝したい

(高山自動車短期大学 二年 高橋謙友)

合宿教室を終えて思うのは、まず講義では何を言っているのか少ししか理解できず、小・中・高校でもう少し勉強しておけばよかったなあと、今さら後悔しています。しかし、今回の合宿をきつかけに自分でもできる事から取り組んでいこうと思います。

それと、班員には本当に恵まれたと思います。今まで体育会系の人達とばかり付き合っていたので、今回文科系の人達との生活に不安があつたけれど、その心配は全くありませんでした。皆とても積極的で楽しい集団でした。そんな第一班に感謝しています。

最後に岸本弘先生の講義を受けて、理解はそんなにできなかったけど、講義の雰囲気が高校で受けた岸本先生の授業と同じで、とても懐かしく感じました。このような機会をいただいて、岸本先生にもまた感謝しています。

不思議だな初対面だった班の人今ではすでに良き友達だ

皆で講義を深め、共有する素晴らしさを感じた

(下関市立大学 経 三年 横手健太郎)

今回三回目の参加でしたが、一回目・二回目の時とは違つた勉強・出会いをすることができて、とても充実した合宿に

なりました。太田文雄先生のご講義から始まり、素晴らしい方々のお話を聞き、そして班別討論の中で自分が思ってもみなかった考えが出たりして、皆で講義を深め、共有する素晴らしさを改めて感じました。

今回の合宿を終え私が思ったことは、まだまだ日本の中には素晴らしい日本文化が存在しており、その文化・歴史の中にある偉大な方々の想いに少しでも触れ、感じたいと思います。これからも、もっと多くの人々と出会い、話をし、来年この合宿に来たときには、また一つ成長していきたいと思えます。

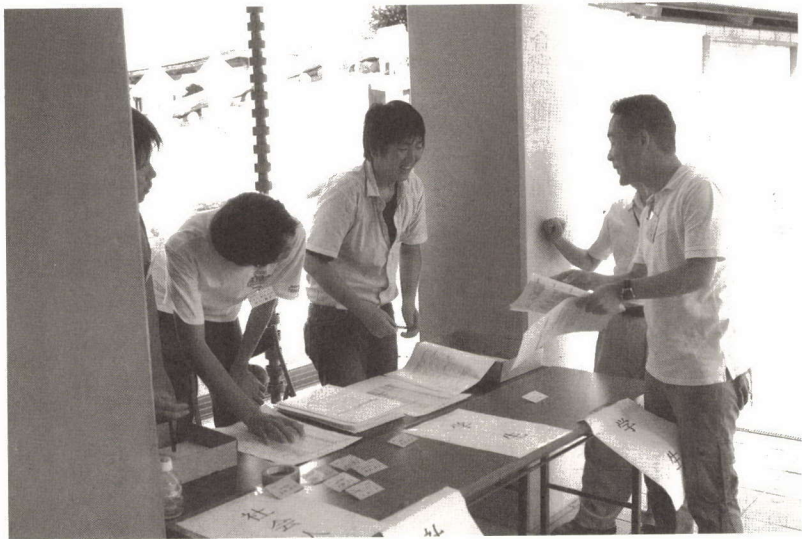
中学校の修学旅行で法隆寺を訪れた時の気持と比べて  
昔来し時とは違ふ我が気持ち少しは風情が分かりたるかな

素直な感動が共有できた

(九州工業大学 情報工 三年 瀬木裕太郎)

小野吉宣先生のご講義の中で「たたかひに身をすつる人多きかな老いたる親を家にのこして」といふ御製が紹介されました。その時に小野先生のご体験から出てきた言葉に胸を打たれ、涙が流れてきました。横の友も涙を流してゐました。

「僕は理性で考へるクセがついてしまつて、感動することが少ない」と前の晩に語つてゐた前の席の友も涙を流してゐました。私達はこのご講義と御製によつて理屈ではない素直な感動を共有することができました。



カメラ・レポート1

第52回全国学生青年合宿教室は、八月十六日から十九日にかけて、聖徳太子ゆかりの地・信貴山大本山「玉蔵院」にて行はれ、全国各地から学生・社会人175名が集った。写真は合宿開始前の受付の様子。

「心の通ひあつた関係」と言ふ言葉があります。僕はこのやうな体験があるからこそ、この「心の通ひあつた関係」といふ言葉を観念やスローガンとしてではなく、自分の体験に基づいた言葉として信じてことができます。この体験は私の人生の中でもとても大きな財産となりました。

み友らと共に同じきふみを読み共に涙を流しけるかな

### 聖徳太子が仏典に込められた思いに感激した

（國學院大學 文 二年 坂本匡史）

私が今回最も感動したのは、占部賢志先生の御講義であった。占部先生が「何が書かれているかではなく、どのように書かれているかを考えるのが学問だ」とおっしゃられたことは、衝撃を覚える言葉であつた。私は事実だけ結果だけの歴史には興味が無く、先人の理想を、たとえ結果にあらわれなくても行為に込められた真心を学ぶのが歴史なのだと考えていたが、確信を得た。だから聖徳太子の超人的な外交政策よりも、太子が仏典に込められた思いに感激した。

言の葉の中に生きたる先人の御心くみて示しゆかなむ

### 教科書は一番重要な部分を隠している気がする

（熊本大学 工 二年 松村康志）

同じような考えを持った学生が全国にはいるんだなと感じ

た。普段、大学生活を送っていて周りにそのような考えを持つていない人がいない。いや、いるかもしれないが、そのような考えを表す機会というものがまずない。

全体の講義を聴いて思ったことは、「歴史の教科書はどういう基準で作られているんだろうか」である。あんないいかげんなものを教科書として使うのは大間違いだ。そんな授業なんかいらぬ。一番重要な部分をかくしている気がする。

次に、班別研修で憲法改正の話になった。憲法改正は大いに結構だけど、憲法を読んだこともない人たちが投票に行くってことには、ちよつと疑問に思う。

形式にとらはれすぎて見失ふそんなものより大切なもの

### 有意義な夜を過ごすことができた

（国立水産大学校 三年 小塩直樹）

合宿の前に参加した勉強会で先生からいただいた「日本の心を知ること、それは和歌を詠むことだよ」という言葉の意味が、この合宿中様々な講義、班別研修を経て感じるようになりました。班別の輪読の際にも、一班ではみんなが積極的に発言をするといった形で、とても意味深い時間を共有することができました。何よりも夜の自由時間では他班の先輩方とも話し合う機会を得ることができ、みんなこの国のことを本当に考えているのだという感じがすごく伝わってきました。僕も常日頃勉強していることを人と話すことによって、新た

な見方に気付くことができたり、自分で考えることもなかったような意見を聞き、自分のなかに取り入れることができた  
りして、本当に有意義な夜を過ごすことができました。  
夏の夜の暑さも忘れる交流は心の底より弾みたるかな

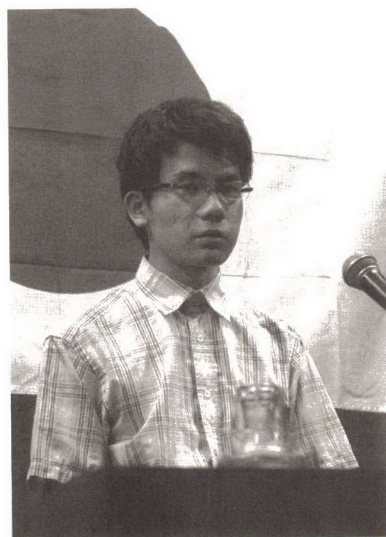
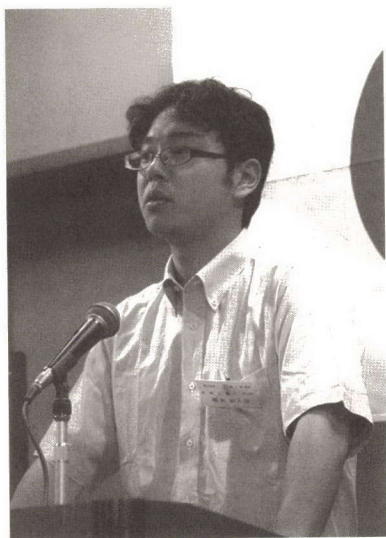
### 合宿教室の意義を改めて認識した

(福岡県立香住丘高等学校教諭 酒村聰一郎)

久しぶりに学生班の班付をさせて戴き、全日程を通して学生達とじつくり付き合うことができた。そして日毎に変化してゆく班員の様子を見、また全体感想自由発表で自ら登壇して発表してくれた言葉を聞き、合宿教室の意義を改めて認識した次第である。

「太子の御本」の輪読は予想以上の成果を得た。その要因は、事前のOB、学生らによる輪読箇所の子習及び占部賢志先生、岸本弘先生の御講義によってもたらされた太子に寄せ  
る敬慕の念と高揚感にあると思われる。いづれにしても勝鬃  
経、勝鬃経義疏、黒上正一郎先生の言葉を比較しながら味読  
することができたと思う。輪読の面白さ、楽しさ、充実感を  
体験すると同時に、他のテキストでは味わえない日本文化の  
源流即ち日本文化創業の意義を、悠久の時を越えて触れるこ  
とができたのではないかと思う。以後の合宿でも取り入れら  
れることを望む。

ためらひつつも勇を起して壇上に上りし班員ともの顔かんばせうるはし



一日目・開会式。合宿教室は成蹊大学三年・亀澤矢沙君(右)の開会宣言で幕を開けた。また、九州工業大学四年・瀬木裕太郎君は参加学生を代表して「お互ひの思ひを真剣に語り合ひ、共感し合へる充実した合宿にしよう」と呼びかけた。

合宿に誘ひてくれし先生に一言御礼を述べたしといふ  
体調を崩せる生徒を氣遣ひて幾度も<sup>班室</sup>に來ませり大人は  
講義聴き文よみ友と語らうて心鍛へけむこれの合宿

## 第二班 男子学生

「歴史の威厳さ」をいかに深く感じるのか

（玉川大学 四年 本間隆宏）

太子の御本を輪読していた時のことであるが、山背大兄王が入鹿と争うことは国民を苦しめることになるとして、上宮王家一族総てが自害した。しかし僕は、山背大兄王が皇位継承を放棄することで入鹿の専横を許し、戦う以上に国民を長きにわたり苦しめることになるとお考えにならなかつたのだらうかという疑問を抱いた。結果的に入鹿は討伐されることになるが、そういうことも山背大兄王は予期しておられた上での行動であつたか真意をはかりかね質問した。するとその時班に來られていた今林賢郁先輩が、「君は歴史の威厳さを何と心得るか」とおっしゃつた。瞬間僕は自らの考え方の誤りに氣付き恥ずかしくて顔が上げられなかつた。厳然たる歴史事実に對する敬虔さの欠落が僕の軽々たる質問だつた。難解なる山背大兄王の生き方の前にせざるを得ぬはずの沈黙を避け、是非を問おうとしてしまつた。「歴史の威厳さ」をい

かに深く感じ、沈黙を尊ぶことが出来るか、これが私の得た課題である。

縁得てともに学びし友らとも早や別るべき時近づきぬ

獅子をも殺せるぐらゐの真剣な目つき

（熊本大学 工 一年 香川峻輔）

今回の講義を聴いて、自分の教養のなさを痛感させられました。それでも、やはり、心にひびくものはありました。講師の熱心な声のトーン・口調などから、何かが心に届く感じがしました。

とりわけ、そう感じたのは、小川三夫先生の「不揃いの木を組む」でした。先生が「やりがんな」使いを実演されたとき、最初僕は先生の手先と腕、そしてやりがんなに目をやりました。手慣れた感じにすつと腕を引かれ、やりがんなで削られた木くずは、しゆるしゆるといった感じに木から離れてゆきました。「おみごと」と思い、ふと先生の顔を見ると、目が獅子をも殺せるぐらゐの真剣な目つきであるのを見たとき、これまで先生がお話しになったのと同様、いやそれ以上に、何かを教わつたように思いました。

全体感想自由発表で発表したのち

人の字を手を書いて飲めど緊張し思ひ伝へ得ずとても口惜し



日本を支える思想的基盤を育成しようとする東大の現状

（東京大学 文一 一年 山内隆太郎）

今回の合宿では、班員が皆真面目に日本の現状を憂慮されていることに驚きました。最高学府と言われる東京大学の学生の会話が日常生活の話題に終止することと対照的で、何とも複雑な気分になりました。ただ、言い訳のようですが、このことは必ずしも学生の責任に帰するとは思えない部分もあります。東大の先生方は日本の次代を担うのは君たちだ、などと、威勢の良い言葉をかけてくださることはあっても、日本を愛することや国益を考えるとといった日本を支えていくために不可欠の思想的基盤を育成しようとはなさいません。ですから自ら感じ、学んでいかねばならないのです。この合宿での経験をきっかけにして、こうした学びを深めていきたいと思えます。

日の本を愛し憂ふる同輩の熱き心に打たれけるかな

全ての事が勉強になった

（青山学院大学 法 三年 加瀬 幹）

私は今回、初めて「合宿教室」に参加致しました。来る前は、大きな期待と少々の不安も抱いていましたが、到着するとすぐにその不安は消えさりました。班員や班付の方は皆、良い方でしたし、講義で拝聴した事、全てが考えさせられる



カメラ・レポート3

主催者を代表して小田村四郎会長は「日本はどういふ国なのか。古き時代から一貫して変らないものは何なのか。この合宿を戦後の占領政策によって損はれた歴史の真姿に近付く切っ掛けにして欲しい」と挨拶した。

内容であつたためです。太田文雄先生の講義では日本の周辺国、占部賢志先生からは聖徳太子の外交上の気概、小川三夫先生から職業や伝統に対する誇りと考え方を伺い本当に考えさせられました。古典輪読や短歌の作成をしたのは初めてだったので、予想以上に難しく困惑しました。特に短歌を再提出するために相互批評を行った時は人に「自分が何処に感動したのか」を正確に伝えられず、同時に自分で自分の心の整理が出来ていなかった事に気付かされ、本当に衝撃を感じました。

全ての事が勉強になり、充実した四日間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

大和歌作らんとすればわが額に玉の汗出づ心を映して

鍛えられたが、最も楽しかった短歌創作

(防衛大学 機械工 三年 濱田倫行)

私は防衛大学校に入校し、今は上級生になって下級生を教育する機会を得、人格を磨くことと、教養を身に付けることの必要性を切実に感じるようになった。数年後には部下はペテランの陸曹、陸士達であるので、求められるものは多い。今は平和だから意識していないが、有事には、隊員の命、その家族の生活も背負うことになるのだろう。学生のうちにもっと勉強しておきたかったので、今回の合宿に参加することを決意した。合宿で最も楽しかったのは短歌の創作だった。

自分の思うことを言葉にするのは難しい。特に私は苦手なのだが、和歌作りは良い訓練になるようだ。例えば、十理解していても四しか表現できなければ、周囲の人は、その人が四しか考えていないと思う。表現力を鍛えれば、自分の力を十分に発揮できない状況を打破できるはずだ。和歌は自分の心を理解する力と表現する力を使う。相互批評では相手の心を思いやる力も使う。短歌の創作を通してこれらの力を養うことはいいい勉強になった。

短歌の相互批評にて

詠む歌にすなほな心こめらるるその嬉しさに苦も打ち消さる

日本人としての道を歩んでいきたい

(甲南大学 経済 五年 坂 直純)

私は今回、いまの国際情勢の中で、「日本はどういう国なのか」ということを真剣に見つめたいという思いで参加しました。とりわけ和歌と古典への心を深めたいと思っていました。

非常に心を打たれたのが、古典輪読の際の歴史への迫り方でした。歴史のドラマに心を惹かせていく厳しい姿勢、その学び方に感動を覚えました。まさに「歴史は心で感じるんだ」と言われているようにさえ感じました。また、短歌相互批評では自分の心と言葉を正して頂きました。自分が感動したことを表現したつもりでしたが、一首の中に本当に詠みた

かった感動を定められないまま、詠んでいたことを知りました。本当に自分の純粹な心を知るのは難しく、だからこそ仲間と共にその道を研鑽する重みを感じました。そして、その感動を共にできることは、それこそ一人ではできない「かけがえないもの」だと実感させて頂きました。今回の学びを糧として、日本人の道を歩んでいきたいと思いました。

合宿最終日短歌創作にあたりし折に

今ぞまた短歌の心磨きてはやまとのくにの人となりたし

## 私にとつての「刃物研ぎ」

(栞寺子屋モデル 三林浩行)

小川三夫先生は、良い職人は時間があればいつも刃物研ぎをしてゐるとおっしゃった。私にとつての「刃物研ぎ」は、「自分の課題となつてゐる物を自問自答しながら考へる」事と、「読書」する事、そして「短歌創作」だ。以後これを実践したい。

この合宿で新たに自分の課題として浮上したものがある。「概念的思弁とは」、「観念とは」、「愛惜の念と歴史について」など。それらは、わかつてゐるつもりで実はわかつてゐなかつた事に気づいた。「言葉の重み」、「言葉の姿」と「短歌の修練」についてもさうだ。

最後にこの合宿に関はつた全ての方々に感謝申し上げたい。班付の神谷正一さん、班長の本間隆宏君をはじめとする二班



王歳院の野沢密考貫主様は「自分を信じることで他者へ思ひが及ぶものだが、周りの人間に思ふ仏の心に近付けるやうお励みいただきたい」と参加者に励ましの挨拶を送られた。

の人達との「不思議な」ご縁も大切にしたいと思ふ。

山背大兄王

我々の祖先ちちのこにありし国民を「おほみたから」とおぼしめすかな

熱誠あふれる御講義に胸打たれた

(防衛省航空幕僚監部 神谷正一)

はつらつとして感性豊かな学生諸君が集った二班の班付として、楽しく充実した四日間でした。班別研修等の時間を通じて共に学びゆく感動を改めて呼び起こされるやうな感じもしました。

御講義を始め、輪読や野外研修の内容は、聖徳太子を中心テーマに据え、全体として調和がとれてゐたと感じます。御講義は、いづれも緻密な下作業を推測するに余りある内容で、講師の聴講者へ伝へようとする思ひのほとばしるやうな熱誠あふれるものであり、胸を打たれました。

講師の先生方は固より、運営委員始め、運営に携はられた各委員の皆様へ感謝申し上げます。有難うございました。

薄明き宿坊しゆくぼうに入り来し勤行の太鼓の低き音ひさびさにねざめたり

### 第三班—男子学生—

仲間を得た

(中村学園大学 二年 山内真一)

今回が初めての参加で、最初の方はわからないことや難しい事が多く、いきなり壁に直面しました。その中で、講義の後の班別研修の際に先輩や社会人、国文研の方の意見や説明があり、徐々に理解していきました。知識が少なく意見を出すことが難しくはありましたが、率直に意見を出し合える環境にあったので、自分自身が思ったり感じたことは言えました。

この合宿を通して得たものは多くありますが、中でも私が印象に残っていることは、三泊四日という期間を、同じ考えをもっている人同士であるため、誰とでも分け隔てなく語れたことです。この一期一会の出会いを大切に、スタート地点にしたいと思います。

寝食を共にせる中わかりあひ「仲間」といふ大切な財産を得し

良い経験になりました

(東京農工大学 農 四年 秋本 遼)

普段あまり体験しないことが多く、驚きでした。短歌創作

が出来て良かったです。良い経験になりました。  
自らを見つめ来たりし信貴山に先祖の霊を間近に感ず

## 「銃後」について

(福岡教育大学 教育 四年 平田無為)

太田文雄先生の御講義で「銃後」という言葉をはじめて知りました。そしてこの「銃後」を巻き込むのが近代戦であり、それは武力だけでなく、思想や経済も含む総力戦であるとお聞きして、自分がその渦中にある緊迫感が伝わってきました。「どうしたらよいのだろう」と頭をかかえましたが、聖徳太子についての諸講義を聞く中で、少しずつですが日本の行くべき道が見えてきたように思います。飛鳥時代、明治時代、現代は、いずれも外国の圧力により危機に瀕している点で大変通じており、その飛鳥、明治の時に立ち返ったのが、日本人の精神でした。太子は憲法で、明治天皇は御製にてその精神をあらわしておられたのではないのでしょうか。心に残った御製を挙げます。

国をおもふみちにふたつはなかりけりいくさのにはにたつ  
もたたぬも

私も「国をおもふみち」につらなりたいと思いました。  
国民にかくあれとのるみことのりを仰ぎて歩まむ国思ふ道を



オリエンテーション。内海勝彦合宿運営委員長は、合宿を始めるにあたり「この合宿を自問自答する合宿にして欲しい」と語った(右)。次に、庭本秀一郎指揮班長からは合宿の諸注意が説明された(左)。

## 語り合う場がある

(西南学院大学 法 四年 長友昭恵)

今回、全国学生青年合宿教室に参加して、一番印象に残っていることは、ここには「語り合う場」があることでした。日本全国から集まった人たちがほとんど初対面にもかかわらずお互いの意見を出し合い議論することができました。しかし一つ私が思ったのは、合宿では太子の御心を理解するといったように昔のことを深く考察し議論することに重点が置かれていたように思います。確かにそれはとても重要ですが、私たちが生きているのは「今」でありこれからの日本、世界をつくっていくのは自分たち若者であり、皆で語り合わなければいけないのは「未来」これからのことだと思ふのです。一日目に過去の日本から学び、二日目以降は現在、未来のことに目を向けて皆で語り合うような形でもいいと思います。

住む場所も育ちし場所も違へども心に流るは大和の心  
歴史ある寺の中にて暮しつつ想ひをはせるはいとおもしろき

## 歴史を深く考えたい

(日本大学 経 二年 奈良崎大祐)

私は今回の合宿で昨年に続き二回目の参加になります。昨年の合宿には、日本のことをほとんど知らずに参加していました。ですので当然、勉強されている他の班員の方々の討論

を聞くことで精一杯で、自分の考えを伝えられなかったことをとても情けなく思いました。

今回の合宿には自分の考えをきちんと伝えられるよう、自分なりに歴史の勉強をして臨みました。前回よりは自分の考えを少しは相手の方々に伝えられたかと思えます。しかし今回の合宿で一番思ったことは歴史的なことをテーマに討論をしているときに自分は表面的な歴史的事実しか見ていないことでした。

それは一人の班員の方が短歌の解釈について意見を述べているときに、その方は短歌の奥にある歌人の思いにまで深く解釈なさったときに気づきました。自分は歌の意味を考えるだけで歌人の思いにまで考えが至りませんでした。今回のこの反省を生かして、歴史を深く考えることを心がけていきたいと思いました。

### 班別研修にて

友達の意見を聞きて感じたり我の至らぬ所多しと

## 夢中で過ぎた合宿

(亜細亜大学 二年 青砥諒典)

今回が初めての合宿で本当は行きたくなかったけど来てみました。やっぱり想像していたとおりで、大変だったし、講義とかはほとんど寝てしまつて全然聞いてなかったたので、班別研修が辛かったです。でもその中でも宮大工の話は楽しく

で夢中で聞いていました。話の内容は覚えてないけど楽しかったというのは覚えてます。国文研は知らない言葉がたくさん出てきて理解できなかったけど、なんか自分に吸収できてたら良いと思います。最終日を迎えて思ったことは、国文研けっこう楽しかった。

五重塔肌で感じた感動が夏の暑さで少しほやけた

### 全体感想発表が言えなかった

（九州工業大学 情報工 四年 秋田崇文）

合宿三回目の今年、班長としての目標が思うことを恥ずかしがらず、素直に述べる場を班員全員で作っていくことでした。班で初めての班別研修はとも心配でしたが、班員の皆が拙くも必死に心に向けて話を聞いたり、何とか喋ろうとしていた姿勢を頼もしく思うと同時に、嬉しく思いました。彼らと過ごした班別研修、輪読、短歌相互批評は心地のよい時間で、楽しく充実していました。ただ一つ残念なことは、これだけ充実していた合宿だったにも関わらず、全体感想発表が言えなかったことです。私の目標を最後の最後、自分自身で破ってしまったことは、班員の皆に申し訳無く、後悔をしています。

今回の合宿で得たもの、気づかされたもの、自分に足りないもの、全てを成長の糧にして、来年の合宿に戻ってきたいです。



合宿導入講義。防衛大学校 安全保障危機管理教育センター長・太田文雄先生は「軍だけでは安全保障は全うできず、国益を損はないためには、一人一人の日本人が国民としてのアイデンティティーをしっかりと持ち、金や保身のために秘密情報は渡すことはしないといふ、国防への自覚を共有することが不可欠」と話された。

合宿にて短歌の作れしこと良しとの友の声聞きうれしかりけり

二年間は勉強を続けませう

(榊アルバック 北浜 道)

班別短歌相互批評の折、皆の言葉の模索によつて的確な表現に定着していくうちに、それまで周囲にも本人にも漠然としてゐた作者の経験が、だんだんはつきりしていくのを何度と感じた。正確な表現が心を素直に導き、素直な心が正しい言葉の力を借りて事物を生き生きと映し出すのである。

私たちは日本語ができるのは当たり前と思つてゐる。この合宿ではその日本語を、古い言葉に照らして自分の言葉でない(即ち自分の心を)、改めて見つめ直す機会になつたのではないだらうか。中には知識の不足を嘆く方もをられようが、誰でも始めは初心者である。幼児は三年で言葉を話すやうになるといふ。とにかく続けることが大事である。騙されたと思つて、二年間は勉強を続けませう。

食事会場にて

次々とおかはりに立つ若きらにお櫃はやがて空になりけり

太子様ゆかりの地にて

(元富山県立富山工業高等学校教諭 岸本 弘)

今年もまた多くの方々の力に助けられつつ合宿が終らうと

してゐます。この合宿に参加できなくとも私共のことを遠くからしのんでいただいた方々も居られました。天かけるみ霊もまたさうでありませう。「太子の御本」(『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』)についてこの合宿で講義をさせていだだけたことは本当にありがたいことであります。若い頃に学ばせていただいたことを、体の中であたたためつけ、そのことが自ら言葉となつて流れ出た思ひが致しました。

太子様ゆかりの地といふことの不可思議を今つくづくと思はしめられます。全体意見発表で「五重塔の覺の間から見上げた空が美しかった。」と述べた友の言葉が印象に残りました。やはり斑鳩は聖徳太子ゆかりの地であることをしみじみと思ひ返して居ります。

ありがたうございました。

み山路の太子ゆかりのみ寺にて集ひし日々もはや果てむとす

また一人また一人とこの年も心通へる友得つるなり

この四日を共に語らへる友達の今しみじみとしたはしきかな

#### 第四班 男子学生

同じ「根」を持ち、学ぶ友に出会えた

(大阪工業大学大学院 情報科学研究科 二年 井上謙次)

この合宿教室は、伊勢雅臣先生のメールマガジン「国際派



日本人養成講座」で知り、自分と同じ様に国を憂う仲間がいるのだろうか、いれば話をしてみたいと思ひ、参加を決めました。不安もありましたが、多少の考え方、物の見方の違いはあれど、同じ「根」を持ち、同じように悩み、上を向いて学べる同世代の友を見つけることができ、非常に嬉しく思いました。また、私の普段の生業は科学、工学を奉ずる技術者であり、国文学や歌に触れる機会が非常に少ないのですが、今回は四日間という時間を、歌をうたい、思ひを寄せ、自分を重ね、言葉を紡ぐことに割くことができました。班付の方ご講演された先生方、そして共に心をくだいた班員のおかげで、その時間は非常に充実したものになったと思ひます。今後折に触れ、短歌の創作や自己研鑽に励んでゆきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。このような機会、ご縁を与えてくださいます有難うございます。

皆で声を合せて防人の歌を読み折に

防人の歌うたはむと思ひしも有様うかびて声つまりたり

### 皆で熱く語り合えた

(國學院大學 文 一年 丸山和希)

普段の生活では、政治や日本の文化について気兼ねなく話せる友人がおらず、なにか物足りなく思っていました。そんなときに先輩からさそっていただいたのがこの合宿でした。

元々大勢の前でしゃべるのが苦手な私はとても不安だった

カメラ・レポート7



歴史講義。福岡県立太宰府高等学校教諭・占部賢志先生は、十七条憲法の第一条「和を以て貴しと為し…」と、『論語』の説く「和」との差異を比較し「類似の影響があるから影響されたとすぐに結論づけてはならない。大切なことは、何が書かれてゐるかではなく、どう書かれてゐるかを読み取ることだ」と指摘された。

のですが、合宿に集まった人たちは皆自分の意見を持ち、将来を見据えていてあつく語るのので、自然と私も語っていることに驚かされました。

先生方の話を聞き、班で話し合い、己の意見を高めていけたと思います。本当に内容の濃い四日間でした。

忘れまじ互に心に残りたる学びひとときは一期一会と

### 山背大兄王の悲しみを偲ぶ

(伊佐ホームズ 小柳雄平)

今回の合宿で特に心に残ったことの一つは、岸本弘先生の御講義で取りあげられた黒上正一郎先生の著作「聖徳太子の信仰思想と日本文化創業」を班で輪読したことである。班員同士で、山背大兄王のおっしゃった言葉を少しづつ吟味し、そのうち皆言葉を出さぬようになった。そのとき班全体で聖徳太子、山背大兄王の深い悲しみを偲ぶことができたように思う。

合宿を通して、真心を込めたものごとを観つめることの大事をあらためて教えていただいた。

### 山背大兄王

国のためみづからのち絶ち給ふ皇子のみことばかなしかりけり  
聖王のみ教へ信じ神あがる皇子を偲べば涙こみあぐ

### 目から鱗が落ちる思い

(杏林大学 総合政策 三年 松井宏太)

今回初めて参加させていただいたのですが、まさに目から鱗が落ちる思いでした。特に目頭が熱くなったのは、日本文化創業を担われた聖徳太子のお話です。占部賢志先生は、太子が国際情勢を的確にお読みになった上で外交や内政を行われたことを解説していただきました。また、小堀桂一郎先生には、国家があつて初めて個人の存立が可能になるという視点や、憲法とのかかわりというきわめて重要な問題を教えていただきました。また岸本弘先生の「書は体で読む」というお言葉が心に残りました。私はこの合宿を通して、日本の伝統・文化・精神文化を大切にしていきたいと心より感じました。

### 玉蔵院の窓からの景色

宙を舞ふいと美しきてふてふは互ひをおもひて愛つたふらむ

### 仲間との出会いに感謝

(久留米大学 文 二年 大野桂一郎)

三泊四日のこの合宿教室も今日が最後の日となり、少し寂しい気持ちである。合宿の前日、初日は不安な気持ちでいっぱいだったが、今ではここで出会った仲間と離れるのが惜しいくらいである。講義は聞いたことのない話ばかりであり、

短歌も本格的に作ったのは初めてであった。先生方の話はどうも難しく深くそして何より先生方の気持ちがこもっているのが伝わってきて、話を聞いているだけで頭が良くなったようにも感じた。素晴らしい先生方の話を聞いたことも光栄であったが、班員をはじめとする新たな仲間との出会い、自分の気持ち・考えを素直に述べ合うことのできる仲間との出会いに最も感謝したい。

友だちと別れることぞかなしければとぎえることなし友との絆は

### 先人の残した言葉と格闘した

(京都大学 工 一年 馬場 惇)

今回はじめて合宿教室に参加させていただいて、最も大きく感じたことは「新鮮」だということです。深い山の中にある信貴山玉蔵院で初対面の人と共同生活をする、それ自体が私にとっては非常に新鮮味あふれる体験でした。また、日本という国、文化、その将来について深く真剣に考え、熱く楽しく語り合える友の存在が何より私の心の中に新しい感動を生み出してくれたと思います。

先人が残した一つの言葉に対して、皆でその意味から、その言葉に表される先人の心・志について、うなりながら共に考え議論するという機会はなかなか巡り合えなかつたもので、驚き、また大変嬉しく頼もしく感じました。



朝の集ひにて、体操を行ふ。

班別研修にて

先人のこころを表す一言にことはの力改めて感ず

## 法隆寺見学の責任者として

(平山直樹税理士事務所 北村公一)

野外研修の法隆寺見学の責任者をさせて頂いていただきました。準備不足の点、至らぬ点が色々ありましたが、周りの方々に補っていただき、大過なく務め果せることが出来ました。有難うございました。酷暑の炎天下に、病人もトラブルもなかったことは、正しく御仏の御加護と思はずにはゐられません。

姪が高校生アルバイトとして参加して

恥づかしがり屋と案じてをれど初対面の友らと共に仕事にいそむうちとけて笑み語らひつつ作業する姿し見れば心安まる

## 合宿を振り返って

(山口県立熊毛南高等学校教諭 寶邊矢太郎)

一、運営本部が一年練りに練った内容が見事、奇蹟的な大展開を遂げ感動的な合宿に結実していった。内海勝彦運営委員長をはじめ各運営委員の炯眼に感服するとともに一年間の御苦勞を深謝します。

一、占部賢志、岸本弘、小野吉宣講師の圧倒的な迫力はただ

ごとではなく、聖徳太子から今上陛下に至る千三百年間の御皇室の御皇恩をしみに思はさせて頂いていただいた。こんな妻く、熱く、優しい講義が聴けて私どもは泣けた。

一、ゆゑあつて三日間の睡眠時間は数時間であつた。加齢から来るいろいろなものもあるが、まだ体力があるのが分り自信となつた。

一、この施設は使ひ勝手についてはまったく申し分ない。輪読環境が特にさう。食事も精進料理的で参加者の体内環境も良好に保たれたと思ふ。

一、更なる勧誘を心懸け、勉強不足を克服してゆきたい。

全体発表の坪井好子さんを

この全体発表をききてたかひにうせにし人らよるこびまさむとせつせつとかたりますこの人は主婦よくぞこられしと涙ぐましも

## 第五班

男子学生

## 日本思想の源流を感じた

(北海道大学 文 四年 小林雅典)

私は、今回の合宿で日本思想の源流を感じることができました。聖徳太子、御製の内に我々日本人が日本人として持つべきである心情や気概をはつきりと感ずることが出来ました。

また班別研修や班別懇談では、一人一人が自分の本音で語

り、意見をぶつけ合いました。四日間という非常に限られた時間の中で精一杯の議論ができたと思います。この合宿で、国のあり方や政治、そして文化や思想について語らい議論したことは本当に良い経験であり、これからの私の人生の大きな指針となりました。

輪になりてビール片手に深夜まで語らふことぞいとおもしろき

### 友は大きな財産です

(九州大学大学院 理 山崎寛一)

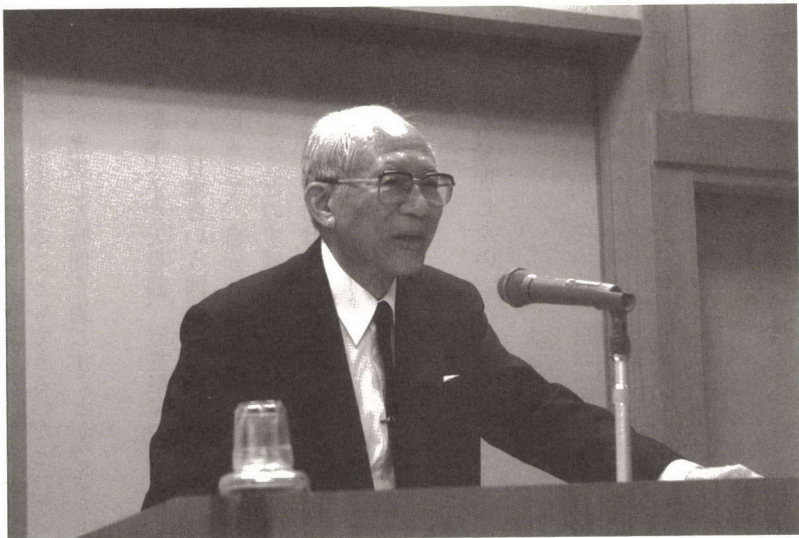
今回の合宿も本当に充実していて、前回と同様に感動と学びを経験できたことを大変うれしく思っています。

特に「玉虫厨子」の絵を拝観し、「天皇は人民のため身を尽くすべきである」という太子の御心を感じた時の自分の中から湧き出る熱い思いは現在も鮮明に覚えております。そして講義でさらに太子の思想を深めることができ、体と頭両方で先人のすばらしい教えを学ぶことができました。合宿ならではのこの経験で「日本人でよかった」と心の底から言える誇りを私は得ることができました。

またこの合宿を通じて得られた友は私の中で大きな財産となりました。夜遅くまで語り合ってくれて本当にありがとうございます。今後も勉学に励み日本人の誇りをより大きくしていきます。

この合宿の成功の為に支えてくれた多くの方々に深く感謝致します。誠にありがとうございました。

カメラ・レポート9



東京大学名誉教授・小堀桂一郎先生は、十七条憲法第一条について、日本における『理性的思惟』の起りがこの第一条であると指摘された。

幾時も私の語りひ聞き入れる友の姿に胸熱くなりぬ

### 班別輪読から感じたこと

(京都建築大学校 二年 吉田孝徳)

今回の合宿で心に残った言葉は、法華経の太子の解釈で「常に坐することを好む小乗の禪師に親近せざれ」という言葉でした。たとえ釈迦の考えであれど自分の信念と違うものは違うといえる精神とともに、太子が何を大事にされていたかというものを少しながら理解できた。たとえどこまで禅を極めたとしても一人で極めるのではただの自慰であって、みんなで心を高めていくことが真に大事なんだと気付かされました。

そしてその精神を班別輪読から感じられました。一人で本を読んでいるときと違い本当に自分が理解できていないことに気付かされて本当にありがたいと思っています。

父母に感謝の思ひ伝へては親孝行を果たしてゆかむ

### 充実した時間を過ごすことができた

(熊本大学 文 二年 秦 啓太郎)

私は今回の合宿が初参加となりましたが、現在感じているのは、講義の内容が深く、難しいものだったということです。特に二日目の小堀桂一郎先生の講義は聞いていても理解でき

ないものでした。しかし、その後の班別研修で友人の話を聞くうちに、内容が少しずつ理解できるようになったり、違った視点から物事を見ることもできるのだとわかったりすることがあり、充実した時間を過ごすことができたと思っています。

また、聖徳太子や天皇制、慰霊祭について詳しく学んだことよって、日本という国の特徴を改めて知ったり、和歌を詠むことよって、自分の感じたことをきれいなリズムの言葉で表現することのすばらしさがわかったように思えました。この四日間で、自分が今まで知らなかった多くのことを知り、様々なことを考えるようになることができました。

信貴山で学びしことを思ひ出しすべての人に感謝をこめむ

### 次回も参加したい

(中村学園大学 二年 久保慎也)

今回初めて参加してみても、自分が知らなかった事を多く学べて良かったです。最初はキツかったですけど、いろいろな分野の話を聞けて自分の何かに役に立つように活かします。短い期間でしたけど自分なりに少し成長できたかなと思います。

次回参加が出来るか分りませんが、こういう講義があれば是非参加したいと思います

ありがとうございます。

とても楽しい合宿でした

（九州工業大学 情報工 二年 谷口耕平）

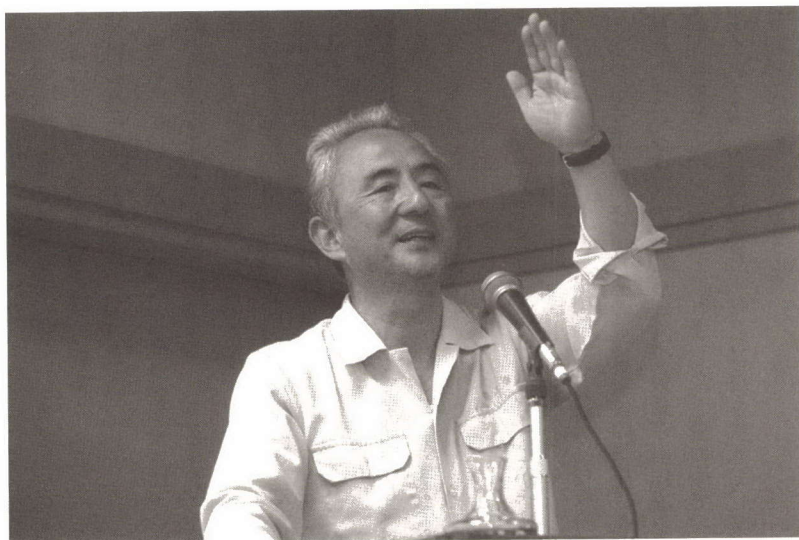
僕は今回が二回目のこの合宿への参加でした。一回目の時は自分の事でいっぱい、他の班員の意見を落ち着いて聴く事ができませんでした。しかし今回はそれができてたのではないかと思っています。班員の話聞いてみると、僕の気づかなかったところで感動をしていたり、また、同じ感動をしていたりして班別研修の場がとても楽しいものに思えました。特に短歌相互批評では、感動の細部を追求したり、とても素直な短歌を読み、より共感を深められたのではないかと思います。またこういった共感から太子のみ教えである和というものが生まれるのではないかとも思い嬉しくもありました。とても楽しい合宿であったのですが、太田文雄先生のご講話、また磯貝保博さんの慰霊祭での祭祀にもあったように今の日本の憂ふべき事態は深刻であるという事も重大に思われました。慰霊祭での誓いを胸におき、共有することで、この事態をなんとかしたいと思えます。

輪を作り友と語りし研修に太子の教へし和を感じけり

相共により高きものを志向する国柄

（日本青年会議 外村聖典）

聖徳太子の信仰思想と日本文化創業は、法隆寺として一つ



宮大工の小川三夫棟梁は、「法隆寺の柱の知識を持った中高生は多いが、実際に柱にささる生徒は少ない。ある時不良っぽい男子生徒が柱に抱きつくのを見ました。彼が私のところに来れば弟子にしたかったが、当然来ませんでしたね。」と笑顔で語られた。

の姿になっていると感じた合宿であった。小川三夫先生のご教授で、法隆寺の柱がやり鉋によって削られ、現代式の平直に削るよりも、やわらかく美しい姿として残っていることに感動した。飛鳥人の美意識は今を生きる我々にも感銘を与へるが、それは太子のご偉業とそれを仰ぐ国民がいたからこそ生まれたものだと思う。桑原暁一先生のご文章に法隆寺の美しさは、「両の手に広く衆生を抱きつつ、急がず、あせらず、だんだんと衆生を上へ上へと引き上げて行く、といったらよいであらうか。またそれは『和』とは、相共により高さものを志向する、といふことであつた」とある。相共により高さものを志向する。そして太子をはじめとしてご皇室がいつの時代もそのような御心であられた。この国柄こそ日本文明の根幹にあるものだと思う、ありがたく感じる。この国柄を甦らせるべく精一杯頑張りたい。

### 聞くことを学んだ

(株)寺子屋モデル 横畑雄基

今回は久々に班長をさせていただいた。しかも若きら集う学生班であり、そのエネルギーに負けじと臨んだが、五班は班員が控えめで大人しく、素直な気持ちを表現できず苦しんだ子もいた。

班員の声を何とか引き出したいと考えれば、講義でも聞きのがしをしないよう精一杯耳を傾けた。おそらく合宿に参加

しだしてから、講義中に寝なかつたのは始めてであろう。「むづかしい」と思ってしまった、そこで心を閉ざしてしまうのではなく、その人が何を伝えたいと思っているのかを理解しようとする努力してみれば自分でも驚くほど先生方の言葉が自分にしみ込んできた。

最終的には、皆も自分の言葉で感想や質問のできる班別研修ができるようにもなり充実し、かつ実りある三泊四日を過ごしてくれたことが伝わってきた。

日々の生活の中でも、今回の体験を生かして、人の話を精一杯努力してさく姿勢を持ちたい。

### 班長

久々に若き友らと寝食を共に過ごして学び深めし

真剣に講義拜せば言の葉のしみ込むがごとく伝はり来るなり

### 新しいスタートラインに立つことができました

(福岡県立直方高等学校教諭 小野吉宣)

先づ第五十二回合宿教室の運営委員の諸兄に心より厚く御礼申し上げます。内海勝彦運営委員長が「知識を増やすより自問自答せよ」と皆に言はれました。班の中で、又は通路を歩くときも、自問自答を平常とは違う次元で、又、真剣に行ひ続けることができました。

### 〈他と共なる生の自覚〉

チームワークの大切さ、情報の交流が適切になされ、お互



ひが相手の心を尊重し合ひ、一つの目標に向かって、己々の良さを発揮し、実現に努力する。「不揃ひの一本一本の木がうまく組み合わせられ合体し、千古ゆるがぬ五重の塔が建つてゐる」木組みに学び取ることが出来た合宿でありました。

〈講義の機会を与へられて〉

明治天皇が、国造りにいかに心をこめてをられたか、国民に対していかに愛情を注がれたか、戦ひに対して二つに分別しないやうに敷島の道を踏まれたかを話しました。

感極まつて、うまく解説できない点がありました。全体感想発表の中で学生が正確に受け止めてくれてゐた感想を述べてくれ、救はれたやうな気持ちになりました。登壇させて戴いたことにより改めて自分を見つめ直すことが出来ました。そして新しいスタートラインに立つことが出来ました。浩々然として出発します。有難うございました。一人一人の出会った学生が来年の合宿までにリーダー学生となるべく力を込めて指導して行く所存です。

全体感想発表の折に

あれこれと言葉たらざる我を攻め帰らざること悔ひし時あり

学生が我意受けとめ語り行くを聞けば煌々光さし来る

我願ひ伝はりたるを喜びぬ新たな友と学び広げむ

カメラ・レポート 11



(上) 飛鳥時代の職人道具でもあったヤリガンナで、巧みに木を削られる小川三夫先生。  
(下) それに注目する合宿参加者。

## 第六班—男子学生—

常に迷っている間は常に何かを求めてゐる

(京都大学 人間・環境学研究所 修士二年 高尾眞臣)

信貴山朝護山孫氏寺玉藏院にて学ばせて頂いた此の四日間  
はまことに得難き體驗であつた。彼の地で朝な夕なに交はし  
合つた全ての瞳てふ瞳に感謝の一念を捧ぐる次第である。南  
无阿彌陀佛。

「人間は常に迷つてゐる間は常に何かを求めてゐる。」独  
逸の詩聖ゲーテは斯く云ふ。正しく然り。成程、人たるもの  
凡夫たるものは皆心を「一つ」持つてゐるのである。さう人  
は信じて疑ふ者は寡ない。が、肝心のその「一つ」の心であ  
るが、その有様を問ふ時、此れが「一定」の目方で以て定ま  
る、さうした意味で「心一つ」であると断じられる者が果た  
してどれ程をるか。蓋し吾人は法然上人の内省に頂をみる如  
く「亂想の凡夫」であり、「常に迷つてゐる」のである。尤も、  
向下的の契機を孕むであらう。

吾人は「一つ」の「伝統」を欣求してゐる。し續ける。迷  
へばこそ、である。但し、その迷ひその儘の姿では吾人は  
「一」に轉ずる事が出来ぬのではないか。「一」は求められ  
るだけでは、不足と云へば、云ひ過ぎであらうか。かかる四  
日間の合宿を通じて、以上の答へが出たとは思はぬ。思はぬ

が唯明らかな事はあるのである。例へば傳統の連續をめぐる  
問ひは、此の四日間を一瞬時に思ひ出す處に凡そ手掛りがあ  
ると信するのである。感謝の「一念」にかへて。

朝護山孫氏寺(信貴山玉藏院)にて

去年ひとり参りしをりに涙落つ石だたみをいま友がきと歩みぬ

学問を通してお互いの心の距離が近くなつた

(東北大学 国際文化研究所 修士二年 宮地順造)

数年ぶりに当合宿に参加した。社会人になつてしまつた先  
輩や住居の離れている友人とはなかなか会つて話す機会がな  
い。しかし、この合宿に参加すればそういった懐かしの面々  
と会うことができる。さらに、合宿によつて新たな友を見出  
せることは、合宿の講義で学ぶことに優るとも劣らないと思  
う。今回の合宿の班員は講義中しばし居眠りをするし、合宿  
日程が終了した夜中になるとさつさと寝てしまふ。ところが  
講義後の班別研修になると、皆自分の考えを素直に話し、忌  
憚のない意見が述べ合われるのである。従来合宿に参加して班  
別研修に於ける沈黙を體驗しなかつたことはなかつたので正  
直、皆の活発な意見が聞けて嬉しくもあり班員を頼もしいと  
も感じた。班員のメンバーはそれぞれ大学も違えば専攻する  
学問分野も違う。しかし、合宿で学んだ十七条の憲法など共  
通の学問を通してお互いの心の距離が近くなつたのではない  
だろうか。これからもこのようなよい付き合いを続けていき

夜更けまで友の心に迫らむと心を砕く友らたのもし

## 短歌という日本特有の文化に強くひきつけられた

(筑波大学 社会学類 四年 三苦周平)

この合宿に参加しようとした最大のきっかけは、今まで自分は半生を海外で滞在してきた事、母国語の使用に根本的に問題があると感じたことにあります。さらに、日本人であるにも関わらず日本文化というものを私は全く理解していないと感じました。これらの二つの自分のコンプレックスとすらいえる感情を少しでも克服したいという気持ちがあり、今回の参加に至った訳です。いざ合宿が始まってみると参加者の方々の学問に対する向上心の強さやその知識の豊富さ、学問を真摯に考えるその姿勢には圧倒されるばかりでした。しかし、同時にその姿勢は自分にとって非常に刺激にもなりまして、自分は国語が同世代の友人達と比べて劣る事は常々実感していました。ここで見た彼らの姿勢を模範とし、今後はより合宿で学んだ事の「心」を活かした上で勉学に励みたいと思います。今回大変味わい深い講義を各先生から聞くことで、本当に日本文化は美しいものと感じずにはいられませんでした。例えば、短歌一つとっても五七五七七という短い言葉に託された歌一つ一つに言葉数以上のまさしく日本文化の重み



班別研修。班員同士で講義の感想を心の底から語り合ふ。

を実感しました。また、天皇陛下の御製を読んでみてもそうです。短い言葉の中で戦争で亡くなられた兵士に対する深いご心痛を感じることができました。短歌という日本特有の文化にこれほど強くひきつけられるということはこの合宿に來なければ決して出来なかったことでしょう。

かつて異国の地で「日本の文化とはどんなものですか」と聞かれた時の事を思い出します。その時「深みのあるものだ」と答えましたが、今同じ質問をされたらどうでしょうか。その答えはまだはつきりとは出ていません。ひよつとしたら同じ言葉答えるかも知れませんが、少なくとも晴れ晴れとした気持ちで、このような質問に対して向かい合うことが出来る気がします。

短い期間でしたが、大変実り多き時間を過ごさせて頂きました。合宿を支えて下さった全ての方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

友達と語りあかした三泊も気づいてみれば終りになりぬ

日本のために身を尽くすことのできる人になることを強く決意した

(首都大学東京 法 三年 和田浩幸)

「ますらをの悲しきいのちつみかさねつみかさねまもる大和島根を」

慰霊祭でのこの三井甲之の和歌が朗詠された時、胸がジーンとするように感じた。今回の合宿では多くの講師からご講

義頂き、班別討論でも活発な論議が交わされた。「世とものに語りつたへよ国のため命をすてし人のいさをを」という明治天皇の御製を小野吉宣先生がご自身の体験と重ね合せながら、涙を流してご紹介なされた。天皇陛下は名もなき民の上を思われ、しきしまの道という厳しい修行を自らに課しておられることが感じられた。又、小川三夫先生は職人達のモノを作る執念、ひたむきな姿から生まれる日本の伝統について語られた。そして、実際に法隆寺に行き、木造建築の奥深さとそれを守り抜いて来られた数多くの職人の姿のあったことを感じた。

日本の国を守って来られたのは歴史の表舞台に登場する偉人によるもののみではない。例え名誉、金、地位が無くてもその信ずる道をひたむきに進み仲間と助け合いながら事を為してきた名も無き人々の生き方にこそこの国が守られてきた所以があるのだと思った。自身の願いに忠実に生き、その上で日本のために身を尽くすことのできる人になることを強く決意した合宿であったように思う。

班員との出会ひを思ひ返して

合宿に集ひ来たりし友どちと心通はし笑みたたへけり

いつはらざる己の思ひ語りなば友も返せしまことの言葉を

慰霊祭において祭詞を拝聴して

国汚す奴あらば正さむと思ひ定めし祭りの庭で

学校ではできない深い付き合いができた

(成蹊大学 法 三年 亀澤矢汐)

自分は合宿への参加が今回で三年目となり、率直に申し上げれば半ば国文研での活動に嫌気が差していてあまりやる気がありませんでした。しかし、班員のみなさんのおかげで充実した合宿を過ごすことができ、初心に帰ることができました。

班別討論ではみなさん積極的に発言され、しかもみなさんよく勉強されており自分もお蔭様で勉強になり、多少なりとも発言することができました。討論以外でも皆さんと腹を割って話をすることができ、学校ではできない深い付き合いができたように思います。今回の合宿を再出発点として皆さんに負けないよう学問に励んでいきたいと思っています。

信貴山で共に学びし思ひ出を糧に学問を励んでゆかむ

合宿教室を楽しむことができました

(九州工業大学 情報工 三年 鷲頭祥平)

今回の合宿教室は私にとって初めての合宿教室でした。正直に言って合宿教室が始まるまで私は合宿教室に対して漠然とした不安を抱いていました。しかし、合宿教室が始まるとすぐにその不安はなくなりました。なぜなら始まって三十分もしないうちに隣の人が今にも眠りそうになりながらも一生



短歌創作導入講義。防衛省・銚信弘先生は「短歌を作ることは、現実をありのままに見る目を養ひ概念的な思考を正すといふ大変重要な意味を持ってをり、それは心と心、現代人の心と歴史をつなぐものである」と説かれた。

懸命話を聞こうとしていたからです。それから先は本当に合宿教室を楽しむことができました。

合宿教室を通して最も良かったことは六班の仲間に出会うことができたということです。共に短歌の相互批評を行ったり、共に輪読をしたり、時には講義中に眠っている仲間を起こし合ったりと本当にあつという間の四日間でした。よい仲間に出会うことができ、その仲間と一緒に日本の歴史や精神を学ぶことができたというのは本当にありがたいことだと思います。これからも六班の仲間には負けないよう日々、日本のことを学びたいと思います。

四日間ともに学びし六班の仲間との縁はありがたきかな

### 班員皆が生涯の友を得たと感じる

(日章工業㈱ 藤新成信)

内海勝彦委員長をはじめ小柳志乃夫、池松伸典、両大兄の友情によりこの合宿が成功したことをありがたく存じます。

また、例年より裏方を支へられた若手会員の皆様に感謝申し上げます。本年は学生班第六班の班付として四日間班行動に参加させて戴きました。我が班の学生は一人一人実に勝れたすばらしい班員でしたが、中でも班長を引きうけて呉れた澤部兄の班長ぶりは見事であったと感じ入ります。班員皆が生涯の友を得たことを感じました。太子の御本の輪読は今回太田文雄先生の講義、占部賢志先生、小堀桂一郎先生、小川三

夫先生と全ての講義が関連して、輪読の準備をしていたいたものと感じました。正に総力をもって合宿に太子輪読をよみがへらせたものと思ひました。次回は必携書となるべく、各地で日頃の太子の輪読研鑽を積んで行きたいと思ひます。

小野吉宣先生、長内俊平先生を思ひて

壇上で「聞こえますか」と声上げてむつび合ふ心我らに示せり

むつび合ふみ心を思へばみちのくの師のみ姿を思ひ出しけり

信貴山の神にぞいのる師の君のなづむみ腰のとく癒へまさむことを

### 心が潤った四日間だった

(アサヒ飲料㈱ 澤部和道)

合宿を通して心に残った言葉があります。

「一人一人が日本人のアイデンティティを見つめ直し気概をもつことが重要な『総力戦の時代』に突入した」(太田文雄先生)、「古典の読み味わい方、何が書かれているかではなく、どう書かれているか」(占部賢志先生)、「聖徳太子が如何に神々の共生を実現し、今の日本の国柄を築いてこられたか」(小堀桂一郎先生)、「理屈も言葉もなかった(職人の世界)下手なら下手なり精一杯」(小川三夫先生)、「体で読んできた」(岸本弘先生)、「日本という自国との接し方、歴史と向かい合う姿勢」(小野吉宣先生) これらの言葉はこれから一年間学んでいくモチベーションとして心に留めておきたい。

今回、学生班の班長として参加させて頂き、学間に年は関係ないと改めて感じた。班員は皆、素直で心を通わせることに皆正面から向かい合っていたように思う。素晴らしいメンバーだったし、素晴らしい四日間だった。班長としては班付の藤新成信さんのどっしりとしたサポートがあったことも非常に大きかったと思う。私自身普段の日常生活の中で渴いていた心がこの合宿生活で潤った気がしている。

ありがとうございます。

合宿も愈々最後の迫り来て皆と別れることのおさびしき

## 第十一班 | 女子学生 |

見識のある年上の方々と一緒に班になれて嬉しかった

(青山学院大学 国際経済 一年 河口はいりん)

事前に送ってもらった二冊の本の内容から分かっていたのですが、やはり圧倒されました。特に国歌斉唱で、あんなに堂々と地響きが鳴るような声で誇らしく歌っていたのが印象的でした。普段国を意識していない自分が歌うことが恥ずかしく、抵抗感がありました。不愉快な感じはしなかったです。一番嬉しかったのは、とても見識のある年上の方々と班が一緒だったことです。批判に対して寛容で、素晴らしい祖母を持つておられ、内面から良さがにじみ出ていました。



野外研修。1300年前に聖徳太子によって建立された法隆寺。到着後、中門前にて小堀桂一郎先生と小川三夫先生を中心に、記念撮影も行はれた（写真は5頁を参照）。

短歌創作でも数々の面白いアイデアやアドバイスが聞いていてすごく楽しく、不完全だった短歌が一つずつ化けていくところなどはとてもワクワクします。こういうのが職人が感じる達成感なのでしょうか。

いにしへの聖人賢人に思ひをはせやまとだましひをかいま見るかな

### 心に残った短歌相互批評

(麗澤大学 国際経済 四年 小林紀恵)

今回の合宿で一番心に残ったことは、班別短歌相互批評でした。これまでの合宿では先生方に直して頂いていたのですが、今回は自分たちで直すように言われ、正直かなり戸惑いました。何の準備もしていなかった私は時間内に終わらず、皆さんにご迷惑をかけてしまったのですが、限られた食事や入浴の時間をさいて、私の歌の直しを手伝ってくれました。

この合宿でいつも感じるのは、先生方のご講義から学ぶことと同じくらい、友人から与えられることも多いということ。今回の合宿では相手の立場に立つて考えたり、相手は何を言いたいのか理解しようとする姿勢が特に強かったように思います。誰か発言している時は顔を見てうなずきながら話を聞く。こういう態度で合宿に臨んでいる方々と過ごしたこの四日間はとても有意義でした。班員の皆様、本当にありがとうございました。

友たちと共に過ごせしこの日々は我が人生の宝になりけり

素の自分を受け入れてもらえて自信が持てた

(佐賀大学 医 三年 坪井恵利)

いつも何となく通り過ぎてしまうことでも、和歌をつくらうとして、見て聞いてにおいをかいで触っていくと身体が研ぎ澄まされる思いがしました。和歌を作ることに抵抗があった私は、すごくいい歌をつくらなくてはいけないのだと必死になっていました。しかし短歌を班の皆で読んで、その人が何を感じたのか、何を思ったのかを皆で分かってくれようとする姿勢、またその人の感じたことを皆で考えて歌を作っていくとする姿勢を見て思いました。すごく嬉しくて楽しいと。それができたのはやはり皆と寝食を共にして、何も自分が取り繕う必要がないと感じたからだと思います。そして素の自分を受け入れてもらって、自信を持って素の自分に向き合って感じる事ができたのだと思います。本当にこの合宿に参加してよかったです。心から思いました。

第五十二回合宿教室に参加して

夜も更けてより合ひ語る乙女らの咲く恋花の微笑ましきかな

皆さんのおかげでとても良い短歌を書き上げられた

(富山県立大学 工 四年 古河朝美)

私は今回の合宿が初参加で、最初は班員の皆さんと仲良くできるのか、短歌はうまく作れるのかなど心配事はばかりでし



だが、班員の皆さんや班の先生方にも恵まれ、とっても楽しい四日間を過ごすことができました。中でも最も印象に残っているのは班別短歌相互批評です。自分の書いた短歌で私が言おうとしていることを理解していただき、皆が意見を出し合って下さいました。最初に書いた短歌は言いたい事を全て言い切ることができていなかったのですが、班員の皆さんのおかげで最終的にとっても良い、納得できる短歌を書きあげることができました。いくつもの心配があったのですが、良い班員やその他の方々のおかげもあり、充実した日々を過ごせた事は良い経験になりました。この合宿を紹介して下さいた岸本先生にも感謝の念でいっぱいです。

初講義終はりて部屋に行きたれど初めて見る顔不安募りぬ  
熱射病で苦しむ私に気をつかひ声かけられる優しい友ら

### 十一班の友と一緒に過ごせたことが嬉しい

(輪寺子屋モデル 黒岩礼子)

合宿を通して一番印象に残ったのは、三日目の短歌相互批評です。六回目の参加となりますが、今回の相互批評が今までが一番楽しく、充実したものでありました。一人一人の歌に皆が活発に意見を出し合いました。何とかその子の気持ちに合う言葉を探したい、良い歌を創り上げたいとの思いが、それぞれの胸にあつたのだと思います。歌が出来た時には、大きな拍手と喜びの声ががりました。初めての経験です。



法隆寺五重塔にて屋根の大きさの構成を説明される小川三夫先生。

本当にこの十一班の友と一緒に過ごせたことを嬉しく思いません。私にとってこの合宿の一番の魅力は、このように親しい友人を得ることができることです。今年はどうのような出会いがあるのだろうかと毎回楽しみに来ています。十一班の友たちのおかげで、短歌相互批評のよさ、楽しさをまた新たに実感することが出来ました。本当に有り難うございます。

#### 班別短歌相互批評

歌一つ出来上がるたび拍手わき喜び合ひしことぞうれしき

#### 日本人としての喜びも噛み締めることができた

(永島齒科クリニックス 永島あいら)

今回合宿教室に参加し、私自身一回りも二回りも成長したような気がします。普段なかなか聞くことが出来ないようなお話をたくさん聞き、とても考えさせられました。先生方の講義は本当に素晴らしく、圧倒されっぱなしでした。次回はもっと多くの本を読み、参加させて頂きたいなと思っております。また私の班はとてもしばらしいグループでした。十一班だったことに感謝致します。班長、班付の先生方をはじめとし、皆が自分の意見を率直に発言することができ、それ以上に友の話に一生懸命に耳を傾ける、それぞれの姿がキラキラと輝いていました。忘れられないのは短歌相互批評です。まるで自分の歌のように懸命に考え、意見を交換し合い、納得のいく歌が班員のおかげでできたこと、何よりの喜びでした。

た。日本人としての喜びも噛み締めることができた瞬間でもありました。この合宿に関わっている全ての方々にお礼申し上げます。有り難うございました。

夏の日々に友と過ごせし信貴山で得しものすべてはかり知れずも

お互いが違う考えであるからこそ新しいものが生まれる

(日本植生園 足達優子)

合宿に参加することは私にとって大変勇気のいることでした。しかし終わってみれば大変充実した四日間でした。ご講義下さった先生方、機会を与えてくれた会社、そして何より班長先生をはじめとする班員の皆さんに御礼申し上げます。最も印象に残っているのは短歌相互批評です。その人が何を感じたのか、何を伝えたいのかを皆で考え、もつとこうしたら良いのではないかという作業に全員で取り組んで、よりよい歌ができたら歓声があがる。この経験は何よりも得難いものだったと感じます。自分が感じたことを伝えようとする姿勢、相手が何を思ったのか分かったという姿勢、そこから一人では創れなかった新しいものが生まれたことは、例えお互いが全く違う考えを持っていたとしても、いや違う考えであるからこそ、新しい一歩前進した考えを生むことができるのだと感じました。嫉妬が人の目を曇らせてしまうように、偏った視点で新しいものを生み出すチャンスを逃さないように、今後も様々な人と話す機会を持ちたいと思います。

七色の友らの声が合はさつて心に虹を描きけるかな  
新しき友の言葉を真剣に聞きて語りし時忘れめや

### 小川三夫先生の法隆寺でのお話に感動

(大阪府立牧野高等学校教諭 絹田洋一)

初めて女子班班長をさせていただきました。前半は全員が活発に発言、といふ訳にはいきませんでした。前半は全員が姿勢で臨んでをられ、徐々に親密になっていくのが分かりました。班別短歌相互批評を班員主導の形にしたところ、全員が活発に意見、感想を出し合ひ、かつて経験したことがない盛り上がりでした。講義、合宿テーマの理解の深度の面では反省点(自身の力不足)が残りましたが、班員の皆さんは口々に満足の弁を述べられ、感激しました。

内部講師のご講義は迫力溢れ、圧倒される思ひでしたが、班員には難解で、消化不良の感もありました。しかし小川三夫先生のご講話は全員の心に染み渡りました。また法隆寺で、いはば現場で木材を見ながら直に小川三夫棟梁のお話を伺へたのは、貴重な体験でした。今後もできればこの様な時間が是非欲しいと思ひます。

小野吉宣先輩の御講義で母堂の兄君のお話を伺ひて

み戦に征かれし兄君はフイリピンの地に失せましき遺骨もなく  
いづくにてか生きてあるべしと今もなほ先輩の母堂は信じ給ひぬ  
今もなほ生きてあるべしと信じ給ふ先輩の母堂の御心悲し



古典輪読導入講義。元富山県立富山工業高等学校教諭・岸本弘先生は『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』を輪読した学生時代の経験を「体育会系の仲間達と体と体をつつけるやうに読んできた」と語られた。

兄君のみ姿もしや写りをるかど戦争記録ビデオ買はしぬ  
兄君のみ姿なきかと戦争の記録ビデオに見入りましきと  
たまさかに写りをるなど有り難きに一生懸命に見入りますとふ

しかはあれど「もう見なくていい」と母君は記録ビデオを打ち遣  
りましき  
国のため戦に斃れしすらをを貶めやまざるビデオなりきと

## 心の通ひ合ふ班になった

(防衛省装備本部長崎支部 鏡 信弘)

福岡の皆様と長崎の内田英賢さん、橋本公明兄にリハーサルを聞いていただき、御指導をいただいたお陰で、何とか「短歌創作導入講義」の大任を果たすことができました。ありがたうございました。また初めての女子班の班付をさせていただきましたが、絹田洋一班長はソフトで真摯に取り組まれ、また太田文雄教授にも来ていただき、難しい講義も実経験を伴ふ話をしていただき、班別研修はスムーズにスタートした。口数の少なかった二名程もすっかりとけ込み、班としては大変心の通ひ合ふ班になった。特に短歌相互批評では班付が余計な口をはさむ必要もなく、皆で作者の気持ち聞いてそれぞれが提案しつつ添削がなされ、作者本人も班員も納得する一首になっていった。時間も制限内に終はることができ、大変理想的な相互批評になった。

## 橋本公明兄へ感謝

台場上がりて私の講義への取り組みを語りくれし君はも  
自らを不揃いの木になづらへて励みゆかむと君は語りぬ

## 第十二班―女子学生―

御製を拝誦し、短歌を詠み続けていきたい

(北海道大学 四年 安田陽子)

友の心に本当に向き合ふといふことは、とにかく「聴く」といふことであると、一端ですが分かったやうに思ひます。小川三夫先生が「寝食を共にする」といふことをご講義の中で特に語られておりました。合宿最終日にして、寝食を共にし、共に学ぼううちに友とのつきあひは深まってゐたのだ、と感じることができました。とても清々しい思ひです。

寶邊矢太郎先生が全体批評の折に「短歌を詠むことは心の整理整頓」とおっしゃられたのが心に響きました。

前回参加した合宿で短歌を詠んで以来、短歌を詠まなくて久しいのですが、確かに心は乱れ、雑念が多くその自分との葛藤が続いてをりました。下手でも短歌を詠み続け、御製拝誦を怠らず心を磨き続けていきたいと思ひます。

合宿を運営し、またご指導くださいました先生方、本当に

ありがとうございました。

ただただに楽しかりしと語らるる友のお顔の清々しきかな  
御友らと互ひに想ひを語らへば自づと顔もほころびゆきぬ

### 十七条憲法の意義を学んだ

(日本青年協議会 二萩 祥)

今回の合宿を受け、まだ文字のなかった時代に中国の仏典を学び、その文字を紡ぎ合わせながら十七条憲法を制定された、という事実がいかに意義深いものであったかを学んだ。占部賢志先生のご講義の中で、約七割は中国の仏典などの引用であり、太子の思想は三割であると話されたが、その三割にこそ日本文化、国の理想が凝縮されており、言葉に表されたことで、それらが形となって残されたことを教わった。太田文雄先生のご講義では、世界の中で一人一人が日本を護るためには、日本文化を世界に発揚していくことが求められると話されたが、我々が日本文化を自覚し、日本の理想を語っていけるのは、聖徳太子によって日本の姿を十七条憲法という形にして頂いたからではないかと思つた。

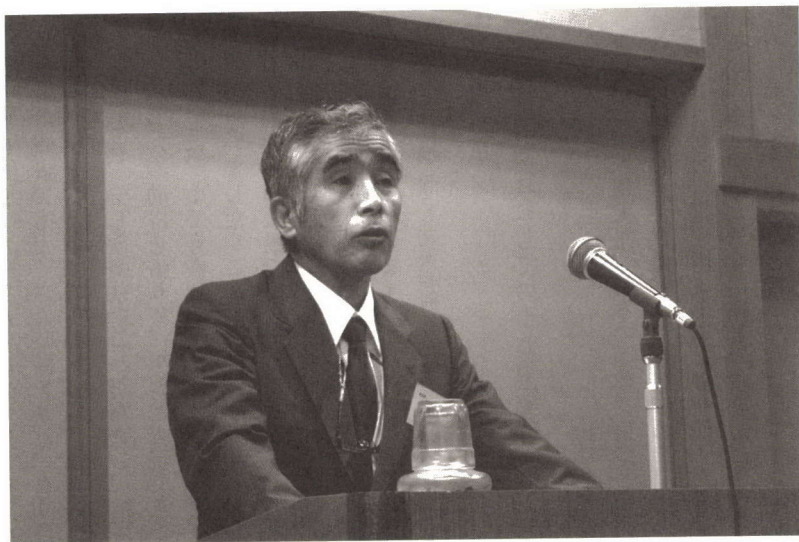
日本を護るためにも、十七条憲法をしっかりとして読み深め、太子の御心をお偲びする学問を続けていきたい。

良き友とめぐりあひたる合宿あひだりで共に学びしことぞ嬉しき

#### 短歌相互批評

机をば囲みて皆で黙りこむ想ひあらはず言の葉探して

カメラ・レポート17



福岡県立直方高等学校教諭・小野吉宣先生は、戦争で兄を亡くされた母上がなほその生存を信じてをられた様子を切々と述べられた。

本来の日本の姿を学んで、感動した

(早稲田大学 二年 清水温子)

今の日本人、特に学生である私たちは、本来の日本の姿を知りません。学校の先生は教えてくれません。そして、教科書にも載っていません。この四日間で歴代の天皇のすばらしさや、聖徳太子の作った十七条憲法の内容、お国のために命を散らしたあの時代の日本人の姿を知り、涙あふれる思いでした。

そして改めて今の首相には、日本人の代表として堂々と靖国神社を訪れ、手を合わせて欲しいと心から思いました。今の日本があるのは、彼らのおかげです。手を合わせることは日本人の義務だと思います。今回の合宿で一番強く感じたことは、ここで学んだような事実を教科書に載せるべきだということです。そして、日本人が愛国心を持ち、日本人であることに誇りを持てるよう、すべての国民にこの事実を知ってもらいたいと思いました。

久々に母と歩みし法隆寺を再び来むとひそかに思ふ

真剣に語れる友人に出会えた

(二葉栄養専門学校 二年 小林久乃)

今回初めて合宿に参加させて頂いたのですが、あつという間の四日間でした。たくさんの先生方の講義を聞き、理解で

きていない部分も多かったと思いますが、自分にとつてとてもよい経験になり、たくさん学ばせて頂きました。

短歌相互批評でもたくさん時間をかけ、より自分の気持ちが表示できるよう指導して頂きました。初めて短歌を詠んだということと、少し欲張りなことが邪魔し、納得する歌がでず、皆さんの助けを借りて、やっと表現できました。

懇談会では、とても盛り上がり、しかし真剣に語ったことを嬉しく思いました。こんなに真剣に語れる友人が何人いるかと考えよういつた場でお会えたことに深く感謝しました。人との出会いは財産になると改めて思い、大切にしていきたいと思えます。こういった出会いを求めて、来年もぜひ参加させて頂きたいと思えます。ありがとうございました。

寝食を共に過ごせし友人と別れる時のなごりおしかな

道徳的指針としての十七条憲法

(働はせがわ 菅井若菜)

世界情勢、聖徳太子、日本の国体、皇室と今回の合宿で学ばさせて頂いたテーマはどれも私がこれまでの人生で日々身近にありながら、深く考えることのなかった事柄でした。

天皇さまも聖徳太子も、戦争で命を落とされた方々もみな、この日本を想う心は同じだったのでしよう。天皇さまの御製からは国民に対する深い愛が、十七条憲法から民に道徳的指針として人としてあるべき生き方を示そうとする聖徳太子の

想いが込められていると学びました。みな、日本の素晴らしい心を信じる強い心を持つていたのに、私たち現代に生きる者は、その心を忘れたり、なくしたりしています。もう一度、自分が生まれた国の歴史をふり返り、過去に学ぶことも大切なことであると、改めて感じました。出会えた皆様に深く感謝します。

御佛に生かされていま信貴山で学べることこそ有り難かりけれ

### 班別研修で心を通わすことの大切さを学ぶ

(平岡栄養士専門学校 一年 黒川菜美子)

大変、素敵な時間を過ごさせて頂きました。ご縁をいただきありがとうございます。

学校では習わないけれども、とても大切なご講義ばかりで一生懸命聞かせて頂きました。その後に行われました班別研修では、①他の方の感想を聞き理解を深めていく、②知識だけをつめ込むのではなく心で感じ取っていく、というこのやり方が、素晴らしいご講義に加え、さらに勉強になりました。十七条憲法、太子様の御心は、今この時代にとっても必要なことだと感じます。おかしなことをいう人もおりますが、私は今日学ばせて頂いた多くのこと、特に十七条憲法を胸に、日本人としての誇り、美しい心をもって勉学に取り組みたいと思います。多くの人に日本の大地で育った食物を食べ、日本の心を持つて欲しいと思いました。ありがとうございました。



三日目午後。創作短歌全体批評。山口県立熊毛南高等学校教諭・寶邊矢太郎先生は、「班別短歌相互批評では、作者の話に心を傾けてその気持ちに相應しい言葉を見つけてあげてください。友と呼べる心の通ひ合ひが生まれるはずです」と語られた。

た。

### 十七条憲法を学びて

聖王の御心つがんと人々がつとひて学ぶ日本の誇りを

言葉は言霊である

(榊石村萬盛堂 下池明子)

今回初めて合宿教室に参加して、体全体で日本の心を学びました。

先生方のご講義を聞いて、内容に関しては勉強不足で理解できない部分はたくさんありました。しかし、共通して感じたことは、ご自分の言葉でお話しされていて、ご自分の世界観を持っていらつしやるからこそ言葉一つ一つが理解できなくても、心に響くものがあるということ、つまり言葉は「言霊」であると改めて思いました。

三泊四日の生活を共にした班の皆さんも学ぶべきことがたくさんありました。私が社会人になって学んだ、人に対しての思いやりや心遣い、気配り、気遣いなどが、皆私より年下の身に付いていることに驚かされました。

今回の合宿で学び感じたことを、これからの人生において役立てていきたいと思えます。

憂鬱な気分も晴れて今はただ充実感に心満たさる

### 合宿に通底する太子の思想

(熊本県立御船高等学校教諭 今村武人)

今回、三年ぶりの参加となった。懐かしい多くの方々と再会することができたが、中でもご病氣とお聞きしてゐた小柳陽太郎先生の元氣なお姿を拜見できたことは何よりもうれしいことであつた。

さて、占部賢志先生、小堀桂一郎先生の御講義には学ぶものが多く、未だ整理のつかない状態ではあるが、小生の太子学習に新たな方向を与へることになった。考へるに、太子の時代の様相は現代日本に通ずるものがあり、私たち日本人はもう一度、改めて聖徳太子哲学に学ぶべきだと思ふ。

ところで、今回の合宿では図らずも班長を引き受けた。女子班といふことで少々不安に思つたが、杞憂であつた。ほとんどの人が初参加ではあつたが、難しい講義も前向きに捉へ、班友の言葉にもしっかりと耳を傾けていただいた。一寸した「以和為貴」の具現だつたと思つてゐる。

小柳陽太郎先生とお会ひせしをりに

慈愛深く我にみこゑをかけらるる大人のみ姿のなつかしきかな

乙女らの中に入りてわれもまた会話はずみて時を過ごしぬ



## 秋のゴールデン・ウィーク構想に反対する

(國學院大學 博士課程 後期 一年 大岡 弘)

池松伸典先生を中心とした諸氏の御努力と中島昌信先生の御協力とにより、慰霊祭がおごそかにとどこほりなく肅行されたことに感謝したい。

経済効果をねらったと言はれる「秋のゴールデン・ウィーク構想」が突如として与党内から持ち上がるなど、本来「新嘗祭」と改名されるべき由緒正しい十一月二十三日の「祝日」日を移動せんとする文化破壊の意思には怒りを感じる。合宿で教へていただいたことを見直して、今後さらに勉強していきたいと思ふ。

聖徳太子の十七条憲法をはじめとする御文章はむづかしかった。班別研修でより深く味読できなかったことが、私の反省点である。

準備せし友らのいたつき偲びつつうれしく思ふみ祭り終はりて

### 第十三班—女子学生—

御製に深い思いを感じた

(株はせがわ 関本順子)

今回は一回目の参加となりますが、日頃当社でよく耳にす



元皇宮警察本部長・小田村初男先生は一昨年のサイパン島ご訪問時と昨年の全国戦没者追悼式での今上陛下のお言葉を紹介され「いつも遺族を偲んでおられる陛下のお気持ちを、我々国民が拝察申し上げなければ申し訳ない」と語られた。

る「日本人の生き方」に通じるご講義を多く拝聴することができました。今までは仕事から信念を持って生きてきたつもりですが、今回の合宿に参加して、聖徳太子のこと、天皇陛下のこと、歴史等々、まだまだ勉強不足を実感致しました。ただ、自分の仕事にさらに自信が持てたことは確かです。今まで、「聞く」ばかりでなかなか実感が持てなかったことも、輪読を行なうことで頭や体の中に入っていくように感じました。聖徳太子の「公と私」を輪読の中から読みとった時の感動は早く誰かに話したい思いで一杯になりました。又、明治天皇の御製を読んだ時に、その時代を想像し、私達のご先祖様方の思いを何度も何度も考えました。それほど明治天皇の御製には深い思いが込められているのだと感じました。これから私は日本人として、日本の歴史、伝統、文化等をさらに学んでいきたいと思えます。又、社会人として、仕事を通じて学生の皆さん、お客様、当社の社員にも今回の合宿で学んだことを伝え、共に学び深めていきたいと思えます。

信貴山にて

我が思ひ感ずることは数々の御祖先みおきの思ひに連なりてあり

古典や短歌に興味が持てそう

(保育士 奈良清美)

日本の文化・歴史を知りたいと思ひ参加させて頂きました。今まで拒否反応で受け付けなかった和歌や古典、そして歴史

的かなづかい等、しかし、この合宿での輪読を通じて、なるとか内容を少しは理解し、難しい文字にも慣れてきたところです。日本の文化を知るには、これらのことを丸ごと受け入れなければ古き時代の人の心が解らない。そして、御製もお読みしなければ明治天皇のお心が、日露戦争が、明治時代が解らないのではないかと強く感じ入りました。いくら歴史の本を読んでもうわすべりだと思えました。これからもう少し古典や短歌にも興味が持てそうです。

私の息子のような若い学生さんが、みんな真剣に日本のこととを学ぼうとしている姿に心打られました。先生方もどなたにも迫力があり心に響いて参りました。慰霊祭では、日本のために命をかけて下さったみ霊たちが喜んで降りてきて下さっているように感じました。すばらしい学びでした。感謝  
合掌

信貴山に大和の心学ばむと集ふ仲間と古き書ふみ読む

良き師、良き班友に恵まれた合宿教室

(島村善子)

例年になく暑い夏、いろいろの事情のなか、私にとつての今夏最大のお目当ては合宿教室でした。

ご期待申し上げていた小堀桂一郎先生のご講義や小川三夫棟梁のご講話と実技のご披露を始めとして、お力のこもった岸本弘先生の古典輪読導入講義、小野吉宣先生のご心情溢れ

るご講義など、いずれの方々もこれまでの人生の総決算とも云うべきエキスに接することが出来ましたが望外の幸せでした。改めるべきことにも気付かされ反省致しております。最後の全体感想自由発表におけるお一人お一人の発言にも心強く打たれるものがあり、良き師、良き班友に恵まれた充実した合宿教室でした。

ここまでご準備、実行なされた関係の方々からお礼申し上げます。まことにありがとうございました。

合宿教室を終へて

待ちわびし信貴山合宿なりし今生くる喜びさらに強まる

諸先生のお話の熱気と気概に感動

(阿部サナエ)

今回は三回目の参加になります。毎回メイン講師のお名前にひかれて出席させて頂いて居りますが、今回も小川三夫棟梁と法隆寺とにお会い致したくて参加申し込みをいたしました。

この度の会で嬉しかったことよかったこと。

一、同班の方々がとてもよかったこと（大変お世話になりました）。

二、諸先生方のお話の内容とその話される時の熱気、気概。

三、班長の博い知識と指導なさる時の態度

長内俊平先生のお顔とお声にお会いできなかったことを淋



三日日夜。慰霊祭に先立ち、元新潟工科大学教授・大岡弘理事から、慰霊祭の趣旨と祭儀の手順が懇切丁寧に説明された。

しく思っております。

長内先生はこの度はお見えにならず

あのやうになりたし生きたしとあこがれし師の声おもかけここに  
て偲ぶ

「祖国日本への想い」を深めることができた

(中学校教諭 今西由季)

私は、今回初めての参加で、二日目の途中までの参加だったのですが、改めて「祖国日本への想い」を深める取り組みに深く感動しました。

感動したことは、四点あります。

まず一つ目は、開会式で「国歌」を歌ったことです。「国ありて我々がいる」という思いがしました。国歌を歌うことが少なくなつた昨今、国歌にこめる思いとその意味・歌い方を継承していかなくてはなりません。

二点目は、開会式で「戦時・平時を問はず、祖国日本のために尊い命を捧げられた先達の御霊に対して」黙祷をしたことです。「先人があり、我々がある。大和の国・日本をつくられたのは先人であられるのだ」という思いを改めて深めることができました。先の大東亜戦争に限らず、今までの先人に対して黙祷を捧げることは、とても大切なことです。

三点目は、私は参加できず送っていた資料で知ったのですが、「慰霊祭」が行なわれており、「海ゆかば」を斉唱

されたことです。

慰霊祭の文面にも「戦時・平時を問はず、祖国日本のために貴い命を捧げられた、あるひは、祖国日本のために生涯を捧げられた全てのみ霊を、御祭神として斎庭にお招き申し上げ、ご馳走をお供へして、おもてなしをすること」とあり、大変心をうたれました。私も参加したかったと残念です。

最後に四点目は、「歴史のかなづかい」を推奨されておられることと、レジュメは縦書きだったことです。

戦後の日本語改革で、漢字は当用漢字に改められたこと、歴史のかなづかいがなくなつたこと、日本語が横書きになつたことは、残念でなりません。日本語の良さは、戦後では分からなくなつていてと思います。以上が、合宿で感動した点です。

各先生方のお話が素晴らしかったことは言うに及びません。短い間でしたが、同じ班の方々と楽しくお話ししていただいたこと、国民文化研究会の方に親しく話しかけていただいたこと、とても感謝しています。ありがとうございました。

玉蔵院についてすぐ、手洗いの場所が分からなくて困っていると、親切に教えていただき、さらに連れて行って下さつた方がおられました。ありがとうございました。このような思いやりのある「和」の文化をこれからも大切にして、「大いなる和」の国、この「大和」の発展を願つてやみません。

最後に、合宿でお世話になつた方々、ありがとうございました。今後も宜しくお願い申し上げます。

信貴山に集ひし我ら敷島の国を愛して日々々に励まむ  
夏の日の心に響きし思ひ出は祖先みなもとに捧げし感謝の祈り

### 脈々と受け継がれてきた精神に感銘

(介護職 坪井好子)

先生方のご講話ひとつひとつを拝聴しながら感じたことは、歴史の大きな基点から永い歳月を経てもゆるぎなく脈々と受け継がれてきた精神があるという事実です。そして、そのことに大きく感銘しました。

日常生活において、限られた情報に惑わされて、心の支柱を見失ってしまいがちですが、ここ数日の合宿でそれが呼び戻されたような気がします。

又、学生達の目の輝きを取り戻していく様は、国を思っているに挑んでいった若者たちの心意気に少しでも近づいている気がします。私もその心意気を感じとりながら、今回学んで得たものを公私において活かして生きたいと思えます。

最後にお世話を頂いた先生方やスタッフの皆様深く感謝申し上げます。

全体感想自由発表を聞きつつ

若者の我も我もと語り行く熱き眼まなこは見るも頼もし



合宿最後の夜を迎へ、星空の下で慰霊祭が厳粛に行はれた。祭詞を奏上する元大日本園芸株式会社取締役社長・磯貝保博副理事長。

充実した日々を過ごせた

(清水希久子)

一介の主婦で、社会に出ることもなくすごして参りましたので、皆様について行けるかしらと少し不安でしたけれど、御講話下さる先生方の情熱に、いつしか学ばせて頂くことが嬉しくなり、来てよかったと思えるようになりました。聖徳太子の思想が今の世に大切な御教えであること。宮大工小川三夫先生の「昭和の大修理は千三百年前の棟梁の心がわかるから」というお話しに、悠久の昔の祖先の思いが今の世に脈々と生きつづけていることに感銘をうけました。

すばらしい御講話はさることながら、輪読、和歌を作る初めでの経験を見せて頂き、心のうちを三十一文字にすることのできないもどかしさ、先生に教えて頂きながら一首できた時の嬉しさは忘れられません。この様に充実した日々を楽しむくすぐせたお仲間に出会えたことは何よりの宝です。貴重な体験をさせて頂きありがとうございます。お世話下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

めぐりくる次の夏まで持ちつづけむ友と学びしこのよろこびを

山寺の雰囲気が良かった

(熊本市役所 折田豊生)

奈良における合宿の開催といふことで、聖徳太子の御思想

に学ぶことが研修のテーマとされたが、各御講義の凶らざる連係、法隆寺の見学等によって、スタッフが所期する成果は十分に達成されたものと思ふ。諸先生方、諸兄に対して心から御礼を申し上げたい。

山寺である合宿地も、研修の場所として雰囲気が良かった。班にあつては、お一人おひとりが熱い思ひを抱いて日々努められ、その思ひのままにこの研修に臨んでをられることを語り合ふごとに思はされた。よきメンバーに恵まれたことにも深く感謝したい。

全体意見発表における若き友らの言葉には、いつも胸を打たれる。国のいのちにつらなるこの集ひの尊さを改めて思はされるとともに、今年もまた学問の原点を確かめる機会を与へられたことを有難く思ふ次第である。

幸ひは学びの友らに恵まれて心豊かに日々を経しこと

幸ひは友らとともにみ思ひの深き御講義いただきしこと

幸ひは若き友らが真顔なし思ひを述ぶる姿見しこと

幸ひはみ国のいのちにつらなる学びの集ひに参りえしこと

和歌創作の良いヒントを得た

(小田原高等学校教諭 原川猛雄)

日頃、太子の十七条憲法の教へを心の支へとしてゐる私にとって、今回の合宿は心待ちにしてゐたものでした。そして、期待どほりの大変充実した合宿を過ごすことができたと思ひ

ます。太子にゆかりの深い信貴山といふ土地で学べたことや、小川三夫棟梁のご説明で法隆寺を参観できたことなど、太子のお側近くで学んでゐるやうな気がして何とも言へず幸せなことでした。

十三班のメンバーは、皆さんが日頃から問題意識をもつて過ごされてこの合宿に意欲的に参加されてゐる様子が伺へました。班別討論や輪読などにも一人ひとりが真剣に取り組まれてゐました。折田豊生班長は丁寧に分かりやすい話しぶりで、班員のなかに自然に溶け込み上手にリードされてゐました。日々の精進の賜物と敬服しました。

日頃、和歌を作らず、創作は苦手な私ですが、今回、折田班長から良いヒントを得ました。それは、決していい歌をつくらうなどと構へずに、見たままの情景をありのままに詠むこと、そして、そのためにはこまめにメモを取るやうに心がけるといふことです。まだまだ、ものを見る目、言葉を的確に選ぶことについて、自分の未熟さを改めて思ひ知らされたことでした。これからこつこつと実践し努力を積み重ねていかなければと気持ちを新にしてゐます。

最後に、内海勝彦委員長はじめ合宿の準備運営に当たられた方々にお礼申し上げます。

#### 法隆寺五重塔

いにしへの飛鳥の匠は木々のくせよく見て建てしてふ五重塔を  
それぞれの木々の力の合はさりてあまたの歳月塔を支へつ  
見上ぐれば時空を越えて美しき五重の塔の黙して建てり



合宿を通じての一コマ。講師の講義に聞き入る参加者たち。

## 第二十一班—男子社会人—

この地に来れたのが一生の宝です

(折尾愛真短期大学 松田 隆)

本当に又、今回の合宿に参加出来て幸いです。やはり「地のり」というものが、人に与える影響の大きさを感じております。この信貴山の地に来ることが出来た、この思い出は私の一生の宝になります。本当に有難うございます。

私の勤める学校は無教会派のクリスチャン系ですが、これから学内で「内村鑑三」の書を輪読するクラブを作りたいと考えております。

来年も出来るだけ参加出来るよう頑張ります（来年は家内に行くよう命令？してみるつもりです）。

合宿の講師の気迫に我うたれ太子の御姿そこに見えけり

聖徳太子について集中的に学ぶ良い機会を得た

(調神社 岸野克巳)

今回初めて参加致しましたが、合宿全体を整然と運営された大勢の方々の御努力には頭が下がりました。目に見えぬ大変な御苦労があったことと思ひます。御礼申し上げます。

この度の合宿は聖徳太子について集中的に学ぶ良い機会です

ありました。輪読テキストに引かれた太子『勝曼経義疏』のお言葉に「菩薩の物を化するは慈母の嬰兒に就くが如し。故に世の法母となると云ふ」とあり、黒上正一郎先生の釈に「あまねき『いつくしみ』を以て同胞協力の生を養育し給ひし御心は」云々とあります。言葉は「法母」と佛教に借りてゐますが、太子の御思索の中に皇統を貫いてゆくものとは何かと問ひ給ひ、それは父母のいつくしみを以て民を養ふことだと我が国の皇室の本質に思ひ至られたといふことであらうと思ひます。「民の父母とならむ」との御歴代の御念願を思ひますと、日本に生まれた感謝と喜びとが心の底から湧き上がってきます。「八<sup>あめのした</sup>紘<sup>おほ</sup>を掩<sup>おほ</sup>ひて宇<sup>いへ</sup>と為<sup>な</sup>す」と仰せられた神武天皇から、聖徳太子を経て、明治天皇、昭和の御歴代、そして今上陛下に至るまで、民の上を思はせ給ふ大御心を仰ぎみますとき、「ありがたい」とか「嬉しい」とかいふ言葉だけではまだ足りない、なにか昔の人が「伏し拝む」と言ったやうな感動を覚えます。そして昔の人と同じ感動を味はつてゐると気付くとき、「皇統連綿」が言葉の上だけでなく、このころたましひのうちに体得されるのではないかと思ひます。

聖徳のみこのみことの愛でましうづの御山よこれの信貴山

班別研修が心に残りました

(株ビッグ・エー 篠本和哉)

今回、株式会社ビッグ・エーの社員を代表して九名をこの



合宿教室へ参加させていただきました。そのうち、一名の国文研会員を除いた八名は、日本の文化についての勉強を学校教育程度しかしておりませんでしたので、講義や班別研修では、話が理解できなくて苦労していたようでした。それでも、何とか必死でついでいこう、理解しようと努力していました。今回の合宿教室の中でいちばん心に残ったことは、班別研修でありました。講義の中には、難しくて内容が消化できないこともありましたが、班で話し合いをする中で理解することができました。また、班の中には、社会人として様々な業種職種で活躍されている先輩方がおられましたので、参考となる話をたくさんお聴きできたことも、この合宿教室の成果でした。

最後にこの合宿教室の運営に際して、力を尽くされました関係者の方に、御礼を申し上げたいと思います。三泊四日のために一年前から準備されていたとお伺いし、本当に大変だったろうと思います。ありがとうございます。

質問をされて少しも答へられず知識の少なさあらためて知る

本当に学ぶべきことが多い合宿でした

(株)マッシュイロマン 古澤浩司)

今回、合宿教室に初参加し思う事は、さまざまの講師の先生方に講話頂き、学生時代に授業で教えられていない事実が数多くあること、又天皇が日本国民のことをどれだけ思っ



カメラ・レポート 23

「合宿を顧みて」。初めに登壇した日鐵プラント設計顧問・今林賢郁副理事長は、「ここで語り合ひ学び合って、心を通はせるべく努力したご自分を信じて戴きたい」と語られ、「我々も生きる価値があると言へるやうになるには、我が国がどんな国なのか、どうやって今日まで語り継がれてきたのかを胸に温めなければならない」と述べられた。

おられたかを教えられました。学生の授業では受験に必要な出来事の表面部分が教えられ、その出来事に対する背景が語られていないことが多数あることを知りました。戦争になつたいきさつや終戦を迎えた時の背景を授業の中でもっと伝え、学生の時にもっと考える機会が必要じゃないかと思いません。また、戦時中の国民のことを思う天皇のお気持ちや御製を通じ、痛いくらいに伝わってきました。班別研修の中では講義内容以外でも様々な話を聞く機会ができ、本当に学ぶべきことが多い合宿でした。

信貴山という聖徳太子ゆかりの地で太子の考えを学び、十七条憲法の内容で和を大切にし、相手を思いやるというのが大切であるという事を元に、今の日本は見直すべきなのかなと思います。

今回の合宿には本当に将来の日本を考えている方の、熱き想いを思い知った合宿でした。参加して見識の広がった合宿でした。

信貴山に熱き想ひの友集ひ夜遅くまで友と語りぬ

## 貴重な体験をした

(株)ビッグ・エー 南雲雄斗)

辛いという思いを持ちつつ私の合宿は始まりました。年代の全く違う人達と班を組み、講義は難解で時に睡魔におそわれ、班別研修が始まるとまたさらに難解な話が始まる。話に

入っていけないというのが、私に辛いという思いをさせる大部分だったと思います。しかし、それは時間が経つにつれ変わっていききました。私は班の人達の話題についていくのではなく、そのような考え方もあるのか、この文章はそういうことを言いたかったのかなど、自分より多くの人生経験、多くの知識を持つている人達の話をよく聞き、疑問に思ったことは質問し理解し、日本の文化の良さを学んでいくことが、今回自分がするべきことなのだと思います。帰ったら調べてみようと思ったことも、指で数えられるほどしかありませんが、作ることができました。

このような貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました。ございました。

せみの声響きわたるは夏の空流れる汗もすがすがしきかな

## 子供達孫達の時代の真の繁栄を守りたい

(株)はせがわ 長谷川裕一)

御準備下さった方々に事務局の方々に厚く厚く御礼申し上げます。二日目午前中にての退座誠に残念です。先ず自らを慎み、公を先んじ、陛下のおおみこころを根本に置き、積極的に働いて参ります。先人の御苦勞を無にするもしないも私自身と生きざまに有ると確信し、学び励んで参ります。

子供達孫達の時代の真の繁栄は私達の責任において守らねばならぬと存じます。非力ではありますが、先ず自ら次に同

志と募り実践して参ります。

信貴山のほとけのみのり神の道やまところを学び伝へむ

日本の国柄について理解を深めることができた

(元小田原市立矢作小学校長 岩越豊雄)

太子ゆかりの地、信貴山での合宿で、太子の十七条憲法や太子の御本の輪読を通して、日本の国体といふことを改めて確認し学ぶことができた。

太田文雄先生の導入講義、占部賢志さんの歴史をふまえての実証的な話、小堀桂一郎先生のご講義、岸本弘さんの輪読導入講義によって、聖徳太子の国民思想の学びを深め、小野吉宣さんの皇室と国民の話で具体的に日本の国柄(国体)について理解を深めることができた。

憲法改正といふことが、課題として出て来た今、これからの日本の国はどうあったらよいか深めることができ、法隆寺見学も含め、意義深い合宿であった。さうした意味で、歴史的由緒ある地で合宿することは意味あることであると感じた。

齋庭場もすがしく整ひしめなほのしで動かして夕風の吹く

虫のこと歌ふみ歌に合すごと慰霊の庭に秋の虫鳴く

カメラ・レポート 24



【合宿を顧みて】。内海勝彦合宿運営委員長が登壇し、「言葉に対して悪戦苦闘し、自分の気持ちはどう伝へたらいいかと努めた体験は、今後の皆さんの勉強やお仕事の中で生きる指針となるものと思ふ。どうかこの合宿で感じ取ったことを心に留め、信貴山を下りた後も学んでいって欲しい」と語りかけた。

## 第二十二班—男子社会人—

来年もまた来たい

(社会福祉法人 玄洋会 昭和学園 原崎智仁)

この合宿教室に参加すると毎回(今年で二回目ですが)発見と感動があります。「語ろう。自信の復活」など大げさな表記はいりません。歴史の重みを知ること、歴史に生きた多くの先人の業績に想いを馳せることが大切だと思います。特に敗戦後の日本では、これを大切にしていない。歴史を断絶した教育、政治、経済活動がなされているように感じるので、僕は国文研で五十二回も続くこの合宿教室の試みを大変すばらしいと感じています。昨年に続き、二回目の参加で、昨年初めて御名前を知った(講義を聞いて感銘を受けた)山内健生先生、人生の大先輩の御一人であられる岸本弘先生と御話する機会を得ました。先生方、また、班長の内田厳彦さんの優しいお人柄に触れることができたことはこの合宿で得た、たくさんの収穫の中の大きな一つです。また来年も参加できれば、と思います。ありがとうございます。

太子ゆかりの地を初めて訪れし折に

ああここで日本の国柄作られし太子の理想を継がねばと思ふ

日本人としてのアイデンティティを身に付ける

(轉はせがわ 佐藤城司)

合宿初参加の私にとって多くのことを学ばせて頂きました。世界の情勢から始まり、聖徳太子の思想や功績、そして短歌創作など始めて聴くこと、学ぶことが多く、勉強になりました。特に聖徳太子については、常に国民のことを第一に考え、日本の舵取りを行っていたことや、緻密に計算された行動など様々な角度から学ぶことが出来ました。また、初めて行った短歌創作では、自分の考えや想いを正確に残すために概念的思考を正して、物事を見る目を養い、そのことが、心を豊かにしてくれるということ学びました。

私はこの合宿で、日本人として失いかけている自信や誇りを取り戻す必要性があることに気づきました。そして、私たち日本人がすっかり忘れてきた、すばらしい文化や伝統を再確認し、日本人としてのアイデンティティを身に付ける事が何よりも大切であると感じました。

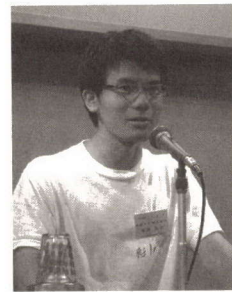
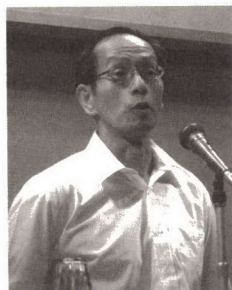
信貴山の合宿に参加して

暑き日に日本を思ふ友たちと語りあふことうれしかりけり

若い人をこの合宿に参加させる

(産経新聞社 大内保治)

合宿教室への参加は、江田島での初参加以来、今年で六回



全体感想自由発表。学生から社会人まで、自分の正直な言葉で感想を語った。「国のためを思ひ、本心を語り合ふことの出来る友を見つけた」「いのちを捧げてきた先人達の気持ちを受け止め、まづは家庭から広めていきたい」「『歴史上の人物の心に迫ることが大切なのではないかと語った友の言葉が心に残った』などの感想が述べられた。

目です。いつも充実した講義の内容で会の方々のご尽力に、心より感謝申し上げます。

今回うれしかつたことは、直接ではないけれど、お声を掛けた知り合ひのご子息が参加したことです。是非来年も一人でも多くの若者に参加して戴く為に尽力致します。小生、来年十二月で還暦です。サラリーマン生活最後の年です。合宿にはこれからも一学徒として参加することはもとより、一人でも多くの若い人たちをこの合宿に参加させることを心掛け致します。これからも、日本再生の為、三つのことを基に励んで参ります。

一、皇室の弥栄を願ひ、お守りする。

一、靖国神社に参拝し、英霊の慰霊と顕彰をはかる。

一、台湾を守る。

平成十九年八月十五日靖国神社にて詠めり

うだる夏必死にこらへて九段坂今日の靖国人であふれる  
気兼ねして総理の姿みえねども今日の靖国人であふれる  
この日をば忘れる人も多かるにわれは登らむ九段の坂を  
台湾の若き女史は訥々と語りかけにし目覚めよ日本

正直ハードでした

(楸ビッグ・エー 木暮幸一)

この合宿では、その道のベテランの講義を聞き、自己の知識が増えました。私は元々歴史が好きでしたが、今回の合宿

で日本の文化、歴史を再確認できました。特に、私の経験から言いますと、今の教育現場では、正しい歴史が教えられていないのです。この合宿で、先生や班員と話すことにより、正しい歴史を知ることが出来ました。これからも好きな歴史をさらに学び、正しい知識と文化を身につけていきたいです。この合宿は正直ハードでしたが、同時に有意義なものでした。ここで学んだことを「日本人」として活かしていきたいです。

古きよき日本に触れ合ひ我思ふ心機一転明日へぞ行かむ

聖徳太子のお話を聞けた

(札幌西陵高等学校教諭 本田 格)

どのご御講義も気概に満ちた面白いものでしたが、今回聖徳太子のお話を聞けた事が自分にとつて収穫でした。その生涯や時代状況、思想内容、著作について教へられ、生きた人間像が想像できる気がしました。太子非実在説はつきりであらめだと思ひました。また当時、実際に隋に対抗できる国家の力があつたのではないでせうか。法隆寺ひとつをみても、これほどのものをつくりうるのはすぐれた職人がそろつてゐただけのことではないと思ふのです。国としてまとまり、政治的にも文化的にも勢ひのある時、聖徳太子が、あるべき国の姿を示されたのだと思ひます。十七条憲法をよく読むことは、混迷する現代日本の世をどう生きるかといふヒントを与

へてくれさうです。

聖徳の太子ゆかりの山にゐてそのみ心に近づかむとす

## 二つの立場からの合宿の感想

(学校法人垂細聖学園 小林 勉)

私は二つの立場から今回の合宿の感想を述べたいと思います。

一つは「教育に少なからず携わるものとしての立場」からです。昨今の教育現場では語られていない事柄が多すぎる、と感じました。十七条憲法や、終戦の詔勅の全文を始め、明治天皇のお人柄や現行の憲法前文に日本政府の非を認める文があることなどであります。それらは全て、現在の日本の風潮により意図的に教育から排除されているように思いました。全てを若者に教え、その中から道を選ばせるというのが本当の教育ではないでしょうか。今の教育は最初から「戦争の全否定をする道」しか示していないように思います。

もう一つ「知識不足の若者としての立場」から感じましたことは、「人から人に何らかの体験を伝えるとき、起った事象だけでなく、その時の思いも伝えなくてはならない」ということです。小野吉宣先生のご講義において、先生が涙ぐまれながら、伯父さまやお母さまのお話をされたとき、初めて戦争というものを自分が知ったような気がいたしました。

他にもいろいろなことを学びましたが、ここではこの二つ



カメラ・レポート 26

閉会式。主催者を代表して上村和男理事長は「合宿で得た感動を常々思ひ起して、大学・職場といふ日常の『世間』の荒波の中にあっても押し流されず、日本の為に自分は何が出来るかと問ひ続けてもらひたい。さういふ各々の努力が日本を変へていく力になる」と述べた。

を述べさせていただきました。最後になりましたが、国民文化研究会の皆様をはじめ、班長や班員、それからのこの合宿でお世話になった全ての方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

知識なく発言できぬ討論もつらき期間も今はいとしき

これからの生活に生かしたい

(懐)ビッグ・エー 高橋佑太)

学生時代、本合宿に三度参加させて頂きましたが、社会人一年目に参加できるとは思いませんでした。最初の太田文雄先生の講義で今の日本が置かれている状況が危機感をもって語られ、次の占部賢志先生が語られた聖徳太子が生きた時代の世界情勢が現代と同じような危険をはらんでいると教えて頂きました。太子の国際情勢を見極める力と判断力に驚きました。二日目からの講義講話では、小堀桂一郎先生が聖徳太子の精神にこの国のあるべき姿が見えてくるのだということを示され、黒上正一郎先生の「聖徳太子の信仰思想と日本文化創業」を岸本弘先生の御講義を参考に班で輪読し、山背大兄王の自刃の精神から太子の家族に対する教育を偲び、国を思うという精神を学べたことはよい経験だったと思います。

また、今回の合宿では小川三夫先生から執念を持って仕事をし、厳しく生活するということを教えてもらいました。「厳しさ」と「優しさ」はこんなにも近いものなのだと感じ

ました。これからの生活に活かしたいと思います。

日常の生活離れ信貴山で合宿教室に参加するなり

皆で輪読せし折に

国を思ふ太子の心を御文よみ難しけれど皆で偲びし

新たな合宿が始まる

(日本タルク) 内田厳彦)

合宿の中頃から、私の心の中に次第に芽生えて来つつあるものがあつた。

それは、この先現実生活で何があらうと、ひとつの目的に向かつて、柔軟にして強靱な心を持つ、謂はば「鞭のやうな強さを持つて生きたい」と云ふ思ひであつた。

太子の御本に取り組むこと、御製を拝誦しまつることが、そのまま日本の国體を知ることに通ずることを今回の合宿ほど知らされたことはない。

省みればかういふ合宿の真髄ともいふべきところに触れる思ひにさせて頂いたのも、諸先生方の素晴らしい御講義のお蔭である。また、「心」を鍛へないと直ぐに概念・思弁||理屈に陥り易いことを知つた。これは今後の私自身の学び方への警鐘と思ふし、短歌創作は「心」を鍛へる方法としては一番と思ふ。

合宿では実に三十八年振りとなる班長の大役を仰せつかり、班員は八名社会人の方ばかりで、忙しい中から日程を組んで



参加された方たちばかりなので、何とかこの合宿教室の意図するところを汲んでもらおうと、私なりに全力を傾注した。

班の方々は班別の輪読・討論・短歌創作に真剣に取り組んで下さったが、お互ひの心のうちを突きつめて話すまでに至らなかつたのは私の力不足以外のものでもない。

山を下りるにあたり、新たに知己・友人となつた班員の方々との交流も含め、「合宿は終つたが、今後日常生活の中でまた新たな別の意味での合宿が始まる」と思つてゐる。

こと繁きなりはひならむを信貴山に集ひ来ませる友ら畏し

## 第二十三班―男子社会人―

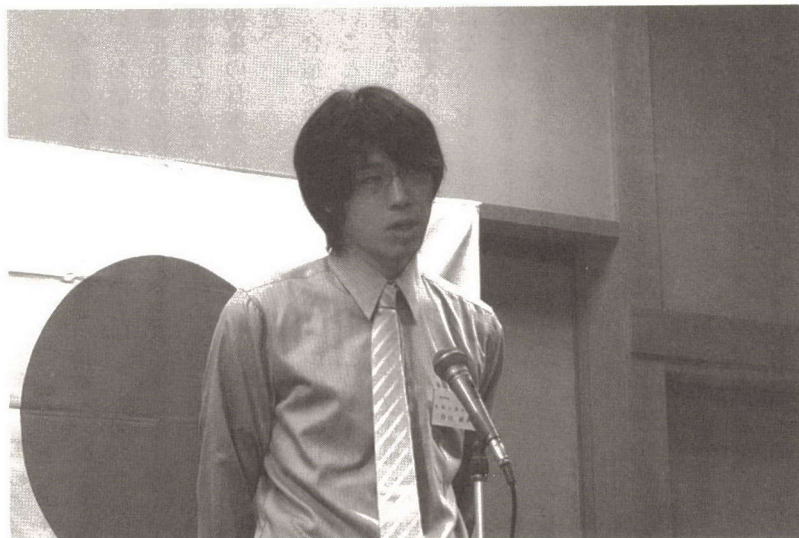
### 聖徳太子のご精神を再認識

(羽後信用金庫 須田清文)

日常の業務に埋没して心を働かせることの少ない生活を続けてゐる中、本合宿は、別世界のやうに感じました。そして、学生時代より夜久正雄先生とまたみ友らと共に学んできた聖徳太子のご精神を再認識して、それにもとづく生活の探求の大切さを思はしめられました。

心ひろやかに生活するすべは確實にあると思ひます。それにむけて前進していきたいと、思ひ新たにさせていただき元気が出てまゐりました。班友と諸先生のおかげです。有難う

カメラ・レポート 27



九州工業大学二年・谷口耕平君が参加学生を代表し「慰霊祭で『心を合はせ、諸共に心を鍛へ言葉を修めつつ、御祖達に連なりて、祖国日本を永久に栄え行かしめむ』と誓つたことは合宿で学んだことの集約であり、ここで学び感じたことを大事にして、たとへ住む場所は離れてゐても心一つに皆さんと共に勉強して行きたい」と抱負を語つた。

ございました。

信貴山であらたな友と読みし文帰りのちも読み進めなむ

## 日本人の魂の奥深くに存在しておられる太子

(日本植生(株) 浦田祐輔)

本合宿は、私にとって初めてのことばかりでした。玉蔵院のような大きなお寺で宿泊させて頂いたこと、また、国について学ぼうと全国各地から集まってこられた方々に出会い、短い間でしたが一緒に学習できたことなど、私のこれからの人生の上でとても有益になることを得ることができたと思います。

講義内容は初日からとても充実しており、太田文雄先生の国防の裏話は「ハッ」とさせられ、また、なんとかしなければ、と大変心配になりました。聖徳太子のお話は、最も時間を割いて多くのことを学ばさせて頂きましたが、やはり、日本文化及び伝統を考える上で、太子を抜いて考えることはできないとあらためて気づかされました。これほど日本人の魂の奥深くに存在しておられる太子は、まさに日本の誇るべき大人物と思いました。

来年の夏も集はむ合宿の学びの日々のはや過ぎければ

どのようにしていったらより良くなるか

(株)ビッグ・エー 斎藤隆宏

今回の合宿において「世界の情勢をどのように見るか」というお話を太田文雄先生から伺い、隣国の中国についての意識を強めなければいけないと思いました。特に、資源確保を目的としたスーダン政権への支援に関する問題、中国の大気汚染の日本への影響などいらいだちを感じ、悩ましく思います。

合宿で取り上げられた一つ一つの内容についてはわからないうことが数多くありましたが、どのようにしていったらより良くなるか、その内容にどのように取り組んでいくかという心構えが少し身についたと思います。己自身を強調するのではなく、どのように協力していくかということが大切なことだと強く感じました。

わが思ひ書きあらはさむと書きゆけど心になふ言葉出でこそ

下手は下手なりに精一杯心を働かせていこう

(大村郵便局 橋本公明)

合宿を終えた今、まとまってはおりませんが心にしみじみとしたものを受けとめさせていたでいております。

自分の気持ちを表現することが不得手ではありますが、下手は下手なりに精一杯心を働かせていこうと思います。

国にいのちをささげられた人の気持ちをも、まずは家に帰って妻や子供達に伝えていきたいと思っております。

小野吉宣先生のご講義をお聞きして

国のためのちささげし人達の心を次代に伝へゆきたし

### 聖徳太子の外交手腕と見識に驚嘆

(陸上自衛隊 船山尚志)

今回もまた新たに勉強となつた事が数多くあり、非常に有意義な合宿であつた。

特に、聖徳太子の一生とその当時の歴史を改めて学び、因果関係を含めて理解できたとともに、聖徳太子の外交手腕と見識に驚嘆させられた。

また、小川三夫先生の自然の摂理に従つた建築技法の講話には感銘を受けた。「目で盗め」といふ言葉は聞いたことがあつたが、「何も教へない」といふことを聞いたときは、そのこと自体は理解できたが自分の職業に置き換へて考へてみると面食らつてしまつた。しかし、寝食を共にすることの大切さはおおいに共感できた。

全日程参加できなかつたことは残念であるが、今回学んだことを自己の修練の糧として今後も励んでいきたい。

教へざる職人達は寝食を共にしながら心通はす

日本の偉人が残した「心の整理」方法を知りたい

(福岡県中小企業経営者協会 松藤祥雅)

班別短歌相互批評以来短歌が出来なくなつてしまつた。班員の皆も悩んでいるようで、その姿を見ると、自分だけ悩んでいるのではないと思ひ、少々気持ちが楽になつた。

短歌が出来ず、短歌が遠いものになつたように感じるのは何故だろうか。自分の「心の整理」、「感情の整理」が出来ないからではないだろうか。

太子の精神に触れることで、日本の偉人が残した「心の整理」方法を知りたい、と思つて黒上正一郎氏の著書を購入した。少しずつでも前に進みたい。

最後に、小田村初男先生に心より感謝致します。有難う御座居ました。

書きたしと思ふ気持ちはありたるが筆が進まずくやしかりけり

貴重な講義でした。

(日章工業(株) 村上貴一)

太田文雄先生のお話で複雑な状況下にある日本を知ることが出来ました。様々な先生方から私があり知らなかつた聖徳太子について詳しく学ぶことができました。なかでも印象に残つたのが同じ建築業界の小川三夫先生の講義でした。私の会社では主に鉄の扉を造っているのですが、宮大工の貴重

なお話は自分の仕事にも通じるところがありました。法隆寺に訪れるのは二回目ですが、小川先生の解説のおかげでより詳しく知ることができて良かったです。

最終日に熱中症で多大な御迷惑をおかけしたことをこの場を借りて深くお詫び申し上げます。

合宿に向かう車中にて

ドア造りの鉄板運びで汗だくに働く日々を思ひつ向かひぬ

合宿の進みし時も同僚の働く姿の目に浮かぶかな

様々な人の協力ありてこそ参加できしがありがたきかな

聖徳太子の御遺徳について勉強し、目を開かるる思ひ

(働都市防犯研究センター 小田村初男)

今回の合宿は、学生時代に四年間参加して以来、三十六年振りの参加でした。講話と班付といふ大役を仰せ付けられ、緊張しつつ参加し、初めて合宿に参加した時の初心に返った心地でした。

参加しますと、講師の各先生方の熱意溢るる御講義と熱心な班別討論、和歌創作と厳肅な慰霊祭と以前と変らぬ合宿でした。

また、聖徳太子縁りの地での合宿といふことで、各先生方の懇切丁寧かつ情熱的な御講義とその後の班別討論で改めて聖徳太子の御遺徳について勉強し、目を開かるる思ひでした。身をもちて太子の教へ示されし御言葉に心振るはしぬ

## 第二十四班―男子社会人―

国に仕事に誇りを持って生きたい

(働ビッグ・エー 柿野剛司)

今回の合宿を通して、一期一会の精神を学びました。私は会社の研修として、今回参加させて頂きました。初めは見ず知らずの人と班を組むことに抵抗を持っていましたが、合宿も終わりに近づくにつれて、このはじめて出会った人達と、班で行動しているのが楽しくなってきました。又、たくさんの講師の方のお話を聞いて、国に誇りを持ち、自分の仕事に誇りを持っているということは、人をひき付けるものになるという様に感じました。

今回の合宿で得たものを、今後の生活、仕事にいかしていけるようにします。

腹痛で朝から床に伏しをれば夢にまでみる講義の情景

小川三夫先生の姿に感動した

(松田都市開発棟 柴戸秀之)

今回の合宿で一番印象深いのは「不揃いの木を組む」宮大工小川三夫氏の講話でした。「物づくりは執念」、「整理整頓は頭の中を」等の言葉や笑いの中にも非常に真剣にお話をさ

れる姿に感動しました。講話だけでなく、法隆寺での解説も頂き、又とない貴重な体験が出来ました。今後ご著書も拝読したいと考えております。最後に、今回班員の皆様との出会いに感謝致します。

各地より集ひし仲間夜更けまで飛鳥時代に思ひを馳せる

### 自国の歴史を知る事が行動力を生む

(中)福岡県中小企業経営者協会 安武 佑

今回の合宿を通しての感想であります。私の中で特に印象深く心に刻むことが出来た点を一つ述べさせていただきます。

自国の歴史は、それを知る事により、想い、考え、行動する力が生まれると思います。すなわち現代をより鮮明に映せる鏡を、自らの心を持つことができるわけです。合宿教室を通じて冷静かつ誠実な心をつくる土台を少し積む事が出来たのではと思います。

山奥の中で学びし人々の輝く顔の忘れがたしも

### 友との心の交流ができた

(N T T)西日本大阪支店 吉田 博

二回目の合宿参加となりますが、一回目とはちがう経験が出来た事をうれしく感じています。

短歌創作ではいつものごとく素直な気持ちを直接表現できず今回も苦しみました。今回は講義の内容以上に班員との討議のなかから、相手の人となりや、新鮮な考え方などにふれ、真の心の交流というものは人と人とを強く結びつけるのではないかと感じる事が出来ました。

今回だけで次にはいつ会えるかわからない人もいますが、この合宿でも学んだという事実は不変です。次に会えた時はまた心の交流ができる、そんな楽しみが残りました。初日は参加した事に少し迷いが生じましたが、今は素直に良かったと感謝しています。ありがとうございます。

班員の真剣討議で顕はるる心の交はり素直にうれし

### 鳥肌が立つ感動を受けた

(備)バントレーディング 森重忠正

初めての方達との寝食を共にした三泊四日でした。朝は八時から夜の十時半までギッシリと詰ったスケジュール。普通の生活リズムとは全く違った別世界でした。太田文雄先生の国際情報分析は実にするどく印象に残りました。又、千四百年前に聖徳太子も同じような情報分析にもとづき遣隋使を送られていたと時系列の年表で説明頂いた占部賢志先生、ありがとうございました。

更に、岸本弘先生の御講義は、言葉に魂が乗り移っているようで鳥肌が立つ感動をいつも受けるのです。

明日から元の生活に戻りますが、この感動を忘れずに私なりに勉強を続けてゆきたいと思えます。皆さんと又お逢いする日を楽しみにしています。

つぎつぎと己が思ひを声高く述べる若き姿頼もし朝まだき森より聞こゆセミの声信貴山合宿今日終りゆく

我らの使命は国の命を繋ぐこと

(中島法律事務所 中島繁樹)

三泊四日の合宿として十分に充実した内容であったと思ふ。このやうに充実した合宿の実施が可能であれば、もはや従前の四泊五日に戻すことは不必要といふことになる。初心者が聖徳太子の思想を学ぶといふことが、かくも円滑に実現するとは驚きであった。占部賢志先生の周到に準備された、力のかもった講義は大変ありがたかった。国のいのちをつなぐといふ我らの使命は、今なほ重要性を失っていないことを実感する。

道を求めわが還暦の年もまた勇みて来たり合宿教室に

全体感想自由発表に感動した

(新明電材㈱ 飯島隆史)

仕事の関係で、後半二日間のみ参加でしたが聖徳太子ゆかりの信貴山での合宿はたいへん印象深いものでした。

特に最終日の全体感想自由発表には心を動かされました。若い学生達のしつかりした感想を聞き、まだまだ日本は大丈夫だとの感を深くしました。

このやうに若い人達の心を一時にしる変へることのできるこの合宿教室といふものは大変なものだと改めて認識しました。

諸先生諸先輩が永々として続けてこられたこの合宿教室をこれからも継続発展させてゆかねばならないと気持ちを新たにしました。

折田豊生先輩の次回運営委員長を引き受けられる姿を拝して大任を面すずやかに引き受けし先輩の姿にますらををみることもなげに大任引き受けし先輩の面まなこひらきてつくづくと見る

かんたんだよと吾に語りぬ先輩せんぱいは大任負ひて気負ふ風もなし

## 第二十五班 男子社会人

聖徳太子像が根本から変わった

(九州マックス㈱ 斉藤 毅)

合宿を通じて日本の歴史を理解することができました。私達の世代が学校教育において学ぶことのなかった話や班別研修で班員の意見を聞きながら、一人一人の考えの違いや人の

立場に立つて物事を考えるということの大切さを学びました。

これまでの二十六年間という歲月の中で造り上げてきた聖徳太子像が根本から変えられました。未来を考えるためには過去を知ること必要だと思いました。合宿で学んだことを忘れず、これからの生きかたに活かしていきたいと思えます。

暑き日に信貴山に集ひし友の顔を思ひ出すときあらむと思ふ

### 受け継ぐ心に感動した

(昇栄機工棟 坂本 寛)

今回の研修を通じて自分がいかに無知だったかということに気づかされました。中国留学中日本の話題を聞かれたとき自分の国のことなのに答えられなかったという経験があり、自分の国の事をもっと勉強したいという思いはあったもののでどこから勉強したらいいのかわからず生活してきました。日常生活で「知らないこと」を見つけて一つ一つ知識にしておくことで自分の意見というも身に付くのではないかと今回の様々な講義を拜聴して実感しました。そして、聖徳太子のされた事、天皇の御製に込められたもの、それは実際に法隆寺を前にしたときに感じた「受け継ぐ心」ということではないのか、そして、それがどの時代にも共通した日本の心なんだなと感動しました。

自分もこれから、日本人としての「受け継ぐ心」と誇り、日本を背負う者だという自覚を持って生きていきたいと思

ます。

法隆寺にて

受け継がれし寺の偉大さに感動し日本の心初めて知りけり

### 小川三夫さんとの再会

(産経新聞社 塩塚 保)

奈良・信貴山での合宿。平成の宮大工、小川三夫さんと再会するのが楽しみでした。実は私、新人記者時代、奈良支局に勤務していました。当時、薬師寺では西塔を再建中でした。昭和の宮大工、西岡常一棟梁に弟子入りし、再建に取組んでいたのが、若き日の小川さんでした。

私は境内で小川さんを取材し、人物紹介の記事にしました。小川さんは「千年の風雪に耐える塔を建てたい」と語ったのです。私はその言葉に感動しました。三十年前の肉声をも鮮明に記憶しています。

小川さんの講話。栃木なまりの語り口が心にしみ入りました。なかでも「捨て育ち」という独特の弟子育成法に感じ入りました。

講話のあと、小川さんに案内された法隆寺、飛鳥時代の工人の創意と熱気が二十一世紀に蘇ってきたかのようでした。ありがとうございました。

斑鳩の里にたたずむ夢殿の秘仏は夏間まどろみにけり  
蒼天に塔そびえたる法隆寺蟬音流れ静かなりけり

百濟よりいでし仏がほほ笑みて斑鳩の里に立ち給ひけり

日本は素晴らしい国だと確信した

(村式<sup>榊</sup> 住吉 優)

大きな期待と不安を持って臨んだ合宿でしたが、とても濃厚な四日間でした。

初日の太田文雄先生のご講義では、国防の最前線から見た世界の情勢に関するお話をお聞きし、中国の脅威を強く感じ、このままの日本ではいけないと危機を感じました。また、小川三夫先生のご講義では、精一杯やることの大切さ、ものつくりとは執念であるとお言葉に、同じものつくりの携わる者として大きな励ましを頂いた気がしました。その他法隆寺の見学や初めての短歌創作、諸先生方のご講義、班別研修などを通し、日本は美しく、たくましく、気品溢れる素晴らしい国だということを確信しました。また日常生活に戻りますが、この合宿で得た多くの思いを胸に、日本人として生きてゆくうと思えます。

最後の懇談にて

重ねたる熱き議論を思ひ出し同士<sup>と</sup>への感謝の思ひつこのりぬ

真剣に話を聞いてもらえた

(榊ビッグ・エー 高畑博正)

今回合宿で、日本の本当の姿、日本人の美しき心というものを講話や班別研修を通して学ぶことができました。特に和歌の講義において天皇の御製にふれて、天皇様が日々日本国全土の民のことを考えておられるということがよくわかりました。天皇家が神武天皇から始まり現在に至るまで継承されてきているということがこういうことだったんだなと気づかされ、天皇様の偉大さを感じ感謝の気持ち湧いてきました。また、短歌を創作することができとても勉強になりました。心を集中して無心になれたのは、いろいろなことを言い合える仲間達がいたからだと思えます。

最後に最も良かったことは、班でさまざまなことを夜遅くまで話し合えたことでした。本当に班の皆さんに私の話を真剣に聞いていただけてとても嬉しかったです。また、機会があれば参加してみたいと思えました。

いつの日か再び会はむと誓ひつつ短き夏の集ひ終へんとす

太子のご本に挑戦したい

(元日立プラント建設<sup>榊</sup> 日高廣人)

江田島以来連続六回目の合宿参加となった。毎回、新鮮な刺激を與へられ勇氣づけられてゐる。



今回は、聖徳太子をテーマの中心に据ゑていろいろな角度からの解説と勉強への糸口を提示され感謝してゐる。黒上正一郎先生の所謂「太子のご本」は、難解で完全に読みきれないが、占部賢志先生と岸本弘先生のご講義で解説された「三経義疏」を拝聴して今まで難しくて手に負へぬものとして敬遠してゐたこの難本に挑戦してみようとの元氣を与へられた。

ますます元氣のなくなる現今のわが國を取り巻く國際情勢の流れの中にあつて、今回合宿で一連のご講義は勇氣を奮ひ立たせるものがあつた。そして、宮大工の小川三夫先生のご講義は、エリートのみによる社會のひ弱さを示唆するものであつたと同時に傳統を後進に傳へ繼承してゆくことの大切さを痛感させられた。

### 三 経義疏のご講義を聞きて

今までは敬遠がちな難本を學びてゆかむと勇氣づけらる

## 國を護る自覺を新たにしたい

(陸上自衛隊第十六普通科連隊 森 浩典)

今回は初めて社会人班で勉強させていただき、学生とは違つた経験を交えたお話を班別研修や生活の中で何うことができ誠に幸せでした。また、毎度のことではありますが、合宿の講義や研修で自分の不學を自覺いたしました。本合宿において聖徳太子のお言葉を拝聴することができ、わが國を護

る自覺を新たにしました。

太田文雄先生の講義を拝聴して

久々に聞きたる恩師の御話に國護る意思更に強まりぬ

## 充実した講義内容だつた

(鳥栖市役所 西山八郎)

聖徳太子ゆかりの地での合宿に参加できたことを心より感謝します。以前より一日短くはありましたが、充実した講義内容であつたと思います。

参加者のうち四名は初参加ということでしたが、皆素直な気持ちで話を聞いていただき、それぞれ心に残る言葉を搜していただいたものと思つています。これからもこの縁を大切にしてまいりたいと願つております。

占部賢志先生のご講義では、ただ文章を読んでいくのではなく、書かれた時代の動きをも把握しながら読んでいかなければ、その文章の持つ本當の意味を理解することはできないのだということに気づかされました。

### 短歌相互批評にて

胸内にこもる思ひを友どちは言葉少なに語りたまひぬ

友どちの思ひ偲びてふさわしき言葉なきやと探し合ひけり

やうやくに歌整ひてくぐもれる思ひはれしか笑みもこぼれて

## 第二十六班 男子社会人

今後の生活に役立てたい

(株ビッグ・エー 晴山 俊)

短歌の創作ルールにしろ、世界や日本の情勢、日本の歴史、聖徳太子の思想等、ほぼ無知状態で参加したので、講義や班別研修でついでに行けず一杯一杯になった。理解もできなかつた(理解するために復習する時間もない)。自分が無知だということを変更して感じたし、自発的に参加している人間とのモチベーションの違いに温度差を感じた。今回の研修で何が得られたかと問われると、何も言えないのが正直な感想だが、世界や日本の情勢・語るべき日本の歴史について一般人並には分かるようにしようと思うきっかけにはなつた。明日以降、日常生活に戻るわけだが勉強する余裕もないし、今回の研修も次々に忘れていってしまうと思うが、そうならぬように心がけたいと思う。例えばニュースで日中問題等の話しになつていたら世界資料を読み返すとか何らかの行動を起したいと思う。

全く知らない人間も同じ班にされたわけだが、自分とは百八十度違う人間もいれば、近い考えを持った人間もいた。両方の意見を取り入れ広い視野を持てればと思う。短歌の提出にあたっては、同じ班の先輩方にアドバイスをしていただき

自分では信じられないほど、よい歌ができたと思う。講義をしてくださった先生方は皆熱心でよかつたと思うし、慰霊祭という普通は絶対に体験できないことをした。今後の生活に役立てればよいと思う。

信貴山で過した三日早よ感じ一杯一杯苦労した日々

日本の歴史と文化を取り戻すたたかい

(株ビッグ・エー 羽柴雄堂)

社会に出て四ヶ月がすぎ、日々の激務の中で基礎体力のなさど知識のなさに疲れ、休日にはまさに休むばかりとなり学生時代はもつたないほどに有り余つた時間を食いつぶしていたのかと思ひ、学ぶ機会を持つとうにも時間もないがそれ以上に余裕がない状態が続いていた。

社の新入社員研修の一環としてやってきた合宿教室ではあつたが、まず十年振りに訪れる奈良への旅であること、他のイベントではまずお目にかかれなような短歌創作や天皇の御製に触れること、そして日本の誇りが感じられる講義の数々によつてこのところ数ヶ月渴望していた学びへの欲求が満たされていくのを感じた。

思想的なものも戦争になる、と太田文雄先生の講義をきくと、先の戦争後の日本はまさに思想や文化といったものを巧妙にすりかえられた中に置かれているわけだから、文化のテロを仕掛けられ、さらに自爆テロのムードすら感じられる。

武器や爆弾を使うのではなく、日本の歴史と文化を取り戻すたにかいに私も立ち向っていききたい。貴重な機会を与えていただきありがとうございます。

この国の未来を担う我々が文化を護る決意持ちたり

### 心の糧を得た

(昇栄機工働 下片野 誠)

今回、会社より参加の誘いがあり興味と不安の中で、振り返ってみますと良いきっかけを与えていただいた合宿であったと思います。学生の時には教わっていない知ろうとも思わなかった事柄にこんなにも深い内容が込められており、その事実にとだ驚くばかりでした。十七条憲法の講義、明治天皇・今上天皇の御製から偲ばれる御心など、今一度、私の中で十分吟味し生活の中での心の糧として感謝したいと思いません。

今になり思ひもよらぬ出会ひから古たどる玉蔵院にて

### 非常に勉強となりました

(航空自衛隊静浜基地 中原 治)

参加動機は一通のメルマガからでした。国際派日本人養成講座というメールマガジンに今回の信貴山合宿の案内が載っており、興味を引かれて参加となりました。

講義の中でひととき興味深かったのは宮大工棟梁の小川三夫さんのお話でした。あっさりとした語り口と語るその言葉の含蓄の深さは若い方の共感を大いに得たと思います。

その他の方もお話の内容はなるほどと思われるものがありました。他者批判の中に違和感を感じるものがあつたのは否めません。

班別研修は思ったほど考察が深まった感じはしませんでした。考え方のぶつかる者がいなかったのか、敢えて発言しなかったのかはわかりません。

和歌については創作に興味を持ちました。ただ文語のいいまわしでの表現方法が稚いため、口語での表現となりました。のちにも続けてまいりたいと思います。

今回はいろいろな意味で非常に勉強となりました。合宿以外の機会でも又会うことがありましたら、食事でも共にして語り合いたいものです。ありがとうございます。

信貴山に四方より集ひ我ら話し語らひ別る再会を期し

### 合宿を振り返って

(日本植生働 金子堅太郎)

三泊四日、大変中身の濃い時間でした。あまりにも濃すぎて、私の頭の中からは大分こぼれてしまっておりますが。

講義につきましては、聖徳太子の人柄・功績について、感心及び感銘を受けました。今まで私が聞かされていた以上に、

太子の鋭い洞察力・外交力が優れていたと。その太子の偉業により現在の意識・心の根底には太子の思想と十七条憲法が存在しているということに大きな安らぎを感じました。

一部において私の思うところと相違があったところもありましたが、同班の大先輩方の様々な意見・見解を聞くこともでき、大変意味のある合宿になったと思っております。

先輩の知性溢れる話聞き思ひ知らざる我の未熟さ

意義深き合宿でありました

(九州大学大学院教授 清水昭比古)

占部賢志先生の気迫、小野吉宣先生の至誠、小田村初男先生の沈着……。一つとして心を動かされぬは無く、意義深い合宿でありました。

唯、本務の為とはいへ、第二日目の三つの御講義を拝聴出来なかつた事が残念でありました。特に小堀桂一郎先生には、その鈴木貫太郎首相の傳記に動かされて、首相の御名を愚息に戴いたこともあつて、直接お話を伺ふことを楽しみにして居りました。替はりに、カパーの慈鎮和尚の繪に惹かれて先生の新刊の御著書を購入しました。

明日から復た、日常の闘ひに戻ります。運営に當たられた方々に心から御礼を申し上げます。

慰霊祭にて

下草の虫の声にも遠つ祖のいさを思はゆ信貴のみ山は

再会の喜びを味はへた

(元兵庫県立姫路南高等学校教諭 伊藤三樹夫)

三十才の時にこの夏の合宿に参加したのが最後であったので、あれからもう三十三年振りの合宿参加であった。

三十才以降、仕事のこともあり、国文研とは長らくごぶさたしてゐた。昨年、稲津利比古君にさそはれ、今年岸本弘君に誘はれてやっと参加する気になった。

参加して、来てよかつたと思つた。若き日の出会ひは必ず再会がある。その友に会へた、その再会の喜びを味はへた事自体も大変有意義であつた。内容も聖徳太子についての近年の疑問―太子はゐなかつた―なる学説を快く思つてゐなかつたが、そのことについても明解な解答を与へられ、実にすつきりした気分である。

普段、天皇について話し合ふ機会もないが、かういふ場所で心から話せることも精神の栄養になった。改めて合宿の意義を認識しました。かういふ機会を与へていただいた事、本当にありがたく感謝してゐます。

信貴山に登り集ひて久方に友と会ふ日はうれしかりけり

若き日の出会ひは必ず再会となりて実るはありがたきかな

これからも太子の御教へおのが道に生かしてゆかむと改めて思ふ

## 新鮮な研修会であつた

(葉丸保樹)

二年前の伊勢神宮での合宿で味わつた様な新鮮な研修会でした。何よりも講師の方が真剣に真心をこめて話されている事です。それがひしひしと伝わつて来て、これからも自分として頑張つて行くぞと奮いたたせてくれました。この感動と講義の内容は家内にまず話そうと思つています。

本日の全体感想自由発表では若い学生諸君が率直に思いを語っていました。私など物が分かつているような顔をしていても、本当は何もわかつていないのではないかと。よつぱど若者の方が希望があり新鮮ではないかと思ひました。

今林賢郁副理事長の話も立派でした。さすがだと思ひました。それから折田豊生さんに初めて会いました。和歌を指導していただいていますので、是非とも会いたい人でした。上村和男理事長の元氣なお姿を拝見し、お話できたことを嬉しく思います。

合宿で多くの人と出会ひあり心にとめていついつまで

信貴山で会ひたき人に声をかけ顔を見合はせ心高ぶる

## 一筋の道

(元日産自動車株式会社 古川 修)

直前に配布をして戴いた小柳陽太郎先生の七首目の歌、

今にして立たずば国の一すぢの道は断つべし立たざらめやも  
を拝読し、正にこの合宿が「一すぢの道」を死滅から救ふ  
「清らかな水」であつた様に思はれてならない。参加者の感  
想の中の「全ての講師の真剣さに心打たれた」といふ言葉  
が、私の気持でもあつた。

特に、占部賢志先生の「思想は表現に宿る―概念思弁との  
戦」こそ、我々に課せられた使命ではないかと痛感させられ  
た合宿であつた。

この一年、信貴山といふ素晴らしい地での合宿設営に努め  
てこられた内海勝彦運営委員長他、関係諸兄に心より感謝い  
たしてをります。

くらき夜の明けなむとする信貴山に日暮の声のひびきわたりぬ

往く夏を惜しむがごとく鳴きしきる蝉の合唱せまりくるかな

聖王の教へを学びすごし来し玉蔵院での日々は終りぬ



合宿中に創作された「短歌詠草」

—しきしまのみち—



## 短歌創作について

この合宿教室では、例年、主催者を含めて参加者の全員が、短歌を作ることにしてをります。これは、この合宿教室の大きな研修課題の一つであり、今回も多く短歌が創作されました。

短歌は、現代においては、人々の日常生活には馴染みの薄いものとなり、文学的趣味の一つとしてしか受け容れられなくなってしまうてをります。従つて、この合宿教室に初めて参加する学生青年諸君にとつて、短歌創作は大きな戸惑ひであり、かなりの負担でさへあるかに見受けられるのですが、合宿日程を追ふにつれ、自らの心の動きを言葉にすることのむづかしさ、まごころの籠った言葉の奥深い味はひを多少なりとも体験して行く中で、次第に、その意味が把握されて行つた様に思はれます。

そもそも日本人は、千数百年の昔から、「万葉集」に見られるやうに、あらゆる身分・職業の人々が、学問知識の深淺、老若男女の相違を越えて、五七五七七の定型の中に、折々の自己の思ひを素直にうたひ上げてきました。自己の内心を赤裸々に短歌の上に表現することは、同時に厳しい内省を伴ふものです。いはば短歌創作の過程で、厳しい心の鍛錬が行はれるのです。そこで私達の祖先は、短歌を詠むことを人生の修行の一つの手段と考へて「しきしまの道」と呼んできました。日本人は、短歌を詠み交はすことによつて、人間にとつて最も大切な心の働き、情意を厳しく鍛へ合つてきたのです。先祖の歌を学ぶことは、私達一人一人の心の中に先祖の姿を蘇らせる作業であり、自分が紛れもなく先祖とつながりをもつた日本人であることの発見であり、また自覚なのではないでせうか。現代の教育では、知識の集積や論理の整合に重きが置かれ、人間にとつて最も根源的な心の問題がなほざりにされてをります。本合宿では、かうした現代教育の束縛を自ら感知し、そこから一步でも抜け出さうとする営みが、この短歌創作とその後の参加者同志の相互批評によつて集中的になされてゆきます。心の奥底に眠つてゐるまごころを呼び覚まし、人のまごころに敏感に感じる、素朴にして溢れる人



間性を取り戻さうとする試みが、ささやかながらも実現されてゆくこの貴重な経験は、参加者全員にとって、忘れがたい印象として心の奥深く刻み込まれるに違ひありません。

合宿二日目の午後、鏡 信弘氏（防衛省）により短歌導入講義がなされ、短歌を作る上での基本的ルールが指導されました。その後夕刻までに各人が創作した第一回目の短歌が提出されました。慌ただしい日程の中で生み出された短歌ではありませんが、作者の集中された内心の働きがはしばしに表現されてをり、作歌上の巧拙を越えて、強く惹かれるものが籠ってをります。提出された短歌は、同時に国民文化研究会会員による選歌・印刷のための清書作業を通じて、翌日には歌稿となって参加者全員に配布されました。この歌稿をもとに寶邊矢太郎氏（山口県立熊毛南高等学校教諭）によって、短歌全体批評がなされました。ユーモアを交へた御話の中にも一語一語に含まれる作者の心を全身をもって偲ばれ、直されてゆく姿に、参加者は短歌批評のあり方を自然に感得したのでした。

その後、各班ごとに班員全員による相互批評が行はれ短歌の表現を通じお互ひに友達の心に触れ合ふことが出来、合宿生活において、寝食を共にし、胸中を披瀝し合つて来た友情の結び付きが、一段と確認されました。

短歌創作を通して展開された、まことに稀な精神生活の体験は、参加者ひとりひとりに、言ひ知れぬ喜びをもたらすことになりました。

ここに収録された歌の数々は、班員の心を集結して推敲・添削されたものです。その表現形式においては稚拙なところも見受けられますが、これらの短歌の中から瑞々しい貴重な魂の輝きをお読みとり下されば、と心から祈念する次第です。

短歌詠草 (しきしまのみち) 合宿第一回目の創作作品 (参加学生の第二回目の作品は感想文の末尾に収録)

第一班

九州工業大学 情報工 四年 瀬木裕太郎

法隆寺を詣でて

千歳へし宮大工の技とみ心のつもりてたてる  
み寺尊し

国立水産大学校 三年 小塩直樹

いにしへゆとよきの流れを刻みつつ今も息づく  
玉虫厨子

国士舘大学 政経 一年 渡邊慧祐

悠久の歴史の重みを感じさせしづかに佇む五  
重塔よ

國學院大學 文 二年 坂本匡史

受け継ぎて研ぎ澄まされし工人の手中に宿る  
悠久の技

熊本大学 工 二年 村松康志

いにしへゆ宮大工の心をくみ取りて柱や屋根  
に眼光向ける

高山自動車短期大学 高橋謙友

暑き中動き回りに玉の汗ふきだし日陰に行き  
たくなりぬ

下関市立大学 経済 三年 横手健太郎

炎天下皆が暑いと言ふけれど言へば余計に暑  
く感じる

福岡県立香住丘高等学校教諭 酒村聰一郎

千年経る今に残れる古の匠のみわざ讃へし  
君は

小川三夫先生の御講義をお聴きして

我もまた幾年月を経し後の匠に恥ぢざる業み  
がきたしとふ

厳しかる修行に励む愛弟子を慈しみもて見守  
り給ひぬ

もの作りは工具ではなく執念で行ふものぞと  
君のたまひぬ

古代人の心そのまま守るため新しき技法は用  
るざらむとふ

第二班

甲南大学 経済 五年 坂直純

法隆寺にて

千年を越えたるときは厳しくも柱は今もおだ  
やかに立つ

青山学院大学 法 三年 加藤幹

占部賢志先生の御講義を拝聴せし後、法  
隆寺を拝見して

聖徳太子の外交姿勢さながらに真すぐに伸び  
る五重塔は

東京大学 文一 一年 山内隆太郎

幾多もの慈愛に満つる観音の御顔を押し安ら  
ぎ感ず

防衛大学 機械工 三年 濱田倫行

合宿にて

思はずもつねあこがるる先輩にお会ひしたる  
は嬉しかりけり

熊本大学 工 一年 香川峻輔

魅せらるるままに歩けばたちまちには過ぎ  
ゆくこころ法隆寺

防衛省航空幕僚監部 神谷正一

小川三夫先生の御講義を聞きて

五重塔を造る道をば生業にと心に定め師を訪

はれしとふ

不思議なる御縁のありて師の御名を忘れたる  
故見えられしとふ

弟子入りの御許し得ざれば種々の技術磨かん  
と努められしとふ

三年経て塔建立の現場ありと師の御手紙はも  
届きたりとふ

定めたるその御思ひの通じ得て納屋の掃除を  
許されしとふ

（柳）寺子屋モデル 三林浩行

占部賢志先生の御講義

若人を迷ひの淵にたたきこむ「概念思弁」と  
戦ふ御姿

病根を絶ち切らむとの気道にて学問せしか大  
人の妻さよ

夢違観音

黒光り小さくたらずむ観音のお顔静かに微笑  
たたへり

### 第三班

福岡教育大学 教育 四年 平田無為

写真撮影の折に

日差しうけ「暑いね」と言ふ友達の白き面輪  
に笑顔こぼれけり

九州工業大学 情報工 四年 秋田崇文

聖徳太子の文章（勝鬘経義疏）を読み  
御心に迫らむとして友どちと知恵を出し合ふ  
時ぞ楽しき

西南学院大学 法 四年 長友昭憲

法隆寺五重塔を見て  
木のいのち人の手により磨かれて深み増しつ  
つ今も輝く

中村学園大学 二年 山内真一

松並木を抜け眺むればいにしへを偲ばするご  
とき法隆寺あり

亜細亜大学 法 二年 青砥諒典

松並木抜くればそこに法隆寺の夏の日差しに  
ゆらぎて見ゆる  
東京農工大 農 四年 秋本 遼

自らの嫌な所は分かれども素直になれぬをも  
どかしく想ふ  
日本大学 経済 二年 奈良崎大祐

法隆寺中門にて

千余年経たる柱を目の前に永き月日を触れて  
感ずる

（柳）アルバック 北浜 道

班別研修中の奈良崎大祐君の発言にて

「衆生に」の言葉を通し国民に寄せます御思  
ひを感ずと述べけり

初めての文にあらめどかくばかり読み取り給  
ふ事に驚く

元富山県立富山工業高等学校教諭

青砥誠一兄に会ひて

また君に会ひにけるかな一年に一度の集ひに  
この年もまた  
若き日の君に似たりとつくづくと友の息の姿  
見つめつつ思ふ（諒典君を）

古河朝美さん・高橋謙友君を

富山より来りし友らやうやくになごめる姿見  
るはうれしき

伊藤三樹夫君を

四十年の昔も昨日のごとく思ふなつかしき友  
のかたはらに立ち

### 第四班

京都大学 工 一年 馬場 惇

真夜中にふと目覚むればひぐらしの声ぞあた  
りに響き渡りぬ

久留米大学 文 二年 大野桂一郎

法隆寺に到着せしをりに

雲晴れて空見上ぐれば故郷の空のごとくに真  
青に広がる

國學院大學 文 一年 丸山和希  
法隆寺の山道にて

土を踏み歩みて行けば故郷の遊びし日々の思  
ひ出されて

杏林大学 総合政策 三年 松井宏太  
千年越え太子のみたまのこもります十七条憲  
法今に生きたる

大阪工業大学 大学院 二年 井上謙次  
合宿に参加して

真剣に学ぶ友らと語りゆけば心安らぎ頼もし  
く思ふ

伊佐ホームズ㈱ 小柳雄平

百済観音像  
ひとすぢのほむらのごとく立ち給ふ観音像の  
み姿うつくし

平山直樹税理士事務所 北村公一  
照りつくる陽ざしの中を歩みゆく友らに災ひ  
なかれと祈りぬ

帰り途のバスで御友ら笑顔にて語り合ふ様見  
れば嬉しき

山口県立熊毛南高等学校教諭 寶邊矢太郎  
占部賢志先生御講義「聖徳太子関係年  
譜」の件を

高句麗の隋うちやぶるその年に遣隋使派遣決  
行したまひつ

場帝の怒り狂へるもいくさぶねいはずと太子  
知りたまふとは

知らざりき太子をめぐるそのかみの日の本の  
歴史かくもたぎちけり

やまもなく火を吐くがごとき師の声をかたづ  
をのみて耳そばだてり

### 第五班

京都建築大学校 二年 吉田孝徳  
千幾年暑き真夏をたへしのびををしく立ちた  
る塔あふぎみる

中村学園大学 二年 久保慎也  
班別の研修の中で

ささやかな言葉の中に深き意味新たな友と見  
つけ出しけり

九州工業大学 情報工 二年 谷口耕平  
松並と五重の塔を見てをれば太子おはしまし  
し証と覚ゆ

九州大学大学院 理 二年 山崎寛一  
玉虫厨子を拝観して

虎に身を捧ぐる仏の心をは鑑と仰ぐ太子を拝  
む

法隆寺にお参りして  
友人と太子の御信仰語りつつ心踊らせ法隆寺

に参りき

熊本大学 文 一年 秦 啓太郎

いくそたび年を経ぬれど法隆寺変はることな  
し梁の優雅さ

北海道上 文 四年 小林雅典  
今にのこる波打つ木肌に触れをれば奈良の都  
の音のしのばゆ

綏子屋モデル 横畑雄基

壮大な構への門も繊細な基礎ありてこそと気  
付かされけり

日本青年協議会 外村聖典  
孝霊天皇御陵を参拝して

暑き中を坂のぼりつつ町人は達磨寺のよさ我  
らに語りき

石だたみ登りて仰ぐ御陵は陽に照らされて貴  
くありけり

福岡県立直方高等学校教諭 小野吉宣  
太田文雄学兄の講義の折に

外国攻め入るまがごと打ち払ふ情報戦を君  
等戦ふ

外国の諜報戦略我国の喉元深く食ひつきたる  
も

国民は個々の幸せ追ふばかり御国は危機に曝  
されたるに  
文民の我にはあれど戦士たる自覚高めつ君に

続かむ

法隆寺にお参りして

千余り三百年余の年距つ太き御柱さはりてみるも

### 第六班

アサヒ飲料㈱ 澤部和道

「おい澤部」と声の聞こえし方見ればなつかしき先輩の微笑みて立つ

首都大学東京 法 三年 和田浩幸

千年の長さを経れども色あせぬ木の奥深さ感じられけり

法隆寺で飛鳥時代の職人が作った梁と平安時代の職人の梁の違いを聞きて

ひたすらに美を求めたる心こそ大和職人の誇りなるかな

小川三天先生の御講義を聴き

柔らかにヒノキ削らるる師の君の厳しき修行は如何ばかりあらむ

九州工業大学 情報工 三年 鷲頭祥平

小川三天先生の齧を見て、  
伝統を受け継ぎ守りし師の君の古き道具は研

ぎすまされぬ

京都大学 人間環境学研究科 修士一回生

高尾真臣

五重塔を見て

凡夫の心の儘に見上ぐれば静謐の塔揺るぎなきを識る

成蹊大学 法 三年 亀澤矢汐

小川三天先生の解説を拝聴して

法隆寺は幾星霜も人々に受けつがれきて今日も立ちたり

筑波大学 社会学類 四年 三苦周平

飛鳥時代の廻廊の梁を見て

古の匠の技に感ぜらる時経つるとも消えぬ心は

南大門を抜け出てみれば目の前に大和国原広がりてみゆ

東北大学 国際文化研究科 修士二年

宮地順造

法隆寺を訪ひし折に

暑きこと甚しきなか出来れば塔に見入りて暑さ忘るる

### 第十一班

佐賀大学 医 三年 坪井恵利

羽をつくろふ

日本植生㈱

足達優子

手に伝はる木のぬくもり到我知らず母の姿を思ひ出しけり

㈱寺子屋モデル 黒岩礼子

占部賢志先生のご講義を聞きて

「先人の意を汲むべし」とふ言の葉に古典に對する我ふり返る

先人の文に込められし心まで汲まずに読みしこと多きかも

永寫菌科クリニツク 永寫あいら

時を経て今も昔も心うつ観音様の見守るお顔麗澤大学 国際経済学部 四年 小林紀恵

時を越え雨風に負けず耐へしのび今も檜の薫る御柱

青山学院大学 国際政治経済 一年

河口はいりん

青銅のつばの下の獅子のレリーフを見て

駆けたしと見ゆる小さき獅子の口小銭入れられ立ち往生す

富山県立大学 工学部 四年 古河朝美

法隆寺拝観のうちに熱中症にかかりて頭痛にて待ちに待ちたる仏像を見ること難く

悔しかりけり

南大門を見上げてみれば小鳥らは夏空を背に

大阪府立牧野高等学校教諭 絹田洋一

法隆寺にて小川三夫先生のお話をうかが

ひて

やりがんなの跡もしるげく残りたる柱木ありぬ古へそのままに

ざざ波のごと木肌に残りしかんな跡に古への匠の姿偲ばゆ

千三百年を経てなほ塔を支へるひのきの強

さも知り尽くせしとふ

古への匠と心を通はせつつ務めますらむこの師の君は

防衛省装備本部長崎支部 鏡 信弘

五重塔釈迦涅槃像

寝姿の御仏かそか金色の御面浮かびぬ暗さ

が中に

両の手の拳を胸にうちつけて叫び泣きたり

羅漢の像は

法隆寺

緑なす木々に囲まれ法隆寺伽藍の薨夏日に

まぶし

屋根支ふる邪鬼のごとくにスピーカーの箱支

へ持つ友暑さ中

雲浮かぶ澄みたる空に五重塔水煙高くそびゆ

るを見つ

夕日光傾きそめし松並木蟬の鳴く音の穏しく

響く

### 第十二班

二葉養育専門学校 二年 小林久乃

金堂に入れば古き木の香の漂ひきたりて心い

やさる

日本青年協議会 三萩 祥

十七条憲法

日の本の姿あらはす言の葉を紡ぎて憲を宣らせ給ひぬ

北海道大学 四年 安田陽子

兄の好みし剣や面を眺めつつ

感嘆して喜びまさむ亡き兄のみ姿浮かびて胸

もつまりぬ

榑はせがわ 菅井若菜

法隆寺金堂の金剛釈迦三尊像を拝みて

暗がりにおはします御佛の尊き御姿に心

あらはる

早稲田大学 二年 清水温子

法隆寺五重塔

千歳越えて今もそびゆる塔のごとゆるがぬ心

を持ちてゆきたし

平岡栄養士専門学校 一年 黒川菜美子

法隆寺

日に映えて御寺のやはらかきたたずまひのひ

ときはしるく心安らぎぬ

榑石村萬盛堂 下池明子

いにしへの思ひ学びてあふぎみる五重塔は心

にしみぬ

國學院大學 博士課程 後期一年

大岡 弘

山背大兄王御一族の御最期を偲びて

斑鳩の五重塔を見上ぐれば王一族の御最期思

ほゆ

王たちのみ霊鎮まる塔なりと断じ給ひぬ夜久

の大人はも

熊本県立御船高等学校教諭 今村武人

法隆寺訪問

日ごろより学びきたれる聖王の御寺にわれら

今訪れぬ

### 第十三班

神奈川県立小田原高等学校教諭 原川猛雄

数多なるお弟子とともに過ごさるる師のお言

葉の尊く聞こゆ

熊本市役所 折田豊生

友みなと揃ひて参る法隆寺松の緑の日に鮮けし  
玉砂利を踏みつつ歩む境内に夏陽いそそぎ蟬  
の声する  
夏空にそびえて立てる五重の塔古びて遠き昔  
偲はゆ

きざはしを登りて釈迦の涅槃像をろがみ国に  
ことなきを祈る  
聖徳王を慕ひ訪ひ来しあまた人の撫でけむ柱  
を我も撫でゆく  
手をかざし仰ぐ青空澄みわたりお堂のいらかに  
夏陽照り映ゆ

阿部サナエ

小川三夫棟梁のお話をうかがって  
あこがれの匠の面ははればれと聲もほがらに  
思ひを語らる

島村善子

小川三夫氏に法隆寺をご案内いただいて  
玉の汗ふきつつ聞きぬ師のことば往時の匠の  
心しのびて

介護職 坪井好子

いにしへの塔に残れる技の跡に飛鳥のたくみ  
らの心映えを想ふ

榎はせがわ 関本順子

みなと共に語りつつ廻る法隆寺いつしか友ら  
と心融けゆく

清水希久子

亡き母とたづね来にける法隆寺今日は我娘と  
歩みゆくかな

保育士 奈良清美

小川三夫先生のお話をお聴きして  
優美なる古き廻廊に魅せられて師のみ言葉に  
暑さ忘るる

湯亭こんや 青砥潤子

法隆寺遠き昔を偲びつつ日頃の雑念清められ  
けり

## 第二十一班

調神社 岸野克己

法隆寺

廻廊のまろき柱に触れみれば大宮びととなり  
し心地す

玉虫厨子捨身飢虎図を見て

いとほしき我が身を捧げ祈れりしそのみ姿に  
心黙しぬ

折尾愛真短期大学 松田 隆

年を経し御塔そびゆる大空に大和の国のいに

しへ思ほゆ

仏像を眺めてまなこをかがやかす乙女の姿に  
私は驚く

榎マツシイロマン 古澤浩司

いにしへの技を尽せし五十塔青空を背に静か  
にたたずむ

元小田原市立矢作小学校長 岩越豊雄

玉虫厨子  
まつすぐにためらいもなく己が身を飢虎に与  
ふる厨子の絵かなし

み衣を虚空になびかせまつすぐに崖にとびお  
りるみ姿美し

己が身を飢虎に与ふるみ姿に山背王のみ心し  
のぶ

榎ビッグ・エー 篠本和哉

秋といへどせみはしばななきなほ暑く汗吹き  
出でてふらふらになる

榎ビッグ・エー 南雲雄斗

セミの声鳴きしく暑き夏の午後涼しさ求め氷  
食ひたし

国立都城病院 小柳左門

法隆寺を訪れて  
久々に会ひたる友とめぐりゆく道は楽しも日  
は暑けれど

師の君もともにいませばいかばかり楽しかる

らむみ寺めぐりは

廻廊のまろき柱のやはらかき木肌なでつつ

古いにしへ おもほゆ

聖徳の太子を慕ひしなき友をしのびつつゆく

み寺の庭を

三福水産株 三福完治

法隆寺柱の年輪に手をおけばいにしへの鼓

動の伝はる心地す

## 第二十二班

綱はせがわ 佐藤城司

先人の命伝ふる斑鳩のみ寺の姿に心打たる

産経新聞社 正論調査室 大内保治

平成十九年八月十五日靖國神社にて詠めり

この日をば忘るる人の多くともわれは登らむ

九段の坂を

故名越二荒之助先生を偲びて

極寒のシベリア耐へし先生は飄々として笑顔

絶やさず

伊佐ホームズ株 東國 肇

夏の日の日差し厳しき斑鳩で五重の塔にかけ

るふの立つ

日本タルク株 内田厳彦  
友集ふ宿は何処と訊ねつつ漸く着きぬ玉蔵院

に

太田文雄先生の御講義を聞きて

隣国の権謀策略凄まじきかくとは知らず講義

聞くまで

綱ビッグ・エー 木暮幸一

過ぎし日に共に訪ねし温泉に今一人行きなつ

かしく思ふ

綱ビッグ・エー 高橋佑太

小川三夫先生の御講話を聞きて

「執念を持ちて物をば作りたる」人育つるは

難しとのたまふ

「執念」を持ちて仕事に打ち込まるる厳しき

姿に心うたる

学校法人亜細亜学園 小林 勉

夏の日を浴びて汗かく我が前に観音像は静か

にたてり

札幌西陵高等学校教諭 本田 格

たくみにも粗木あらを削りうつくしく飛鳥らは

柱作れり

うろこ雲高く広がる奈良の地のみ寺尋ねてふ

るき道行く

人住まぬ五重の塔は神さびて心柱なくかたき

地に立つ

今このわれを見出すことと知る聖賢の教へ  
深く学ばは

社会福祉法人玄洋会昭和学園 原崎智仁

「執念」を持ちて取り組む大切さ説かるる講

義に何度もうなづく

われもまた強き信念胸に秘め日々の仕事に励

みゆきたし

## 第二十三班

日本植生株神奈川営業所 浦田祐輔

我が友ら話を聞きてゐる中で我は茹なだりて日

陰に逃るる

日陰より五重塔を見上ぐれば暑き中にも雄々

しく立ちたり

日章工業株 村上貴一

合宿に向かふ車中にて

ドア作りの鉄板運びて汗だくに働く日々を思

ひつ向かひぬ

羽後信用金庫 須田清文

百済観音

御身ほそくすらりと立ちし御御足おみあしに衣なびか

す百済観音

かんばせをあふげば御眼も口もとおおだやか

なりける観音菩薩よ

左手のほそくのびたる指先に持たれし瓶のゆ

るるかと思



時超えて今も立ちます観音の息吹き静かに伝はりてきぬ

大村郵便局郵便課 橋本公明

鏡信弘さんの短歌導入講義を聞きて

自らの短歌に初めて触れし時のさまを語りぬ  
明るき声で

(株)福岡県中小企業経営者協会 松藤祥雅

百済観音像を拝し

黄金の光はなちしごとく見え気高き姿に黙し  
をるなり

陸上自衛隊 船山尚志

大講堂薬師如来に手を合はせて

いにしへゆあまたの人の御仏に祈りし姿変は  
らず続きぬ

(株)ビッグ・エー 斎藤隆宏

法隆寺

歴史ある古きお寺に今しきて見れば思はず足  
の止まりぬ

(株)都市防犯研究センター 小田村初男

古の太子のみ跡留めたるこの地に集ひ学ぶ  
ぞうれしき

身を持ちて太子の教へ示されし御子の偲ばゆ

斑鳩の寺

千歳超え太子のみ跡伝へしは木の命生かせし  
匠らの業

## 第二十四班

(株)ビッグ・エー 柿野剛司

折角の奈良法隆寺の拝観も時間に追はれ味は  
ふ間なし

松田都市開発(株) 柴戸秀之

斑鳩に静かに行む法隆寺匠の思ひを今に伝へ  
り

中島法律事務所 中島繁樹

夏日さす伽藍の庭に我らみな匠の大人の語る  
を聞きぬ

いにしへゆ今に至れる斑鳩の五重の塔の生ま  
れを知りぬ

NTT西日本大阪支店 吉田 博

真夏の法隆寺を訪ねて

金堂をふきぬくる風涼しくて古の知恵に思ひ  
めぐらす

金堂に安置されたる釈迦三尊やさしき顔にて  
我を迎へり

東京都豊島区立真鴨小学校 上甲能也  
太田文雄先生の御講義を聴きて

知らぬ間に為さるるままの我が国の有様聴け  
ば悔しきこみ上ぐ

(株)バントレーディング 森重忠正

夢殿をぐるりめぐれば日陰ありセミの声さへ

涼し気に聞く

若きより刃とき修行を続けしと言つてたくみ  
は木をけづり見す

(株)福岡県中小企業経営者協会 安武 佑

法隆寺の古き伽藍にたたずみて塔の歴史に思  
ひをさせぬ

## 第二十五班

九州マックス(株) 斉藤 豪

忙しき日々を離れて法隆寺の庭歩むこのとき  
の貴し

(株)ビッグ・エー 高畑博正

「法隆寺大宝蔵院前にて」

物影に吾一人ゐてふと思ふ止まりしごととき時  
の流れを

昇栄機工(株) 坂本 覚

千五百年受け継がれてきたる法隆寺を守  
る精神と重ねて

御親らの受け継ぐ道のほの見えて逢えずに逝  
きし兄姉思ふ

村式(株) 住吉 優

法隆寺を歩みて見上ぐる屋根の間に空澄み渡  
りすがすがしきかな

千年の昔の僧を偲びつつ青空のもと玉砂利を

踏む

産経新聞社 塩塚 保

葉丸保樹

元日立プラント建設(株) 日高廣人

斑鳩の里にたたずむ夢殿の秘仏は夏間まどろ

暑きなか友と語らひ進みゆき五重の塔を間近

宮大工小川三夫氏のご講話をお聴きして

みて見ゆ

に見上ぐる

不揃ひの木を組むがごと不揃ひの弟子らに託

蒼天に塔そびえたる法隆寺蟬音消えて閑な

聖徳のゆかりの寺社を巡り来て歴史を学ぶこ

す匠の意氣を

りけり

とぞうれしき

法隆寺にて

百済なる観音像はほほ笑みて斑鳩の里に立ち

とぞうれしき

斑鳩の五重の塔を見上ぐれば夏の青空まぶし

給ひけり

古の姿のままに法隆寺静かに立ちて我を魅了

かりけり

給ひけり

す

斑鳩の寺に覺を寄進せり墨黒々と名前を書き

第二十六班

伊藤三樹夫

法隆寺

鳥栖市役所 西山八郎

日本植生(株) 金子堅太郎

信貴山に登りて会ひし友どちの顔ぞなつかし

み教へを学ぶ僧らの通ひこしみ寺を守る長き

となす

隔たりし三十余年の年月も会へばたちまち昔

土堀は

となく

にもどりぬ

塗り重ね塗り重ねして厚き土堀保ちこし人の

金堂の御仏みれば我が心静けく吾を諭すがこ

法隆寺の塔の真下でなつかしき友と並びて写

いたつ

とし

真を撮りぬ

労きと思ふ

航空自衛隊静浜基地 中原 治

元日産自動車(株) 古川 修

見上ぐれば重なる臺のその上に五重の塔の

講話「不揃ひの木を組む」にて

八月十七日法隆寺参詣

そり立つ見ゆ

ヤリガンナおっかなびつくり引いてみて嬉し

秋の日に亡き友参りし法隆寺友をしのびて皆

陸上自衛隊第十六普通科連隊 森 浩典

くもあり恥づかしくもあり

と参りぬ

実際に法隆寺を見て

所用に依り止むを得ず一旦退去して

(山根清君のこと)

古の匠の知恵の尊きを教へられつつただ驚き

九州大学 清水昭比古

廻廊の柱の丸み 説き給ふ師のみ言葉に心

聖徳太子の講義を拜聴して

有難き御講義のさま傳へ聞きわが身哀しも務

過ぎゆきし飛鳥の御代の廻廊を歩みてゆけば

我が国を護りたまひし聖王の御言葉深く心に

めとは言へ

聖王しのばる

刻む

## 国文研

国民文化研究会事務局長 稲津利比古

小川三夫先生のご講話を聴きて

古への堂塔を造管せる工人の込めし心意気を説き給ひけり

工人の「巧の技」は目に見えぬところに工夫をこらせしといふ

工人は完成を急がず木を活かし寿命の長さを心掛けけり

榎ラック 高橋俊太郎

朝の集ひで「我は海の子」を歌ひて

早朝の朝日の下で高らかに歌ひあぐるは清々しきかな

(二回目の作品)

務め終へ積み上がりたる名簿見て飲み干す  
ビールのうまきもあるか

高村光紀

まる味あるぬくもり見せる飛鳥の造り棟梁の説明にたゞに諾けり

山本伸治

車窓より目にする景色の移ろひになつかしき  
覚ゆ古の都に

国民文化研究会理事長 上村和男

大田文雄兄の講義を聞きて

外国にすごせし事をもとにしつ祖国の危ふさ熱もて語りぬ

迫り来る危機を防がむと努め来し君の力を知るぞうれしき

今よりは若き友らを育みつ国のまもりを固めたまへよ

神奈川県立氷取沢高等学校教諭

大日方 学

長内俊平先生の御便りを読みて

合宿に師の御姿の見えまらず御声聞けぬは寂しきことかも

青森ゆいいただきましし御便りを御姿しのびて読みまつりゆく

(二回目の作品)

藤村孝信さんに祭場作りを手伝っていた  
だいて

来られるや猛暑の中を力振り手伝ひ下さる友  
ありがたし

若築建設 池松伸典

法隆寺散策

ふるさとに帰るがごとき思ひして友らと歩み  
時忘れけり

(二回目の作品)

内海勝彦運営委員長の「合宿を顧みて」

を聞きて

合宿を振り返りつつ語りゆく友の言葉の胸に  
せまり来

榎IHIEアロスペース 内海勝彦  
合宿教室開会す

信貴山を合宿の地と決めしよりおとなふ数も  
四たびとなりぬ

見なれたる風景なれど開会を迎へし目には鮮  
やかに見ゆ

IMSグループ本部 最知浩一

小川三夫先生のご講話をお聞きして  
弟子たちとともに寝食一にして匠の道を歩み  
給ふも

いにしへの匠の技のすばらしさやりがんな手  
に語り給ひし

(二回目の作品)

慰霊祭の祭場を準備されし池松伸典先輩  
他若手会員のの方に

先祖らのみたまを夜に招き奉らむと先輩ら齋  
庭をつくり給ひぬ

大つぶの汗をかきつつひたすらに固き地面に  
くひを打ちゆく

いくたびも木づちを振るもなかなかにはがね  
のごとく地面の固し

照りつくる暑き日ざしものどせぬ友らの姿  
たのしく見ゆ

先相らのみたままつりのつつがなく行はれむ  
ことをひたに祈るも

ハローワーク大牟田 古川広治  
釈迦三尊像を拜して

まぢかくに貴きすがたを拜し得てありがたう  
ございますと誦しまつりけり

(二回目の作品)  
日程表を見ながら

あれこれと語り合ひつつ準備せし一コマ一コ  
マよみがへりくる

飯塚市立鎮西中学校教諭 大津健志  
占部賢志先生のご講義を聞きし折りに

坐すことを親近せざれと言ひ給ふ太子の御心  
うれしく思ふ

民思ひ国を思ひし御心をしかと受け継ぎ伝へ  
ていかむ

(二回目の作品)

小野吉宣先生のご講義を聞きし折に

我が国を守りし人と悲しみを背負ひし人の思  
ひ偲びぬ

この思ひ語り伝へることこそが日本人だと我  
は思へり

先生の誇りを持ちて語らるる姿に真の日本人

を見る

真夜中に戦争について聞きにくる友の姿を頼  
もしく思ふ

東洋紡績株式会社 庭本秀一郎

レクリエーションを終へてバスに帰る途中に  
門を出て後ふり向けば五重塔青空に映え雄々  
しく立てり

二年振りに浅野佑弥君と再会して

顔は変はらざれども体格は見まがふほどにな  
りし君はも

(二回目の作品)

高木雅史君

なりはひの合間をぬひて合宿に駆けつけてく  
れし気持ち嬉しも

濱崎史嘉君

苦手とは言ひてあれども元氣よく朝の集ひの  
司会せし君

佐野宜志君

嫌な顔を一つもせずに「することはありませ  
んか」とふ君見てすがし

大津健志君

指揮班の仕事をそつなくこなしつつ寸暇惜し  
んで講義聴く君は

少しでも皆が講義を聴けるやう作業効率上げ  
むと思ひき

小林国平君

的確に臨機応変に任せたる作業をこなす君は  
たのもし

ゆつくりと話す暇のなきままに君帰りゆくを  
惜しと思へり

古川広治先輩

行き届かぬ点をことごとく氣遣ひて自ら動き  
てくれたる先輩は

スムーズに作業進みしは先輩の助けありたれ  
ばこそと有難く思ふ

○

アルバイトの子等が仲良く仕事する姿に元氣  
付けられにけり

最知雄飛君

世の中の事ども問はんと大人たちをつかまへ  
て離さぬ好奇心に打たれり

浅野佑弥君と二年振りに再会して

体格は大きくなれど人なつこき君が性格は変  
はらずにあり

神谷静香さん

頼まれし仕事を楽しむ様子見て心洗はるる心  
地するなり

清瀬麻衣さんの短歌相互批評の折に

指揮班の仕事の後に集まりて夜更けに短歌相  
互批評をす

アルバイト生一人も欠けず集まりて午前二時  
まで語り合ひたり

自らの心に沿ひし言の葉を見出して君すがや  
かに笑む

○ 「ありがたう」「お世話になりました」とふ  
参加者の声に疲れも吹きとびにけり

熊本県立菊池高等学校教諭 久保田 真

(二回目の作品)

落ち着き払って指示を出す指揮班長の庭  
本秀一郎君

参加者を見渡し間を取り指示を出す君の姿を  
驚きで見

不二サツシ(株) 高木雅史

小川三夫先生のご講義を聞き

何一つ伝はらざりし古の技に迫るとふ言葉に  
驚く

(二回目の作品)

素晴らしと合宿の感想語りたる友らと再び会  
ひたきものかな

中外鉱業(株) 濱崎史嘉

(二回目の作品)

この険しき山道続く合宿地にて日々の生活律  
せんと思ふ

北九州市立医療センター技師 森田仁士  
山根清兄をしのぶ

合宿に心くだきし君なればみ霊は今年も集ひ  
てあらむ

君の歌を詠みあぐまきは声つめて君をしのぶ  
や壇上の先輩も

(二回目の作品)

朝の集ひに「我は海の子」を歌ふ

たちまちに声はそろひてさはやかに集ひの庭  
に歌声響く

あまたなる人の心をたちまちにひとつに統<sup>す</sup>べ  
る唱歌たふとし

興銀リース(株) 小柳志乃夫

占部賢志先輩のご講義を聴きて

何をでなく如何に書かれしかが学問の要と  
のらせる言の葉強し

太子の独創をことさら無視せる言論の誤謬鋭  
くつきたまひけり

壇上に獅子吼したまふ先輩の言の葉強く迫り  
くるなり

湯亭こんや 青砥誠一

長男諒典夏期合宿に参加

親子して夏期合宿に参加せしこの喜びを何に  
たとへむ

元・講談社 磯貝保博  
法隆寺中門にて

たをやかな丸みを帯びて建つ柱人の姿に似て  
美しき

いにしへの飛鳥しぬびつ目を閉ちて柱のひだ  
をやさしくなぞる

(二回目の作品)

もどるべき道に太子はおはしますみ心しぬび  
て日々をはげまむ

拓殖大学客員教授 山内健生

岸本弘兄の「太子の御本」輪読導入講義  
「体」にて読み重ね来しと過ぎし日をかへり

み語るを心して聞く  
朗々と声もさやかに語りゆくみ声のしらべ心  
地よきかな

聖王のみ書みかの御講義いまここにわれらの前に  
よみがへりたる

いまは亡き師のおもかげの思はずも脳裏をよ  
ぎりぬみ声聞きつつ

いかばかりみ心かたむけ今日の日に備へられ  
しか思ふもかしこし

(二回目の作品)

一すじの大きな道筋うかびくる信貴山合宿いま  
終らむとす

太古よりつらなり来たれる日の本のみのち

日々に仰がしめらる

太田文雄兄・占部賢志兄・岸本弘兄・小野吉宣兄、次々に登壇す

壇上に立ちしみ友ら相次ぎてあつき胸内語り行くなり

日々の学びのさまのうつつにもしのぼるるかなみ言葉聞きつつ

日の本の国のいのちにつらなりて生くるまことをみ友ら説けり

混迷の時代なれどもひとすぢの道明らむるほかになからむ

おのおのおもみ思ひあるも一筋の道をひとしく仰ぎ行きたし

日鐵ブランド設計 榎 今林賢郁  
宮大工小川棟梁のお話を聞きつつ仰ぐ五重の塔よ

いにしへの姿をそのまま真夏日のみ空に向ひて塔は立ちたり

榎寺子屋モデル 山口秀範  
法隆寺五重塔を仰ぎて

師の君のみ教へ通り塔の軒の真下に立ちて空仰ぎたり

四層と二層の屋根の僅かばかり入りてぞ見ゆる四角いづれも

千年を超えて佇むこの塔の技のひとつを今垣

間見つ

飛鳥より時代時代の工人の切なる思ひの支へ来し塔

神さぶる塔の彼方の青空に刷きたる如き秋の雲浮く

占部賢志大兄の御講義を拝聴して  
住友電装 榎 布瀬雅義

満場にひびきわたれる御声もて太子の御業語りゆきたり

朝 国民文化研究会副会長 寶邊正久

大禪の広場の上の朝空を仰ぎて思ふここに来ぬ友を

馬馳せて太子のみことの行かしけむ大和生駒にわれらいまあり

遠くより太子のみことのみ教へを仰ぎますらむ老いのますらを

法隆寺 聖徳太子のみ姿仰ぐ思ひしてみ寺をめぐる友らと共に

六十年前共にめぐりし友やいまなき人なれど何ぞなつかしき

(二回目の作品) もろともに力合はせて信貴山合宿遂げたりといま友に告げなむ

秋の日のふりそそぐこの信貴山を思ひつつあらむ友を思ふも

国民文化研究会会長 小田村四郎

法隆寺参詣 真夏日に山下りゆくいかるがの里の町並み見はるかしたつ

いくたびか訪ねまつれる寺なれどけふ詣づるは殊に嬉しき

聖徳の皇子のみ教へ改めてつぶさに仰ぐつどひの中に

千三百年経にける飛鳥のたくみらの木組みのいのち今も美し

炎熱の中をいとはず語らるる大人の言葉に力こもれり(小川三夫先生)

星野貢、名越二荒之助両兄今年逝去さる夏毎に語り合ひたる我が友の姿見えぬが悲しかりけり

長内俊平、末次祐司両兄のみ文を拝見して

体調を崩して合宿に來られぬとふ友らはいかに過しますらむ

体調を崩しながらもすばらしきみ歌賜びけるみ心偲ぶ

(二回目の作品) 聖徳の皇子にゆかりのこの地にて学びし日数

楽しかりけり

朝日うけ緑しるけき広庭に友らと歌ふ小学唱歌

懐しき高き調べを歌ひ継ぐことの尊さを改めて思ふ

元九州造形短期大学教授 小柳陽太郎  
慰霊祭にて

(二回目の作品)

さきゆきし友らのおもはしのばれて胸迫りくるけふのみまつり

カーボンテック(株) 天本和馬  
つぎつぎと新たな事務所の押し寄せて心静かに

和歌つくる間もなし  
つくらむと思ひはつれのど人皆の忙しき声に

心せかるる

(二回目の作品)

法隆寺散策

中門に至りてみれば柱列は屋根を支へつ廻りて展がる

その中に遠き飛鳥の工人の手になりたるといふ柱もありたり

幾度の災ひもあるらし千年を越へて立ちたる姿うつつし

NPO法人教育オンブズマン 稲田健二

法隆寺にて

木ぐみ指し飛鳥平安と語らるる匠の姿も時空

を越えて

(二回目の作品)

同信の仲間とともに寝起きして語る楽しさかけがへもなし

事務局

埼玉県北本市立宮内中学校 最知雄飛

法隆寺歴史の重みを感じとり新たなことがわかる思ひす

(二回目の作品)

朝起きてまだまだねむいが外へ出てラジオ体操でねむ気がさめた

東京都立小金井北高等学校 神谷静香

足を止め見入つてしまふその表情すらりと立ちし百済観音

(二回目の作品)

あたたかくご苦労様と声掛けられ体の疲れもすぐに消え去る

姫路市立姫路高等学校 清瀬麻衣

八月の暑さの中の法隆寺に涼しげに立つ玉虫厨子

(二回目の作品)

第五十二回全国学生青年合宿教室にて

初めての経験させていただきこの思ひ出は

心に残らむ

東海高等学校 浅野佑弥

法隆寺タイムスリップしてみた昔の空気を肌で感じて

(二回目の作品)

この夏の貴重な経験素晴らしき思ひ出として心に残る

合宿地に寄せられた御歌

福岡 小柳陽太郎

信貴山の合宿を偲びて(八月九日)  
焼くごとき日ざしの中を全国の友ら集ふらむ

信貴山として

国のいのちいまだならぬ時にして全国ゆ友らつどふうれしも

しとどに落つる汗のごひつつ友らあまたいま

集ふらむ信貴山として  
あふぐみ空にま白き雲の重なりてわき立つ見れば心ゆらぐも

聖徳太子のかなしき一世とゆかり深き山とし

思へばただならぬかな  
遠き日のかの信州の菅平すがだいらに集ひませし日を

偲びやまずも  
今にして立たずば国の一すぢの道は断つべし

立たざらめやも

佐賀 末次祐司

遥かに慰霊祭を拝みまつりて

夜も更けて静寂の中に信貴山清浄き齋庭に  
篝火は燃ゆ

天翔り地駈りつつ皇国守るみ祖の神は天降り  
ますらむ

聖徳の太子をば敬慕ひ一筋に集ひし同胞を導  
き給へ守らせ給へ

死してなほ護国の鬼と皇国護る御霊安かれと  
ひたに祈るも

北海道 大町憲朗

全国の友信貴山の地に集ひ心をみがくこと  
かしこさ

国の様はいかに変れどひとすぢの太子のみ心  
に力いたたく

日の本の心学びてみおやよりうけつぎきたり  
し国を守らむ

合宿のいとなみにひたに心くだき今日を迎へ  
し内海兄のみ心よ

一人が三人五人となりて日の本の道つたへむ  
とのみ心今もかはらじ

世の中の波風あれど太子の御本に源ありと  
ふ先輩のみ言葉よ（岸本弘大兄のお言葉を思

ひ出し）



## あとがき

秋冷の候、皆さんにはその後如何お過ごしでせうか。信貴山で共に学び、語り合つた「合宿教室」から早や三ヶ月が過ぎようとしてをります。このたびややくこの「感想文集」を皆さんのお手許にお届け出来る運びとなりました。この「感想文集」は、「合宿教室」の最後に走り書きしていただいた感想文と短歌を編集したものです。

編集作業は、まづ、それぞれの班の班長又は班付の方々（国民文化研究会会員）に、感想文と第二回の創作短歌を添削・編集していただくことから始めました。

皆さんお一人お一人の心のもつた文章・短歌を丹念に読み返し、編集してゆくことは、神経を使ひ、時間のかかる作業ではありませんが、皆さんの生々しい言葉にお一人お一人の感動を偲ぶことのできる心楽しい一時でした。それぞれの方々に編集していただいた編集方針は以下の通りです。

### (一) 「感想文」について

原文をできるだけそのまま掲載することを基本方針としました。ただし、ページ数の関

係で、執筆者のお心のうちが最も強く表現されてゐると思はれるところを摘録しました。

文意の不明瞭なところは、執筆者のお気持ちを通りながら、原文のニュアンスが損なはれないやう慎重に加筆しました。なほ、「かなづかひ」については、原文を尊重し、漢字及び文法上の誤りにについては訂正してをります。

### (二) 「短歌」について

合宿では二回にわたつて短歌を作りました。第一回目ものは、全参加者それぞれ一首以上を洩れなく巻末の「短歌詠草」のところに収めました。また、感想文の執筆の折につくつていただいた第二回の短歌は、それぞれの感想文の末尾に入れました。感想文と同じく、文法上の誤り等は訂正いたしました。

この「感想文集」作成のためには、班長および班付の方々以外にも多くの方々の御協力を得ました。お忙しいお仕事、学業の中で、休日や終業後の時間をさいて御協力いただきました磯貝保博、小柳志乃夫、池松伸典、内海勝彦、最知浩一、桑木康宏、高橋俊太郎、武田有朋、高木雅史、小柳雄平、濱崎史嘉、佐野宜志、本間隆宏、高橋佑太の各氏に心か

ら御礼申し上げます。

カメラ・レポートの写真は中尾国博さんにお世話になりました。

いろいろな方々のご努力によつて出来上つた「感想文集」を、ご精読下さいますやう切願します。

読み進むにつれて、「合宿教室」の三泊四日間の様々な感動が鮮明に甦つてくる事と思ひます。三ヶ月前に得た感動を単なる「思ひ出」に終はらせることなく、起居を共にした真に語りうる友との交流に、また新たな求道への出発点とされるやう切に願つてをります。なほ、ご精読後には、是非とも班長、班付の方々、班友に一筆便りを差し上げていただきたく、併せてお願い申し上げます。

(北浜 道記)



(資料)

第五十二回「合宿教室(奈良「信貴山」)」「感想文集

非売品

平成十九年十一月二十五日発行

編集兼発行者

社団法人 国民文化研究会

理事長 上村和男

編集長 北浜道

東京都渋谷区東一―十三―一四〇二号

〒一五〇―〇〇一―

電話 〇三―五四六八―六二三〇

FAX 〇三―五四六八―一四七〇

